東京外国語大学『語学研究所論集』30(25), 2025 (Published 2026)
Tokyo University of Foreign Studies, *Journal of the Institute of Language Research* 30(25), 2025 (Published 2026)

〈特集「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」他〉

マルタ語：
特集補遺データ「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」「他動性」「（連用修飾的）複文」「情報構造と名詞述語文」「情報標示の諸要素」「否定，形容詞と連体修飾複文」

Maltese:
'Passive expression', 'Aspect', 'Modality', 'Voice and related expressions', 'Expressions of possession and existence', 'Transitivity', 'Complex sentences of adverbial modification', 'Information structure and nominal predicate sentences', 'Markers of information structure' and 'Negation, adjectives, and complex sentences of adnominal modification'

宮川 寛人
MIYAKAWA Hiroto

東京外国語大学大学院博士前期課程修了

要旨：本稿は，語研論集の全 10 特集について，マルタ語のデータを提供するものである．

最初にマルタ語の言語学的な位置，話者地域の状況について説明した．その後，概略的な音韻・形態・統語の文法的な説明を文献を基にして整理した．その後，10 特集分の 250 の例文を提示し必要に応じてコメントを与えた．筆者の調査能力の不足や，媒介言語のひとつたる英語からの少なからぬ干渉など問題もあったものの，マルタ語そのものの言語特徴を捉えるのに十分な量のデータを得た．その様相を端的に言えば，その系統から由来するセム語的な特徴がロマンス諸語との言語接触を経て独自に再構成されたものと表現できる．その再構成は，単なる多量の借用表現の存在以上に，本質的な言語体系の根幹に観ることができる．

Abstract: This article provides Maltese linguistic data for all 10 sections of *Journal of the Institute of Language Research*.

I first outline the linguistic classification of Maltese and the situation of its speaking community. Then I organize an overview of the phonological, morphological, and syntactic grammar based on previous literature. After that, all of the 250 example sentences of This article provides Maltese linguistic data for all 10 sections of *Journal of the Institute of Language Research* are presented, with additional commentary. My insufficient research capacity and considerable interference from English as an intermediary language are easily pointed out. Despite such limitations, I think I have obtained an amount of data sufficient to capture inherent linguistic characteristics of Maltese. These characteristics consist of a unique grammatical system in which a Semitic grammar inherited from Arabic forms one layer, while grammatical features originating from Romance languages such as Italian form another. The system is observed not merely in the presence of extensive borrowings, but in the core structure of Maltese itself.

DOI: https://doi.org/10.15026/0002001477
キーワード：マルタ語，セム諸語，ロマンス諸語，言語接触
Keywords: Maltese, Semitic languages, Romance languages, Language contact

本稿の著作権は著者が保持し，クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス（CC-BY）下に提供します．
https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

1. はじめに

マルタ語は，アフロ・アジア語族セム語派に属する．本稿は，マルタ語から『語学研究所論集』10 特集分のデータを提供するものである．インフォーマントは，マルタ語の母語話者（1995 年生，Mosta 出身）である．インフォーマントは，英語のほか，日本語にも通じている．本稿で扱うデータは，インフォーマントに対し『語学研究所論集』全 10 特集分の日本語例文と，その英訳（風間 2020）を提示し，日・英の両例文からマルタ語訳を作成していただいたものを使用する．データの収集は，筆者が 2024 年 2 月下旬にマルタ共和国に赴いた際に行った．ここに，インフォーマントへの感謝を記す．

マルタ語は，よく知られているように，系統的にアラビア語変種の一つである．アラビア語方言学においてその西方群（マグリブ方言）に分類される（Rossi 1936: 213）．主要な話者は，マルタ共和国（マルタ島，ゴゾ島，コミノ島から成る；図 1）において，35 万人を数える[1]．国外においても，複数のマルタ語話者のコミュニティがある（オーストラリア，カナダ，合衆国，イギリス；Fabri 2010: 791）．

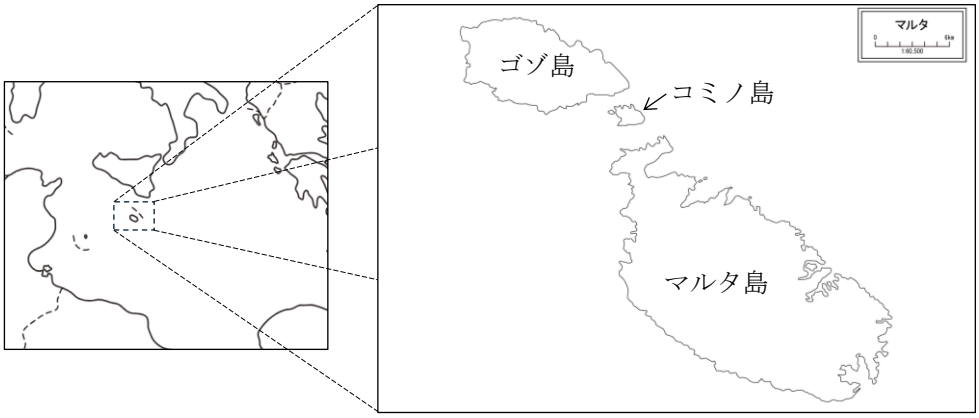

図 1: マルタ共和国の位置と構成
（白地図の出典：帝国書院（左図），白地図専門店（右図）；外枠，図の連結，島名の表示は筆者による）

例文提示に関する表記について，次に述べる．特集の例文は，番号のラベルとして n-ma-z の形式を用いる．n は，特集の番号を示す（1~10；「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」「他動性」「（連用修飾的）複文」「情報構造と名詞述語文」「情報標示の諸要素」「否定，形容詞と連体修飾複文」）．m は，特集内での連番を示す．a-z は，アルファベットの連番を示し，特集例文 n-m 内でさらに細かく分けられた例文を表す．マルタ語の例文は，括弧付の連番（場合によりハイフン（-）とアルファベットを含む）で示す．これらの例文は，直前の特集例文ラベル n-ma-z のマルタ語訳として対応するものである．本文中では，例文番号をブラケット（[ ]）で示した例文がある．この例文は，文献から引用した例文であり，その番号は引用元における番号である，ブラケットで示された例文の番号およびその番号による当該例文への参照は，引用された節中でのみ有効である．例文の文頭に置かれたアスタリスク（*）は，その例文が非文法的であることを示す．例文の文頭に置かれたクェスチョン（?）は，その例文が不自然であることを示す．これら例文の適格性に関する評価は，インフォーマントによるマルタ語例文なら，そのインフォーマント自身による記述，そのほか文献からの引用の場合は，出典の記述に基づく．

[1] マルタ共和国内の話者数の数字は, 2023 年のマルタ共和国政府による国勢調査による（Malta Natinal Statics Office, 2023，https://nso.gov.mt/census-of-population-and-housing/，2025 年 7 月 26 日閲覧）．

2. 文字と発音について

2.1. 正書法

表 1: 正書法

字母	音素	字母	音素
a	/ɐ, ɐː/	l	/l/
b	/b/	m	/m/
ċ	/tʃ/	n	/n/
d	/d/	o	/ɔ, ɔː/
e	/ɜ, ɜː/	p	/p/
f	/f/	q	/ʔ/
ġ	/dʒ/	r	/r/
g	/g/	s	/s/
għ	ø	t	/t/
h	ø	u	/ʊ, uː/
ħ	/h/	V	/v/
i	/ɪ, iː/	W	/w/
ie	/ɪː/	x	/ʃ/
j	/j/	ż	/z/
k	/k/	z	/ts, (dz)/

（依田 2024: 2）.

マルタ語の正書法は 1924 年に制定された（Rossi 1936: 213）．インフォーマントによる例文は，正書法に従っている（本稿への掲載にあたり筆者が加筆したグロス記号は除く[2]）．マルタ語の正書法はラテン文字を採用していて，30 文字のアルファベットからなる．左表は Aquilina (1973: 3)を参考に作成したものである（音素については次節を参照）．そのうち 2 文字は二重字表記（digraph）*ie* /ɪː/，*għ* である．注意すべき表記に次のものがある：*ċ* /tʃ/，*q* /ʔ/，*x* /ʃ/，*z* /ts/，*ż* /z/．二重字表記の *għ*，そして *ħ* は，両者とも文字自体に音価はないが，それぞれが隣り合った場合 [ħħ] と読まれる．母音の長短は書き分けない[3]．以上の記述は，Fabri (2010: 794-795)による．文字自体に音価はない *għ*，*ħ* は，しばしば隣接する母音が長母音あるいは二重母音を構成することを示す（*ragħad* /rɐːt/ ‘thunder’，*ċagħqa* /tʃɐːʔɐ/ ‘pebble’，*għatsa* /ɐːtsɐ/ ‘a sneeze’，*sehem* /sɜːm/ ‘a share’，*dehra* /dɜːrɐ/ ‘appearance’，*mhedded* /mɜːdːɜt/ ‘threatened’；Borg and Azzopardi-Alexander 1997: 299）．二重母音の表記は次の通りである（*aw* or *għu*：/ɐʊ/, *aj* or *għi*：/ɐɪ/, *ew*：/ɜʊ/, *ej* or *għi*：/ɜɪ/, *ow* or *għu*：/ɔʊ/, *oj*：/ɔɪ/, *iw*：/ɪʊ/；Borg and Azzopardi-Alexander 1997: 299）．表記（‘）は，語末における *għ* 綴りの省略，あるいは母音の脱落を表す

2.2. 音韻論

マルタ語の音韻は，22 の子音と 18 の母音（単母音 11，二重母音 7）からなる（Borg and Azzopardi 1997: 299）．Borg and Azzopardi-Alexander (1997: 299)によれば，子音に /dz/ を数え，23 子音とする見方もある．

表 2: 音素目録（子音，単母音，二重母音）

/m/, /n/	/ɐ/, /ɐː/	/ɐʊ/, /ɐɪ/
/p/, /b/, /t/, /d/, /k/, /g/, /ʔ/	/ɜ/, /ɜː/	/ɜʊ/, /ɜɪ/
/f/, /v/, /s/, /z/, /ʃ/, /tʃ/, /dʒ/, /ts/, (/dz/), /h/	/ɪ/, /iː/, /ɪː/	/ɔʊ/, /ɔɪ/
/j/, /w/, /r,/, /l/	/ɔ/, /ɔː/	/ɪʊ/
	/ʊ/, /uː/	

（Borg and Azzopardi-Alexander 1997: 299 を参考に筆者作成）

[2] 定冠詞 (*i*)*l*-と名詞の間の，ハイフン（-）は正書法でも書かれる．

[3] マルタ語では，母音の長短自体が最少対を作ることはほとんどない（Borg and Azzopardi-Alexander 1997: 316）．

3. 語の形態と配列について

3.1. 形態論

Fabri (2010:792-793) は，マルタ語の形態論について，セム語的なものと，非セム語的のものの 2 種類の局面から論じている．Fabri (2010: 792-793) によれば，マルタ語はセム諸語に典型的に観られる「語根とパターン」（派生や屈折に関わる語形成が内的な母音の変化で行われる）を保持している．Fabri (2010: 793) は，「語根とパターン」の例として 3 子音 *q-s-m* で構成される語根（radical）から次の 5 語が形成される例を提示する：*qasam* ‘split’，*qassam* ‘share out’，*nqassam* ‘broke’，*tqassam* ‘get shared out’，*qasma* ‘a split’．一方で，Fabri (2010: 793) は，ロマンス諸語（特にシチリア語，トスカーナ語，現代イタリア語）や英語との言語接触がマルタ語の語の形態法に深く影響を及ぼしてきたことを指摘している．

名詞　性（男性・女性），数（単数・複数），定性（定・不定）のカテゴリを持つ．性については，自然性によるもの（例：男性名詞 *missier*「父」，女性名詞 *omm*「母」）と，文法性によるもの（例：男性名詞 *lapes*「鉛筆」，女性名詞 *gomma*「消しゴム」）がある．一部の女性名詞の特徴づけるものとして，語尾 *a* が挙げられる．男性名詞に語尾 *a* をつけて，女性名詞を派生させることができる場合もある（例：*student* → *studenta*「学生」）．男女同形の名詞もある（例：*mħallef*「裁判官」）．男女同形の名詞で特に性を示したいときは，名詞 *raġel*「男」，*mara*「女」という語を直後に補う．複数の標示方法は，語尾によるもの，語形を変えるもの（例：*ktieb* → *kotba*「本」），そして単複同形なもの（例：*mħallef*「裁判官」）の 3 種類がある．複数語尾には，*-in*，*-a*，*-iet*（例：*Malti* → *Maltin*「マルタ人」，*għalliem* → *għalliema*「教師」，*siġra* → *siġriet*「木」）などがある．定の標示は，定冠詞*(i)l* を語頭に付加することによって示す（例：*kamra* → *l-kamra*「部屋」）．定冠詞の /l/ は，形態音韻的な規則として後続の語の最初の子音が /t, d, s, z, ʃ, tʃ, ts, n, r/ である時これらの子音と同化する（綴りも変える）．以上の記述は依田（2024）を参考にした．冠詞の表記について，正書法ではハイフン（-）をつけて*(i)l-...*とし後続の名詞などと筆記上で結びつける．本稿ではグロスも正書法に合わせて（-）によって標示（すなわち接頭辞として標示）した．文献では定冠詞（英：definite article）と呼称されるが，従属的な形態素である点に注意が必要である．

代名詞　指示代名詞・人称代名詞とがある．指示代名詞には近遠，数（単数・複数），性（男性・女性）の区別がある（ただし，性の区別は単数においてのみ）．

表 3: 指示代名詞

	男性単数	女性単数	複数
近称（この方，これ）	*dan*	*din*	*dawn*
遠称（あの方，あれ）	*dak*	*dik*	*dawk*

（依田 2024: 48 より）

人称代名詞には，独立して用いられるものと，名詞などに対して従属して用いられるものの 2 種類がある（依田 2024 ではそれぞれ「独立人称代名詞」・「接尾代名詞」と呼んでいる）．本稿では，「接尾代名詞」ではなく「従属人称代名詞」と呼称する．以下が人称代名詞の基本的な体系である．

表 4: 独立人称代名詞

		単数	複数
1 人称		*jien(a)*	*aħna*
2 人称		*int(i)*	*intom*
3 人称	男性	*huwa / hu*	*huma*
	女性	*hija / hi*	

表 5: 従属人称代名詞

		単数	複数
1 人称		*=i*	*=na*
2 人称		*=ek*	*=kom*
3 人称	男性	*=u*	*=hom*
	女性	*=ha*	

（Borg and Azzopardi-Alexander 1997: 195 より筆者作成）

表 6: 否定人称代名詞

		単数	複数
1 人称		*m'ieniex*	*m'aħniex*
2 人称		*m'intx*	*m'intomx*
3 人称	男性	*mhuwiex / mhux*	*mhumiex*
	女性	*mhijiex / mhix*	

（依田 2024: 48 より，依田 2024 における呼称は「否定代名詞」）

独立人称代名詞について，3 人称にのみ，疑問文（「何〜」，「どのような〜」）に使われる形式がある（単数・男性：*inhu*，単数・女性：*inhi*，複数：*inhuma*；依田 2024: 49 より）．

動詞　動詞には完結形と未完結形（4.2 節を参照）および命令形の区別があり，非定形（non-finite）なものとしては能動分詞と受動分詞がある（Borg and Azzopardi-Alexander 1997: 244）．命令形は，形式的には未完結形から接頭辞を取り払ったものである（Borg and Azzopardi-Alexander 1997: 244）．動詞には，擬似動詞（pseudo verb; Peterson 2009）と呼ばれるカテゴリがある．擬似動詞は *għad* 'still' のようにアスペクトを示すもののほか，所有や様態を表現するものなど多様である（Peterson 2009: 187 の表を参照）．擬似動詞では，主語人称が人称代名詞の接語形によって示される（Peterson 2009: 186）．例えば，*għad=u* の *=u* は主語が 3 人称・男性・単数であることを示す．下記では動詞に関連して，形態論の議論から外れるものの，動詞の時制・アスペクトについて簡単に説明する．

時制　時制の標示について，動詞 *kien* 'be' が時制標識として機能する．動詞 *kien* 'be' の未完結形が未来時制を，完結形が過去時制を示す．時制標識は，動詞文なら助動詞の位置（本動詞の前）に置かれる．コピュラ文なら時制標識がコピュラを兼ねる．上記の記述は Fabri (1995) に依る．

アスペクト　完結形・未完結形とアスペクト小詞の組み合わせによって諸種のアスペクト形式が構成される（4.2 節「アスペクト」を参照）．

形容詞　形容詞は数・性のカテゴリを持つ（不変化の語もある）．多くの形容詞は比較・最上級の形式を持ち，比較・最上級は不変化である．（以上，Borg and Azzopardi 1997: 108 の記述を参考）．名詞を修飾する形容詞は名詞に後続し，名詞の性・数に一致する．定冠詞の付いた名詞を修飾する時，形容詞にも定冠詞がつく場合がある（以上，依田 2024: 53 による）．

前置詞　前置詞は，名詞（定冠詞がついて名詞化した形容詞を含む）またはその句に前置するか，接語代名詞とともに用いられる[4]（Borg and Azzopardi-Alexander 1997: 69, 137-138）.

表 7: 前置詞

間接目的語 **対格標識（有生物）**	*lil* ‘to’
所有関係	*ta’* ‘of’
受動文の動作主 **比較の対象**	*minn* ‘by, than’
移動	*minn* ‘from’, *sa* ‘up to’, *lejn* ‘towards’, *għal* ‘for’
場所	*għand* ‘at’, *fi* ‘in’, *ġo* ‘inside’, *fuq* ‘on, above’, *taħt* ‘under, below’, *wara* ‘after, behind’, *quddiem* ‘in front of’, *bejn* ‘between’, *ħdejn* ‘beside’, *maġenb* ‘next to’
時間	*qabel* ‘before’, *wara* ‘after, behind’
道具	*bi* ‘with, by’
付帯	*ma’* ‘with, for’ ↔ *bla* ‘without’, *kontra* ‘against’
様態	*bħal* / *bħala* ‘as, like’
話題	*dwar* ‘about’

（Borg and Azzopardi-Alexander 1997: 137-138 および依田 2024: 57 の記述より筆者作成）

依田 (2024: 57) によれば，2 語以上からなる前置詞もある（*bil-permess ta’*「〜の許可を得て」，*barra minn*「〜以外には」，*faċċata ta’*「〜の向かいに」，*ġo fi*「〜の中に」）．依田 (2024: 58) によれば，前置詞 *bi*，*fi*，*ġo*，*għal*，*lil*，*ma’*，*minn*, *ta’* は，定冠詞と結合する．さらに，依田 (2024: 58) によれば，前置詞 *bi*，*fi*，*ma’*，*ta’* は，後続の語の語頭が CV-，V-，*għ*V-，*h*V-である場合，短縮形 *b’*，*f’*，*m’*，*t’* が用いられる．

前置詞 *lil* ‘to’ は対格標識としても機能する．対格標識 *lil* は，有生の直接目的語に前置される（Borg and Azzopardi-Alexander: 136-137）．本稿では，対格標識としての前置詞 *lil* ‘to’ を OBJ とグロス標示する．

以上のほか，数詞・量詞・副詞などのカテゴリを設定し得る．

3.2. 統語論

名詞文　時点が現在である表現では，繋辞の使用は義務的ではない．述語の種類によって，独立人称代名詞（表 4）の諸種の形式が繋辞として用いられる．過去や未来の時点における表現では，動詞 *kien* ‘be’ が独立人称代名詞に代わって繋辞の役割を果たす．

[4] Borg and Azzopardi-Alexander (1997: 69) によれば，一部の前置詞は名詞句などなしに単独で副詞として機能する．

[350] *meta mar isfel jientla-jt* ***fuq***
when go:PFV.3SG.M down1SG go_up:PFV-1SG **up**
When he went down I went upstairs

（Borg and Azzopardi-Alexander 1997: 69；グロスは筆者による）

本稿では，名詞（句）に前置するもののみを前置詞と呼び，例文[350]のようなものを前置詞とは呼ばない．

[247] *ħi=ja* ***(hu)*** *tabib*
brother.M.SG=1SG **(COP.3SG.M)** doctor.M.SG
My brother is a doctor.

[249] *ħi=ja* ***kien*** *tabib*
brother.M.SG=1SG **be:PFV.3SG.M** doctor.M.SG
My brother was a doctor.

[250] *omm=u* *se* ***t-kun*** *(qiegħed-a)* *l-knisja*
mother.F.SG=3SG.M PROG **3SG.F-be:IPFV** (stay.APRT-F.SG) DEF-church.F.SG
His mother is going to be at church.

（Borg and Azzopardi-Alexander 1997: 49 より；グロスは筆者による）

主語に代名詞を用いた文では，ふつう繋辞は使用されない．

[266] *int* *tabib*?
2SG doctor.M.SG
Are you a doctor?

[267] *jien* *għajjien* *ħafna*
1SG tired.M.SG a_lot
I am very tired.

（Borg and Azzopardi-Alexander 1997: 52 より；グロスは筆者による）

否定文では，現在の時点における表現でも，繋辞が義務的である．繋辞には，主語と人称・性・数が一致した否定人称代名詞（表 6）を，あるいは否定人称代名詞の 3 人称・単数形 *mhux* を一致の制約なしに用いる（本稿では *mhux* をすべて単に NEG とグロスしている）．

[271] *it-tfal* ***mhumiex*** *għajien-in*
DEF-child.PL **COP.NEG.3PL** tired-3PL
the children are not tired.

[272] *intom* ***m'intomx*** *magħ=na*
2PL **COP.NEG.2PL** with=1PL
you are not on our side.

[273] *it-tfal* ***mhux*** *għajien-in*
DEF-child.PL **NEG** tired-3PL
the children are not tired.

[274] *intom* ***mhux*** *magħ=na*
2PL **NEG** with=1PL
you are not on our side.

（Borg and Azzopardi-Alexander 1997: 52-53 より；グロスは筆者による）

以上の記述は，Borg and Azzopardi-Alexander (1997: 49-53)を参考にした．

動詞文　マルタ語で最も無標な文構造は SVO 語順である（Fabri 2010: 793-794）．Fabri (2010: 793-794)に

よれば，マルタ語は主題指向的（topic-oriented）な性格を有しており，主語以外でも直接目的語・間接目的語・前置詞句・場所などといったものも文頭に置くことができる．否定文については 4.10 節を参照されたい．

4. 『語学研究所論集』特集データ

4.1. 「受動表現」（語研論集　第 14 号）

以下でみるように，マルタ語の受動表現には分析的（analytic）なものと総合的（synthetic）なものとがある．分析的な受動文は，動詞の受動分詞を用いたもので，受動分詞を *kien* ‘be’ / *safaʾ* ‘be left in a state’ / *ġie* ‘come’ に続けて構成される．総合的なものは，動詞語幹に要素 *n*，*t* を付して表現するものである．

要素 *n*，*t* が添加された動詞は，必ずしも受動を意味するわけではなく，他に再帰的な意味や相互的な意味も示す（Borg and Azzopardi-Alexander 1997: 214）．Borg and Azzopardi-Alexander (1997: 214)の例によれば，***tgħallem*** to_be_learnt:PFV.3SG.M ‘he learnt’ といった受動的意味が見出せないものもある．外来語では，一部の例[5]を除き，要素 *n*，*t* による総合的受動は用いられない（Borg and Azzopardi-Alexander 1997: 214）．筆者は要素 *n*，*t* の生産性をうたがう．本稿では，要素 *n*，*t* を，例えば，受動派生に関わる形態素として動詞語幹と区別して分析する，というようなことはしない．ある動詞が，その語幹に要素 *n*，*t* を持ち，かつ語彙的に受動を含意する場合，その語幹全体に対して be_***ed などというようなグロスを付与する．要素 *n* は，語幹の音節構造が CvCvC の動詞に（*kiteb* ‘write’，***nkiteb*** ‘**be** written’，*firex* ‘spread’，***nfirex*** ‘**be** spread’），要素 *t* は CvCvCvC の動詞に付く（*jitbandal* ‘it **is** swung’，*ferrex* ‘spread frequently’，***tferrex*** ‘**be** scattered’）（Vanhove 2010: 4；例は本稿の表記に改めた）．要素 *n* は，/l/，/m/，/n/，/r/ 及び *għ* の直前で，異形態 *nt* を持つ．接中辞的な要素 *t* もあり（*ftakar* ‘remember’），この接中辞的な要素 *t* と要素 *n* は同じ語幹に付きうる（*fehem* ‘understand’，***nfehem / ftehem / ftiehem*** ‘**be** understood’）（Vanhove 2010: 4；例は本稿の表記に改めた）．

1-1　A は B に叩かれた．【直接受身】
Andy was hit by Bob.

(1)　*Andy*　*intlaqat*　*minn*　*Bob*
PN　**be**_hit:PFV.3SG.M　from　PN

例(1)では，要素 *n (nt)*によって受動が示されている（総合的受動）．被動者 *Andy* は文頭に置かれている．動作者 *Bob* は文末において前置詞 *minn* ‘from’ を介して示されている．マルタ語の受動表現は，動作者を明示することが可能である．

1-2　A は B に足を踏まれた．【持ち主の受身，体の部分】
Andy’s foot was stepped on by Bob.

(2)　*sieq*　*Andy*　*intrifs-et*　*minn*　*Bob*
foot.F.SG　PN　**be**_stepped:PFV-3SG.F　from　PN

1-3　A は B に財布を盗まれた．【持ち主の受身，持ち物】
Andy’s wallet was stolen by Bob.
Andy had his wallet stolen by Bob.

(3-1)　*il-kartiera*　*ta’*　*Andy*　*inserq-et*　*minn*　*Bob*
DEF-wallet.F.SG　of　PN　**be**_stolen:PFV-3SG.F　from　PN

[5] Borg and Azzopardi-Alexander (1997: 214) は次の 4 例を挙げている：*uża* ‘he used’/ ***ntuża*** ‘he was used’，*pitter* ‘he painted’ / ***tpitter*** ‘he was painted’，*bandal* ‘he swung’ / ***tbandal*** ‘he was swung’，*partat* ‘he exchanged’ / ***tpartat*** ‘he was exchanged’.

(3-2) *il-kartiera* *ta’* *Andy* *ġi-et* *misruq-a* *minn* *Bob*
DEF-wallet.F.SG of PN come:PFV-3SG.F steal.PPRT-F.SG from PN

調査 1-2 と調査 1-3 どちらも「持ち主の受身」を示す．一方，調査 1-2 は「体の部分」に関し，調査 1-3 は「持ち物」に関するという違いがある．日本語の観点から見れば，調査 1-2 が「A は B に踏まれた」というように意味する事態を変えずに言うことができる．調査 1-3 は「A は B に盗まれた」と言うと事態が変わってしまう．この点で，調査 1-2 が，調査 1-3 よりも，典型的な受身文である調査 1-1 により近い性質を持つ（風間 2010）．インフォーマントは，調査 1-3 について 2 通りのマルタ語訳（例文 3-1，3-2）を示している．例文(3-1)では，例文(1)，(2)と同様に，要素 *n* が用いられている（総合的受動）．例文(3-2)では，動詞 *ġie* ‘come’ と受動分詞 *misruq* ‘stolen’ が組み合わされている（分析的受動）．一方，調査 1-2 では，調査 1-1 と同様，総合的受動の形式しか例示されていない．総合的受動と分析的受動が，典型／非典型的受動表現の別や，あるいは持ち物の譲渡可能性の別と関連があるか興味深いところである．調査 1-7 の部分でも触れるが，単に提示された英語訳の影響を受けたという可能性もある．

例文(3-2)で見たような受動表現における動詞 *ġie* ‘come’と受動分詞の分析的構造は，イタリア語との言語接触の結果生じたものである（Vanhove 2010: 4）．山本(2010)は，イタリア語の受動表現について次のように記述している．

> イタリア語における最も基本的な受動表現は，英語の be 動詞にあたる essere と過去分詞を組み合わせることによって作られる．また，essere の代わりに英語の come にあたる venire と過去分詞を組み合わせて受動態の文を作ることも可能である．
>
> （山本 2010: 153）

1-4 昨日の夜，私は赤ん坊に泣かれた．それでちっとも眠れなかった．【自動詞からの間接受身】
Last night, the baby cried. So, I couldn’t sleep at all.

(4) *il-lejl* *li* *għadd[a],* *it-tarbija* *bki-et*
DEF-night.M.SG SUB past:PFV.3SG.M DEF-baby.F.SG cry:PFV-3SG.F
għalhekk, *ma* *sta-jt* *n-orqod* *xejn*
therefore NEG be_able:PFV-1SG 1SG-sleep:IPFV not_at_all

調査 1-4 の和文は，「雨に降られた」のような，いわゆる被害の受身というべきものである．例文(4)では，受動表現は現れず，英語と同様，能動の形式によって表現されている．

1-5 新しいビルが（A によって）建てられた．【モノ主語受身，一回的】
A new building was built (by Andy).

(5) *i**n**bena* *bini* *ġdid* *(minn* *Andy)*
be_built:PFV.3SG.M building.M.SG new.M.SG (from PN)

例文(5)では総合的受動のタイプが用いられ，動作主もやはり *minn* 前置詞句によって標示できる．マルタ語では，すでに調査 3-1 でも見たが，モノ主語の受動文が可能である．例文(1)で見るような人主語の場合と，動作主の表現の仕方に違いはない．

1-6　カナダではフランス語が話されている．【モノ主語受身，恒常的．動作主が問題にならない場合】
French is being spoken in Canada.

(6)　*il-Franċiż*　*qed*　*j-iġi*　*mitkellem*　*fi=l-Kanada*
DEF-French　PROG　3SG.M-come:IPFV　speak.PPRT.M.SG　in=DEF-Canada

例文(6)では分析的受動のタイプが用いられている．アスペクト小詞 *qed* については次節「アスペクト」を参照されたい．例文(6)は，受動構文によって「フランス語」を主語の位置に置くことで，「フランス語を話す人々」の不特定化を行っているとみることができる．通言語的に，この種の受動表現で不定人称構文が現れる言語がある．受動的な不定人称は，マルタ語でも以下のように報告されている（例文[948]）．例文 [948] では，動詞の主語標示から主語が 3 人称複数であることがわかるが，この 3 人称複数は不特定的なものである．

[948]　*'il*　*Pawlu*　*qatl-u=h*　*b'=daqqa*　*ta'*　*sikkina*
OBJ　PN　kill:PFV-3PL=3SG.M　with=strike.F.SG　of　knife.F.SG
They killed Paul by knifing him
（Borg and Azzopardi-Alexander 1997: 215; グロスは筆者による）

1-7　財布が（A に）盗まれた．【モノ主語受身，モノ主語の背後に被影響者が想定される】
The wallet was stolen by Andy.

(7)　*il-kartiera*　***n**sterq-et*　*minn*　*Andy*
DEF-wallet.F.SG　**be**_stolen:PFV-3SG.F　from　PN

調査 1-7 では，マルタ語訳において総合的受動と分析的受動両者が示された調査 1-3 の場合と異なり，総合的受動での例のみ示されている．調査 1-3 の英訳には "Andy's wallet was stolen by Bob" のほか "Andy had his wallet stolen by Bob" が提示され，一方調査 1-7 で提示された英訳は "The wallet was stolen by Andy" の 1 種のみである．調査 1-3 と調査 1-7 のインフォーマントの回答の違いは英語訳に左右されたものとも考えられるが，この点を明らかにするには英語との対照研究が必要である．

1-8　壁に絵が掛けられている．【モノ主語受身，結果状態の叙述】
A picture is on the wall.

(8-1)　*hemm*　*stampa*　*ma=l-ħajt*
there　pictute.F.SG　with=DEF-wall.M.SG

(8-2)　*hawn*　*stampa*　*ma=l-ħajt*
here　pictute.F.SG　with=DEF-wall.M.SG

調査 1-8 のような表現は，マルタ語では受動表現の範疇になく，英語と同様に存在文の範疇にあるものと考える．

1-9　A は B に／から愛されている．【感情述語の受身，特に動作主のマーカーに注目】
Andy is loved by Bob.

(9)　*Andy*　*huwa*　*maħbub*　*minn*　*Bob*
PN　COP.3SG.M　love.PPRT.M.SG　from　PN

調査 1-9 は感情述語の関わるものである．例文(9)では，繋辞 *huwa* と受動分詞 *maħbub* ‘loved’ が組み合わされている（分析的受動）．感情述語でも，動作主は前置詞 *minn* ‘from’ によって示される．

1-10　A は B に／から「…」と言われた．【伝達動詞の受身，特に動作主のマーカーに注目】
Bob said “...” to Andy.

(10)　*Bob*　*qal*　*“...”*　*lil*　*Andy*
PN　say:PFV.3SG.M　...　to　PN

例文(10)は能動文で表現されている．マルタ語において，発話動詞では受動表現を用いないのが普通なものと考えられる．

1-10-a　A さんは B さんに呼ばれて，今 B さんの部屋に行っています．
Andy was called by Bob, and is in Bob’s room now.

(10a-1)　*Andy*　*issejjaħ*　*minn*　*Bob,*
PN　**be**_called:PFV.3SG.M　from　PN
u　*qiegħed*　*fi=l-kamra*　*ta’*　*Bob*　*issa*
and　stay.APRT.M.SG　in=DEF-room.F.SG　of　PN　now

(10a-2)　*Andy*　*issejjaħ*　*minn*　*Bob,*
PN　**be**_called:PFV.3SG.M　from　PN
u　*qiegħed*　*f’=kamret*　*Bob*　*issa*
and　stay.APRT.M.SG　in=room.F.SG　PN　now

例文(10a)において，日本語及び英語と同様，2 番目の節の主語 *Andy* を省いていることが観察できる．ここでは要素 *t* /t/ が，動詞 *sejjaħ* ‘to call’の語頭の /s/ に逆行同化している．

1-10-b　B さんが A さんを呼んで，A さんは今 B さんの部屋に行っています．
Bob called Andy, and Andy is in Bob’s room now.

(10b)　*Bob*　*sejjaħ*　*lil*　*Andy,*
PN　call:PFV.3SG.M　OBJ　PN
u　*Andy*　*qiegħed*　*fi=l-kamra*　*ta’*　*Bob*　*issa*
and　PN　stay.APRT.M.SG　in=DEF-room.F.SG　of　PN　now

例文(10b)は，日本語と英語と同様能動文である．*sejjaħ* ‘to call’ / *s-sejjaħ* ‘to be called’（例文 10a-1，10a-2）のペアに注目されたい．（能動文）*Bob sejjaħ lil Andy* ↔（受動文）*Andy* ***is-****sejjaħ minn Bob* の対応を得ることができる．対格標識 *lil* OBJ は例文(10a)の受動文で現れない．

4.2. 「アスペクト」（語研論集　第 15 号）

未完結形（imperfective）と完結形（perfective）の 2 つがマルタ語の基本的なアスペクト形式で，動詞の語幹とそれに付く人称・性・数の接辞によって区別される（Fabri 1995: 329）．本稿では，このアスペクト形式に基づいて動詞語幹を分別し，グロスではコロン（:）を用いて動詞語幹の形式を標示している（例：*j-israq*（3SG.M-steal:IPFV）‘he steals’）．

表 8: 動詞のアスペクト形式（例：*seraq* ‘to steal’）

		未完結形		完結形	
		単数	複数	単数	複数
1 人称		*n-israq*	*n-isirq-u*	*sraq-t*	*sraq-na*
2 人称		*t-israq*	*t-isirq-u*	*sraq-t*	*sraq-tu*
3 人称	男性	*j-israq*	*j-isirq-u*	*seraq*	*serq-u*
	女性	*t-israq*		*serq-et*	

（Fabri 1995: 329 より筆者作成）

表 8 にみるパラダイムの中で，最も無標な形式として完結形・単数・3 人称・男性が現れる．そのため，完結形・単数・3 人称・男性が動詞の辞書形・引用形として用いられることが普通である．本稿でもこれに倣うこととする．マルタ語では，表 8 の形式に小詞 *qed*，*sa* が組み合わされて次のようなアスペクト体系が成る（Fabri 1995: 330）．習慣相・完結相は，小詞なしの形式である．

表 9: アスペクト体系

動詞語幹の形式	アスペクト小詞	アスペクト分類	例	
未完結形	-	習慣相（habitual）	*jisraq*	‘he steals’
	qed	進行相（progressive）	*qed jisraq*	‘he is stealing’
	sa	将然相（prospective）	*sa jisraq*	‘he will steal’
完結形	-	完結相（perfective）	*seraq*	‘he stole’

（Fabri 1995: 330 より筆者作成）

小詞 *qed* には *qiegħed*，小詞 *sa* には *se*，*ser*，*ħa*，*sejjer* の別形がある（Fabri 1995: 330；以下の論集例文にも）．なお，Fabri（1995: 330）は，別形の使用にそれぞれ特に意味的な違いは見られないとしている．

2-1　～さん（固有名詞）は／あの人は もう来た．【自動詞の完結相～パーフェクト】
Andy already came.

(11-1)　*Andy*　*diġà*　*ġie*
PN　already　come:PFV.3SG.M

(11-2)　*Andy*　*ġa*　*ġie*
PN　already　come:PFV.3SG.M

(11-3)　*diġà*　*ġie*　*Andy*
already　come:PFV.3SG.M　PN

例文(11)において，アスペクトは副詞 *diġà (ġa)* ‘already’ と動詞 *ġie* ‘come’ の完結形によって示されている．これらの例文の違いは，語順にある：主語-副詞-動詞と副詞-動詞-主語．可能性としては，あと 4

通りの語順が可能である．ここに現れていない他の語順が不自然であったり不能であるということがあれば，[副詞-動詞] がひとつのまとまりとなっていると見ることができる．語順に関しては，次の調査 2-2 でも触れる．

2-2　～さん（固有名詞）は／あの人は もう来ている．【自動詞のパーフェクト】
Andy has already come.

(12)　*Andy*　*ġie*　*diġà*　*(u*　*għad=u*　*hawn(hekk))*
PN　come:PFV.3SG.M　already　(and　still=3SG.M　here)

調査 2-2 は，「もう来た」という事態に加えて，「まだここにいる」という状態を表現しているものである．マルタ語訳では，後半の括弧付を除いた部分は，副詞 *diġà (ġa)* ‘already’ が末位置あることを除いて，例文(11-1) ~ (11-3)と変わらない．インフォーマントは「まだここにいる」という部分を括弧付で示している．このことから，例文(11-1) ~ (11-3)は，おそらくそれだけで「もう来て，まだここにいる」という事態を示しうるのだと推測できる．Fabri (1995: 334) は完結相について，“the bare perfective in Maltese can refer to past events with and without current relevance” と記述しており，したがって例文(11-1) ~ (11-3)は「まだここにいない」・「もうここにいない」のどちらも含意しうるものと考える．副詞 *diġà* ‘already’ が，文全体のアスペクトにどの程度の影響を持っているのかは検討の余地がある．調査 2-1 における例文(11-1) ~ (11-3)との語順の違いも関係しているかもしれない．括弧内の *għad=u* は，「まだ～」を意味する擬似動詞（pseudo verb; 3.1 節を参照）である．

2-3　～さん（固有名詞）は／あの人は まだ来ていない．【完結相の否定】
Andy hasn’t come yet.

(13)　*Andy*　*għad=u*　*ma*　*ġie=x*
PN　still=3SG.M　NEG　come:PFV.3SG.M=NEG

例文(13)では，動詞 *ġie* ‘come’ の完結形が使用され，この動詞に否定表現 *ma...=x* がかかっている．擬似動詞 *għad=u* には否定がおかれていない．

2-4　～さん（固有名詞）は／あの人は まだ来ない．【現在の否定】
Andy hasn’t come yet.

(14)　*Andy*　*għad=u*　*ma*　*ġie=x*
PN　still=3SG.M　NEG　come:PFV.3SG.M=NEG

例文(14)は，例文(13)と同じ表現である．調査票の英語訳が同じものになってしまっているという問題がある．

2-5　～さん（固有名詞）は／あの人は もう（すぐ）来る．【近未来】
Andy will come soon.

(15)　*Andy*　*d(alw)aqt*　*j-asal*
PN　soon　3SG.M-arrive:IPFV

例文(15)では，副詞 *d(alw)aqt* ‘soon’ と動詞 *wasal* ‘arrive’ の未完結形によって近未来の事態についての

表現が示されている．

2-6　（あ！）～さんが来た！【発見】
(Oh!) Andy has come!
(16)　*Ara*!　*ġie*　*Andy*!
INTERJ　come:PFV.3SG.M　PN

例文(16)では，動詞 *ġie* ‘come’ の完結形が用いられている．動作者 *Andy* は，マルタ語の無標な語順 SVO から外れて，文末にある（VS 語順）．この語順は，「発見」のニュアンス，すなわち情報構造的な焦点が影響しているものと推測する．

2-7　昨日～さんが来たよ．【現在と切り離された過去】
Andy came yesterday.
(17)　*Andy*　*ġie*　*lbieraħ*
PN　come:PFV.3SG.M　yesterday

例文(17)では，動詞 *ġie* ‘come’ の完結形が用いられている．「昨日」という時間表現は，文末の副詞 *lbieraħ* ‘yesterday’ が担う．調査 2-2 でも見たように，マルタ語の完結形は，完結（perfective）と完了（perfect）どちらもカバーしている．

2-8　昨日～さんは来なかったよ．【切り離された過去（否定）】
Andy didn’t come yesterday.
(18)　*Andy*　*ma*　*ġie=x*　*ilbieraħ*
PN　NEG　come:PFV.3SG.M=NEG　yesterday

例文(18)は，例文(17)に，動詞の否定表現 *ma...=x* が付加されたものである．

2-9　（私は）あのリンゴをもう食べた．【他動詞のパーフェクト】
I already ate that apple.
(19)　*(jien(a))*　*diġà*　*kil-t*　*dik*　*it-tuffieħa*
(1SG)　already　eat:PFV-1SG　DEM.DIST.F.SG　DEF-apple.F.SG

例文(19)では，副詞 *diġà* ‘already’ と動詞 *kiel* ‘eat’ の完結形が用いられている．アスペクトの表現は，自動詞の場合（調査 2-1，2-2）と同様である．

2-10　私はあのリンゴをまだ食べていない．／私はあのリンゴをまだ食べない．【他動詞のパーフェクトの否定】
I haven’t eaten that apple yet. / I won’t eat that apple.
(20)　*jiena*　*għad=ni*　*ma*　*kil-t=x*　*dik*　*it-tuffieħa*　/
1SG　still=1SG　NEG　eat:PFV-1SG=NEG　DEM.DIST.F.SG　DEF-apple.F.SG　/
m’iniex　*se*　*n-iekol*　*dik*　*it-tuffieħa*
1SG.NEG　PROS　1SG-eat:IPFV　DEM.DIST.F.SG　DEF-apple.F.SG

例文(20)の 1 文目では，動詞 *kiel* ‘eat’ の完結形に否定表現 *ma...=x* が付加されている．後半部では，小詞 se と動詞 *kiel* ‘eat’ の未完結形によって，将然相が構成されている．2 文目では，否定表現 *ma...=x* は用いられず，代わりに 1 人称・単数の否定人称代名詞 *m’iniex* により主語の位置で否定が示されている[6].

2-11　あの人は今（ちょうど）そのリンゴを食べています／食べているところです．【進行】
He’s eating that apple just now.

(21)　*huwa*　*qed*　*j-iekol*　*dik*　*it-tuffieħa*　*proprju*　*issa*
3SG.M　PROG　3SG-eat:IPFV　DEM.DIST.F.SG　DEF-apple.F.SG　indeed　now

例文(21)では，小詞 *qed* と動詞 *kiel* ‘eat’ の未完結形によって進行相が構成されている．副詞の連続 *proprju* ‘indeed’，*issa* ‘now’ にも注目したい．

2-12　窓が開いている／窓が開いていた．【対象物を主語とした結果状態】
The window is open. / The window was open.

(22-1)　*it-tieqa*　*hija*　*miftuħ-a*　/
DEF-window.F.SG　COP.3SG.F　open.PPRT-F.SG　/
it-tieqa　*kien-et*　*miftuħ-a*
DEF-window.F.SG　be:PFV-3SG.F　open.PPRT-F.SG
The window is opened. / The window was opened.

(22-2)　*it-tieqa*　*t-infetaħ*　/
DEF-window.F.SG　3SG.F-be_opened:IPFV　/
it-tieqa　*n-fetħ-et*
DEF-window.F.SG　be_opened:PFV-3SG.F

(22-3)　*it-tieqa*　*t-iġi*　*miftuħ-a*　/
DEF-window.F.SG　3SG.F-come:IPFV　open.PPRT-F.SG　/
it-tieqa　*ġi-et*　*miftuħ-a*
DEF-window.F.SG　come:PFV-3SG.F　open.PPRT-F.SG.

2-13　私は毎朝新聞を読む／読んでいる．【習慣】
I read the newspaper every morning.

(23)　*jiena*　*n-aqra*　*l-gazzetta*　*kull*　*filgħodu*
1SG　1SG-read.IPFV　DEF-newspaper.F.SG　all　this_morning

例文(23)では，アスペクト小詞を伴わない動詞 *qara* ‘read’ の未完結形によって習慣相が構成されている．頻度は副詞 *kull filgħodu* ‘every morning’ によって示されている．

[6] これは非述語の主語代名詞の位置で否定が標示されている例である．否定人称代名詞は，非述語である代名詞としての使用と述語である繫辞の否定形としての使用について形態的には区別されない．しかしながら，当該の例文は繫辞文ではなく動詞文であることが明らかである．

2-14　あなたは（あなたの）お母さんに似ている．【開始時点の不明瞭な状態】
You look like your mother.

(24)　*inti*　*t-ixbah*　*lil*　*omm=ok*
2SG　2SG-resemble:IPFV　OBJ　mother=2SG

例文(24)では，動詞 *xebah* ‘resemble’ の未完結形のみ（アスペクト小詞なし）が用いられ，習慣相が構成されている．マルタ語では，この種の表現は習慣相の範疇にあるものだと考える．

2-15　私はその頃毎日学校に通っていた．【過去の習慣】
I used to go to school every day (back then).

(25)　*jiena*　*kon-t*　*im-mur*　*l-iskola*　*kuljum*　*(dak*　*iż-żmien)*
1SG　be:PFV-1SG　1SG-go:IPFV　DEF-School.F.SG　everyday　(DEM.DIST.M.SG　DEF-time.M.SG)

例文(25)では，過去時制を示す *kien* および動詞 *mar* ‘go’ の未完結形によって，過去の習慣相が示されている．頻度は副詞 *kuljum* ‘everyday’ によって示されている．過去の時点は副詞 *dak iż-żmien* ‘at that time’ などによって示すことができるようである．マルタ語では，単なる過去（調査 2-7 など参照）は動詞の完結形の形式が担う．例文(25)のように習慣のニュアンスが加わると，時制標識（3.1 節を参照）が別に置かれてこれが過去を示し，動詞の形式を習慣相におくという分析ができる．

2-16　私は～に（大きな街の名前など）行ったことがある．【経験】
I have been to New York.

(26)　*jiena*　*kon-t*　*New York*
1SG　be:PFV-1SG　PN

例文(26)では，動詞 *kien* ‘be’ の完結形のみが用いられている．場所 *New York* は，前置詞などは介さずに置かれている．単なる過去の繋辞文として見ると「私はニューヨークだった」というような解釈になってしまう．マルタ語では，場所を示す項がゼロ標示される場合がある．

2-17　やっとバスは走り出した／走り始めた．【起動】
Finally, the bus began moving.

(27)　*f=l-aħħar,*　*il-karozza*　*ta=l-linja*　*bdi-et*　*miexj-a*
in=DEF-final.M.SG　DEF-car.F.SG　of=DEF-line　begin:PFV-3SG.F　move.APRT-F.SG

例文(27)では，動詞 *beda* ‘begin’ によって事態の開始が表現されている．事態の内容は，動詞 *beda* ‘begin’ に後続する動詞 *mexa* ‘walk’ の能動分詞 *miexi* ‘walking’ によって示されている．

2-18　昨日彼女はずっと寝ていた．【長時間継続】
She slept all day yesterday.

(28)　*hija*　*raqd-et*　*ġurnata*　*sħiħa*　*lbieraħ*
3SG.F　sleep:PFV-3SG.F　day.F.SG　entire.F.SG　yesterday

例文(28)では，動詞 *raqad* ‘sleep’ の完結形が用いられている．例文(28)は，「1 日中寝た」という 1 回的

な事態を示し，「1 日中寝ていた」という【長時間継続】の事態は示していない．

2-19　私はそれをちょっと食べてみた．【（軽度の）試行】
I tried eating it a bit.

(29-1)　*jiena*　*ppruva-jt*　*n-iekl=u*　*ftit*
1SG　try:PFV-1SG　1SG-eat:IPFV=3SG.M　little

(29-2)　*jiena*　*ppruva-jt*　*ni-kol=ha*　*ftit*
1SG　try:PFV-1SG　1SG-eat:IPFV=3SG.F　little

例文(29)では，動詞 *ppruva* ‘try’ 助動詞的に使用され，これに動詞 kiel ‘eat’ の未完結形の形式が後続している．動詞 *ppruva* ‘try’ の形式は完結形で，これが文のアスペクト全体を決定しているようだ．この位置での動詞 *kiel* ‘eat’ の未完結形の形式は，アスペクトの機能はなく，動詞 *ppruva* ‘try’ の目的となることを標示している．動詞 *kiel* ‘eat’ は，主語の標示のみならず，目的語の標示（主語の標示は動詞 *ppruva* ‘try’ にもあるが，目的語の標示は動詞 *ppruva* ‘try’ にはない）も持ち不定詞とは言えないものである．「ちょっと」のニュアンスは副詞 *ftit* ‘little’ により表現されている．

2-20　あの人はそれ（ら）をみんなに分け与えた．【多方向への客体的分配】
He gave them to everyone.

(30)　*huwa*　*ta=hom*　*lil*　*kulħadd*
3SG.M　give:PFV.3SG.M=3PL　to　everybody

例文(30)では，動詞 *ta* ‘give’ の未完結形の形式が用いられている．重複や繰り返しの動作といったアスペクトは動詞の部分には表れず，前置詞句 *lil kulħadd* ‘to everybody’ に委ねられている．

2-21　さあ，（私たちは）行くよ！【近未来の勧誘】
Let’s go!

(31-1)　*ejja*　*ħa*　*m-morr-u*
INTERJ　PROS　1-go:IPFV-PL

ここでは，*ejja* を間投詞として分析したが，*ejja* には動詞 *ġie* ‘come’ の命令形としての用法もある．

(31-2)　*tlaq-na*
leave:PFV-1PL

例文(31-1)，(31-2)では，動詞の形式が異なっているところが興味深い．例文(31-1)では，小詞 *ħa* と動詞 *mar* ‘go’ の未完結形によって将然相の形式が用いられている．これに対して，例文(31-2)では，動詞 *telaq* ‘leave’ の完結形の形式が用いられている．例文(31-2)の完結形は，差し迫った近未来を表しているものと考えられる．差し迫った近未来を示す完結形や過去形の例は，ドイツ語・ロシア語・ウクライナ語・ラトヴィア語・ブルガリア語・モンゴル語・キルギス語・ウズベク語・ペルシャ語・ラオ語といった様々な言語で報告されている（風間 2010: 48）．

2-22　地球は太陽の周りを回っている．【恒常的真理】
The earth goes around the sun.

(32)	*id-dinja*	*d-dur*	*madwar*	*ix-xemx*
	DEF-world.F.SG	3SG.F-turn:IPFV	around	DEF-sun.F.SG

例文(32)では，動詞 *dar* ‘turn’ の未完結形の形式が用いられている．マルタ語における恒常的真理の表現は，習慣相の範疇にあるようである．

2-23　あの木は今にも倒れそうだ．【将然相】
That tree is about to topple.

(33)	*dik*	*is-siġra*	*wasl-et*	*biex*	*t-aqa’*
	DEM.DIST.F.SG	DEF-tree.F.SG	arrive:PFV-3SG.F	in_order_to	3SG.F-fall:IPFV

例文(33)では，動詞 *wasal* ‘arrive’ の完結形と接続詞 *biex* ‘in order to’ からなる迂言的な構文が見て取れる．接続詞 *biex* ‘in order to’ に続く動詞 *waqa’* ‘fall’ は，未完結形の形式であり，機能的には例文(29)で見た動詞 *kiel* ‘eat’ の未完結形と同じく準動詞的な位置にあることを示している．動詞 *wasal* ‘arrive’ における完結形の使用は，例文(31-2)でみた近未来的な完結形に通ずる．

2-24　（私は）あやうく転ぶところだった．【将然相−未遂】
I was almost about to trip.

(34)	*(jiena)*	*kważi*	*kon-t*	*se*	*n-aqa’*
	(1SG)	almost	be:PFV-1SG	PROS	1SG-fall:IPFV

例文(34)では，副詞 *kważi* ‘almost’，繋辞動詞 *kien* ‘be’ の完結形，将然相の小詞 *se*，そして動詞 *waqa’* ‘fall’ の未完結形が用いられている．例文(34)における未遂のニュアンスは，副詞 *kważi* ‘almost’ が負っているところが多いと考える．そういう意味では，副詞 *kważi* ‘almost’ は，英語の hardly のように，文法的には否定表現に近い位置にあると見ることができる．

2-25　明日客が来るので，パンを買っておく．【準備】
We will have guests tomorrow, so I will buy some bread.

(35)	*aħna*	*se*	*jkoll=na*	*xi*	*mistednin*	*għada,*
	1PL	PROS	have:IPFV=1PL	some	guest.PL	tomorrow
	allura	*se*	*n-ixtri*	*ftit*	*ħobż*	
	so	PROS	1SG-buy:IPFV	little	bread.M.SG	

例文(35)は 2 つの節からなる．最初の節では将然相の小詞 *se*，擬似動詞の *jkoll* have:IPFV が用いられている．続く次の節では，同じく将然相の小詞 *se* があり，これに動詞 *xtara* ‘buy’ の未完結形が続く．最初の節には，時の副詞 *għada* ‘tomorrow’ がある．接続詞 *allura* ‘so’ が両節をつなぐ．動詞の形式に注目すれば，これまでにみた将然相と共通し，特に目立って【準備】を表現するような要素はない．

2-26　（私は）～に（街とか市場とか）行ったとき，この袋を買った.【絶対的テンスの言語における時制の一致／相対テンス】
I (had) bought this bag when I went to Tokyo.

(36)　*jiena*　*(kon-t)*　*xtra-jt*　*dan*　*il-basket*
1SG　(be:PFV-1SG)　buy:PFV-1SG　DEM.PROX.M.SG　DEF-bag.M.SG
meta　*mor-t*　*Tokjo*
when　go:PFV-1SG　PN

2-27　（私は）～に（街とか市場とか）行く時／行く前に，この袋を買った.
I (had) bought this bag when going to Tokyo.

(37-1)　*(jiena)*　*(kon-t)*　*xtraj-t*　*dan*　*il-basket*
(1SG)　(be:PFV-1SG)　buy:PFV-1SG　DEM.PROX.M.SG　DEF-bag.M.SG
meta　*ġe-jt*　*biex*　*im-mur*　*Tokjo*
when　come:PFV-1SG　in_order_to　1SG-go:IPFV　PN

(37-2)　*(jiena)*　*(kon-t)*　*xtraj-t*　*dan*　*il-basket*
(1SG)　(be:PFV-1SG)　buy:PFV-1SG　DEM.DIST.M.SG　DEF-bag.M.SG
meta　*kon-t*　*sejjer*　*Tokjo*
when　be:PFV-1SG　go.APRT.M.SG　PN

(37-3)　*(jiena)*　*(kon-t)*　*xtrajt*　*dan*　*il-basket*
(1SG)　(be:PFV-1SG)　buy:PFV-1SG　DEM.PROS.M.SG　DEF-bag.M.SG
meta　*kon-t*　*se*　*m-mur*　*Tokjo*
when　be:PFV-1SG　PROS　1SG-go:IPFV　PN

例文(36)，(37)は 2 つの節からなる．最初の節は，いずれの例文も同じく，動詞 *xtara* ‘buy’ の完結形が用いられている．最初の節では，英語文の（had）に対応させたものだと思われるが，過去時制を示す 動詞 *kien* ‘be’ の完結形が括弧付で示されている．続く節に注目してみると，接続詞 *meta* ‘when’ の使用が共通している．例文(36)では，最初の節と同じく完結形の形式が用いられている．例文(37-1)では，動詞 *ġie* ‘come’ の完結形と接続詞 *biex* ‘in order to’ によって，おそらくは過去における近未来を表す迂言的な表現が用いられている．例文(37-2)と(37-3)では，過去時制を示す *kien* の使用が共通しているものの，前者では述語が現在分詞で，後者では定動詞 *mar* ‘go’ の未完結形の形式が小詞 *se* とともに用いられている．

2-28　（私は）彼が市場でこの袋を買ったのを知っていた.【時制の一致】
I knew he (had) bought this bag in this market.

(38)　*(jiena)*　*kon-t*　*n-af*　*li*　*kien*　*xtara*
1SG　be:PFV-1SG　1SG-know:IPFV　SUB　be:PFV.3SG.M　buy:PFV.3SG.M
dan　*il-baskett*　*minn*　*dan*　*is-suq*
DEM.PROX.M.SG　DEF-bag.M.SG　from　DEM.PROX.M.SG　DEF-market.M.SG

例文(38)は 2 つの節からなり，主節と従属節（従属節をつくる標識 *li* によって導かれる）から構成さ

れる．主節は，過去時制を示す *kien*，動詞 *af* ‘know’ が用いられている．動詞 *af* ‘know’ は，未完結形の形式のみ持っていて完結形の形式を欠いており，過去時制を示す *kien* と組み合わせることで単純過去あるいは過去の習慣相を示す（Fabri 1995: 337）．従属節では，過去時制を示す *kien* と動詞 *xtara* ‘buy’ の完結形が用いられている．時制・相についてまとめると，主節では単純過去あるいは過去の習慣相の形式，従属節では過去の完結相の形式が用いられている．主節と従属節で時制・相の形式に違いがみられ，従属節の出来事が主節より以前の出来事であることを明示しているものと考える．

4.3. 「モダリティ」（語研論集　第 16 号）

本節では，最初のマルタ語のモダリティに関する先行研究として Vanhove et al. (2009) 及び Vanhove (2010) を取り上げる．Vanhove et al. (2009: 3) は，マルタ語の動詞体系の特徴として，助動詞や小詞の使用が豊富であることを指摘している．Vanhove et al. (2009: 3) は，モダリティに関わるものとして，次の 6 つの助動詞を挙げる[7]（*seta’* ‘be able’，*j-af* ‘know’，*ried* ‘want’，*ġħand=u* ‘have’（2 つの補充形 *kell=u*, *ikoll=u*），*miss=u* ‘must’，*ikun* ‘be’）．マルタ語の助動詞は，助動詞→本動詞というように本動詞の前に置かれるが, 助動詞と本動詞どちらとも TAM・人称・数に関して活用がある点に注意が必要である（Vanhove et al. 2009: 3）. Vanhove et al. (2009: 11) は，6 つの助動詞の意味内容について以下のように整理している．

表 10: マルタ語のモダリティ体系 (Vanhove et al. 2009)

	モダリティ値	助動詞
拘束的	可能性	*seta’*
	能力	*seta’*, *j-af*
	許可	*ried*, *ġħand=u*, *kell=u*, *ikoll=u*
	禁止	*ried*, *ġħand=u*, *kell=u*, *ikoll=u*
	義務	*ried*, *ġħand=u*, *kell=u*, *ikoll=u*
	不可避	*ried*
	助言	*miss=u*, *kell=u*
	事後的助言	*miss=u*
	不遂行義務	*miss=u*
経験的	偶発性	*seta’*, *j-af*（まれ）
	実現可能性	*seta’*
	蓋然性	*seta’*, *ikun*
	論理的蓋然性	*ġħand=u*, *ikoll=u*, *ikun*
	推論	*kell=u*

（Vanhove et al. 2009: 11 より）

Vanhove (2010: 4-5) は，完結形が有するモダリティ値について興味深いことを指摘している．Vanhove (2010: 5) によれば，完結形には次の 2 つの機能がある: 移動動詞を補う形で移動の目的を表す機能，反実仮想を示す機能. Vanhove (2010: 5) は, 次の例文で移動動詞の目的を表す機能について例示している．

[3] *il-kuruni* *li* *mor-t* ***xtraj-t****=hom*
DEF-rosary.PL SUB go:PFV-2SG **buy:PFV-2SG**=3PL
The rosaries that you went to buy

（Vanhove 2010: 5；グロスは筆者による）

マルタ語では，例文 [3] のように 2 つの動詞が連なるとき，2 番目の動詞はふつう未完結形の形式を取る（Vanhove 2010: 5）．Vanhove (2010: 5) によれば，例文[2]のような完結形の使用は，話者が実際にその行為を目撃したことを含意しているという[8]．Vanhove (2010: 5) は，完結形の反実仮想を示す機能につ

[7] 次に続く助動詞の列挙において，それらの表記と意味の記述は本稿のものに改めた．
[8] Vanhove (2010: 5) は，このような完結形の使用における証拠性（evidentiality）の機能はあくまで周縁的（marginal）なものであると考えている．

いて次のように例示している．

[2] *li ma qabd-u=hie=x kien-et*
if NEG catch:PFV-3PL=3SG.F=NEG be:PFV-3SG.F
t-oqtol=hie=l=u
3SG.F-kill:PFV=3SG.F=DAT=3SG.M
Had they not caught her, she would have killed it for him
（Vanhove 2010: 5；グロスは筆者による）

Vanhove (2010: 5) によれば，例文 [2] のような反実仮想の表現において完結形の使用が義務的である（ただしほかのタイプの仮定文ではその限りでない）．

以下で，特集例文についての記述を行う．その記述の中で，Vanhove et al. (2009) があげる 6 つの助動詞をモダリティ助動詞と総称する．本稿では，モダリティ助動詞 'have' における *għand=u, kell=u*, *ikoll=u* の 3 形態（それぞれ現在時制・未完結形・完結形の形式；Vanhove et al. 2009: 8 による）のうち，完結形 3 人称単数形 *kell=u* を代表形として扱うこととする．モダリティ助動詞 *ikun* には注意が必要である．これは，動詞 *kien* 'be' の未完結形を助動詞として使用する時の未来時制標識と形態的には区別がつかない．Vanhove et al. (2009) 及び Vanhove (2010) は，そもそも動詞 *kien* 'be' を時制標識としては採用していない（筆者は，動詞 *kien* 'be' の時制標識としての機能は助動詞としての用法にのみ限られると考える）．Vanhove (2010: 9) は，「主節あるいは等位節において，認識的モダリティの値は論理的帰結，論理的蓋然性（例：推論）であり，したがってしばしば未来時制によって訳される」"In independent or coordinated clauses, the epistemic value is that of a logical consequence, a logical probability (i.e. inference), hence its frequent translation by a future tense" と記述しており，あくまでモダリティ助動詞 *ikun* の用法のひとつに未来時制的な読みが可能であるという位置付けにしている．Vanhove (2010: 9) が示す例は次のようなものである．

[10] *sib ħmar ċkejken u saqaj=k i-kun-u*
find.IMP donkey.M.SG small.M.SG and foot.PL=2SG 3-be:IPFV-PL
i-miss-u ma' l-art
3-touch:IPFV-PL with DEF-land.F.SG
'Find a small donkey and your feet will touch the ground!'
（Vanhove 2010: 9；グロスは筆者による）

本稿では，例文[10]のような場合は，モダリティ助動詞 *ikun* ではなく動詞 *kien* 'be' の助動詞位置での時制標識としての使用と位置づける．

3-1 （その仕事が終わったら）もう帰ってもいいですよ．【許可】
You may go home (when you are done with that work).

(39-1) ***t-ista'*** *t-mur id-dar*
2SG-be_able:IPFV 2SG-go:IPFV DEF-house.F.SG
(meta t-kun lest minn dak ix-xogħol)
(when 2SG-be:IPFV ready.M.SG from DEM.DIST.M.SG DEF-job.M.SG)

(39-2) ***t-ista’*** *t-mur* *id-dar*
2SG-be_able:IPFV 2SG-go:IPFV DEF-house.F.SG
(meta *t-kun* *lest* *minn* *dik* *il-biċċa* *xogħol)*
(when 2SG-be:IPFV ready.M.SG from DEM.DIST.F.SG DEF-piece.F.SG job.M.SG)

例文(39)では，モダリティ助動詞 *seta’* ‘be_able’ が使用されている．モダリティ助動詞 *seta’* ‘be_able’ は，【許可】を表現できる．

3-2 （腐っているから，あなたは）それを食べてはいけない／それを食べるな．【禁止】
You may not eat that.

(40-1) ***ma*** ***t-ista=x*** *t-iekol* *dak* *(għax* *mhux* *tajjeb)*
NEG **2SG-be_able:IPFV=NEG** 2SG-eat:IPFV DEM.DIST.M.SG (because NEG good.M.SG)

(40-2) *dak* ***ma*** ***t-ista=x*** *t-iekl=u* *(għax* *mar)*
DEM.DIST.M.SG **NEG** **2SG-be_able:IPFV=NEG** 2SG-est:IPFV=3SG.M (because go_bad:PFV.3SG.M)

例文(40)は，例文(39)で見たモダリティ助動詞 *seta’* ‘be_able’ に，否定表現 *ma...=x* を組み合わせたものである．マルタ語における【禁止】は，【許可】に否定を組み合わせたもので実現されると考える．モダリティ助動詞 *seta’* ‘be_able’ には，調査 3-14 の【状況可能】でも現れるので，【禁止】は（【許可】~【状況可能】）+否定と見ることもできる．

3-3 （遅くなったので）私たちはもう帰らなければならない．【義務】
We must go home now.

(41) *(peress li* *sar* *il-ħin)* *(aħna)* *se* ***jkoll****=na*
(bacause become:PFV.3SG.M DEF-time.m.sg) (1PL) PROS **have:IPFV**=1PL
m-morr-u *lura* *d-dar* *issa*
1-go:IPFV-PL backward DEF-house.F.SG now

例文(41)をみると，モダリティ助動詞 *kell=u* ‘have’ は【義務】を表すことができると判断できる．モダリティ助動詞 *kell=u* ‘have’ は，先取りとなるが，調査 3-15【確信】でも現れる．モダリティ助動詞 *kell=u* ‘have’ は，拘束的には【義務】，経験的には【確信】を表す，と整理できる．

3-4 （雨が降るそうだから）傘を持って出かけたほうがいいよ．【推奨】
You should take an umbrella.

(42) *(peress li* *qis=ha* *se* *t-inżel* *ix-xita)*
(because seem=3SG.F PROS 2SG-fall:IPFV DEF-rain.F.SG)
miss=ek *t-ieħu* *umbrella*
must=2SG.M 2SG-take:IPFV umbrella.F.SG

3-5 歳をとったら，子供の言うことを聞くべきだ／聞くものだ．【評価的義務】
You (People) should listen to your (their) children when you (they) get old.

(43-1) *intom* ***miss****=kom* *t-isimgħ-u* *lil* *ulied=kom* *meta* *t-ikbr-u*
2PL **must**=2PL 2-listen:IPFV-PL OBJ child.PL=2PL when 2-grow:IPFV-PL

(43-2) *in-nies* ***imiss**=hom* *j-isimgħ-u* *lil* *ulied=hom* *meta* *ji-kbr-u*
DEF-person.PL **must:IPFV**=3PL 3-listen:IPFV-PL OBJ child.PL=3PL when 3-grow:IPFV-PL

例文(42)，(43)をみると，モダリティ助動詞 *miss=u* ‘must’ が【推奨】及び【評価的義務】どちらも表すことが分かる．Vanhove et al. (2010)での，「助言」（advice）に当たるものだと考える．このモダリティ助動詞 *miss=u* ‘must’ に関連するものとし，動詞 *mess* ‘touch’ がある．Vanhove et al. (2009: 32)によれば，動詞 *mess* ‘touch’ のこのようなモダリティ的な使用は，イタリア語 *toccare* ‘touch’ のモーダル用法からの翻訳借用である．Vanhove et al. (2009) では，当該の助動詞を動詞 *mess* ‘touch’ と区別していない．本稿では，モダリティ助動詞 *miss=u* ‘must’ と動詞 *mess* ‘touch’ はそれぞれ区別することとする．なぜなら，モダリティ助動詞 *miss=u* ‘must’ は，人称代名詞の接語形で主語人称を示す点で，形態的カテゴリは擬似動詞に分類することができるからである．

3-6 お腹が空いたので，（私は）何か食べたい．【1 人称の希望】
I’m hungry, so I want to eat something.

(44) *għand=i* *l-ġuħ,* *għalhekk* *ir-rid* *n-iekol* *xi ħaġa*
have:PRS=1SG DEF-hunger.M.SG therefore 1SG-want:IPFV 1SG-eat:IPFV something

例文(44)では，モダリティ助動詞 *ried* ‘want’ が【希望】のモダリティを表す．例文(44)の文頭にある *għand* は，モダリティ助動詞 *kell=u* ‘have’ ではなく本動詞である．この *għand=u* は，形態的にモダリティ助動詞とは区別できない（どちらも擬似動詞）が，統語的に目的語名詞 *l-ġuħ* を取っている点で異なる．Vanhove et al. (2009) によれば，モダリティ助動詞 *ried* ‘want’ は【義務】なども表すことができるが，今回の調査ではその用例を得ることはできなかった．

3-7 私が持ちましょう．【意志】
I will take that.

(45-1) *jiena* *se* *n-ieħd=u*
1SG PROS 1SG-take:IPFV=3SG.M

(45-2) *jiena* *se* *n-eħod=ha*
1SG PROS 1SG-take:IPFV=3SG.F

例文(45)の構文は，将然相の小詞 *se* と動詞 *ħa* ‘take’ の未完結形からなる．将然相の形式が【意志】を表すことができる，と言える．

3-8 じゃあ，一緒に昼ご飯を食べましょう．【勧誘】
Let’s eat lunch together.

(46) *ejja* *n-iekl-u* *l-ikla* *ta’* *nofsinhar* *flimkien*
INTERJ 1-eat:IPFV-PL DEF-meal.F.SG of noon.M.SG together

例文(46)では，間投詞 *ejja* に続いて動詞 *kiel* ‘eat’ が未完結形 1 人称複数で現れている．間投詞 *ejja* と未完結形の 1 人称複数形の組み合わせに【勧誘】を表す機能があると考える．

3-9　一緒に昼ご飯を食べませんか？【相手の意向が不明な場合の勧誘】
Shall we eat lunch together?

(47)　*għax*　*ma*　*n-ikl-u=x*　*xi ħaġa*　*flimkien*?
why　NEG　1-eat:IPFV-PL=NEG　something　together

例文(47)では，例文(46)【勧誘】の場合と同じく未完結形の 1 人称複数 *n-iekl-u* が現れている．しかしながら，例文(47)では否定表現 *ma...=x* が介在し，疑問詞 *għax* ‘why’ によって否定疑問文となっている．3-8【勧誘】と比べて，さらに婉曲の度合いが高くなっているものと推測する．

3-10　明日，良い天気になるといいなあ．／明日は良い天気になってほしいなあ．【希望】
I wish it would be sunny tomorrow.

(48-1)　*(kemm)*　*n-ixtieq*　*li*　*j-kun*　*bnazzi*　*għada*
(how_much)　1SG-wish:IPFV　SUB　3SG.M-be:IPFV　sunny　tomorrow

(48-2)　*mank*　*i-kun*　*bnazzi*　*għada*
(注)　3SG.M-be:IPFV　sunny　tomorrow
(注）: “expressing a wish that s.th. happens or be possible” (Aquilina 1987-1990: 778)

例文(48-1)は，動詞 *xtieq* ‘wish’ の未完結形と従属節 *li* ~ によって構成される．従属節の内容は，未来時制の標識 *jkun* を伴った繋辞文で（主語は非人称的），述語は形容詞 *bnazzi* ‘sunny’（不変化）であり，時の副詞 *għada* ‘tomorrow’ がある．例文(48-2)は，小詞 *mank* を除けば，例文(48-1)の従属節の内容と同じである．例文(48-1)では疑問詞 *kemm* ‘how much’，例文(48-2)では小詞 *mank*（意味はグロス注釈を参照）の機能が問題となる．特に例文(48-2)では，小詞 *mank* が積極的に【希望】を表現しているものと考える．

3-11　（私はここで待っているから）すぐにそれを持って来なさい．【命令】
(I will wait here.) Bring it here immediately.

(49)　*(se*　*n-kun*　*qed*　*n-istenna*　*hawn(hekk).)*
(PROS　1SG-be:IPFV　PROG　1SG-wait:IPFV　here)
ġib=u=l=i　*hawn(hekk)*　*malajr.*
bring.IMP=3SG.M=DAT=1SG　here　immediately

例文(49)では，動詞 *ġieb* ‘bring’ の命令法が用いられている．

3-12　そのペンをちょっと貸していただけませんか？【懇願】
Could (Would/Can/Will) you lend me that pen?

(50)　*ma*　*s-sellif=l=i=x*　*dik*　*il-bajrow*?
NEG　2SG-lend:IPFV=DAT=1SG=NEG　DEM.DIST.F.SG　DEF-pen.M.SG

例文(50)では, 助動詞的な要素はなく, 動詞 *sellef* ‘lend’ の未完結形が用いられ, これに否定表現 *ma...=x* がかかっている．【能力】や【可能】を表現する形式はなく，ただ否定表現 *ma...=x* と動詞の未完結形によって【懇願】が示されている．否定表現 *ma...=x* に婉曲を伝える機能があると推測できる．否定表現の婉曲的な使用は，例文(47)でも現れているものと考える．

3-13　あの人は中国語が読めます．／あの人は中国語を読むことができます．【能力可能】
He can read Chinese.

(51-1)　*huwa*　***j-af***　*j-aqra*　*b=iċ-Ċiniż*
3SG.M　**3SG.M-know:IPFV**　3SG.M-read:IPFV　by=DEF-Chinese.M.SG

(51-2)　*huwa*　*kapaċi*　*j-aqra*　*b=iċ-Ċiniż*
3SG.M　capable　3SG-read:IPFV　by=DEF-Chinese.M.SG

3-14　明かりが暗くて，ここに何が書いてあるのか，読めない．【状況可能】
I can't read what is written here because the light is so weak.

(52)　***ma***　***n-ista=x***　*n-aqra*　*li*　*hawn*　*miktub*
NEG　**1SG-be_able:IPFV=NEG**　1SG-read:IPFV　SUB　here　write.PPRT.M.SG
hawnhekk　*għax*　*id-dawl*　*huwa*　*baxx*　*wisq*
here　because　DEF-light.M.SG　COP.3SG.M　low.M.SG　too_much

【能力可能】では，例文(51-1)，(51-2)の 2 通りの表現が示されている．例文(51-1)では，モダリティ助動詞 *j-af* 'know' が使用されている．例文(51-2)では，普遍化の形容詞 *kapaċi* 'capable' が助動詞的な位置で使用されている．【状況可能】は，例文(52)をみると，【許可】と否定表現が組み合わされて示されている．【許可】と否定表現の組み合わせという点で，【禁止】と共通するが，【禁止】は二人称に対する呼びかけとなっている．モダリティ助動詞の使用に注目すると，【能力可能】*j-af* 'know と，【状況可能】*seta'* 'be_able' とではっきり使い分けがあるようだ．

3-15　（朝早く出発したから）彼らはもう着いているはずだ／もう着いたに違いない．【確信】
They should have arrived by now.

(53-1)　*(peress li*　*telq-u*　*kmieni*　*dalgħodu,)*　***għand=hom***　***i-kun-u***　*wasl-u*　*issa*
(because　leave:PFV-3PL　early　this_morning)　**have:PRS=3PL**　**3-be:IPFV-PL**　arrive:PFV-3PL　now

(53-2)　*(peress li*　*telq-u*　*kmieni*　*dalgħodu,)*　*issa*　*suppost*　*wasl-u*
(beacause　leave:PFV-3PL　early　this_morning)　now　supposedly　arrive:PFV-3PL

3-16　（あの人は）明日はたぶん来ないだろう．【推量】
He probably will not come tomorrow.

(54-1)　***għand=u***　*j-kun*　*mhuwiex*　*ġej*　*għada*
have:PRS=3PL　3SG.M-be:IPFV　3SG.M.NEG　come.APRT.M.SG　tomorrow

(54-2)　*probabbli*　*mhuwiex*　*ġej*　*għada*
probably　3SG.M.NEG　come.APRT.M.SG　tomorrow

(54-3)　*probabbli*　*mhuwiex*　*se*　*j-iġi*　*għada*
probably　3SG.M.NEG　PROS　3SG.M-come:IPFV　tomorrow

3-17　彼らはまだ来ないなんて，きっと途中で車が壊れたんじゃないか.【疑念】
They haven’t come yet, their car must have broken down.

(55)　*għad=hom*　*ma*　*ġe-w=x...*　*il-karozza*　*tagħ=hom*
still=3PL　NEG　come:PFV-3PL=NEG　DEF-car.F.SG　of=3PL
bilfors　*li*　*waqf-it=il=hom*　*fi=t-triq*
compulsory　SUB　break:PFV-3SG.F=DAT=3PL　in=DEF-road.M.SG

3-18　（昼間だからあの人は家に）さあ，いるかもしれないし，いないかもしれない.【可能性】
I don’t know... He may be there, but he may not be there.

(56)　*ma*　*n-af=x...*　***j-af***　*i-kun*　*hemm(hekk),*
NEG　1SG-know:IPFV=NEG　**3SG.M-know:IPFV**　3SG.M-be:IPFV　there
imma　***j-af***　*ma*　*j-kun=x*　*hemm(hekk)*
but　**3SG.M-know:IPFV**　NEG　3SG.M-be:IPFV=NEG　there

【確信】・【推量】・【疑念】・【可能性】のうち，モダリティ助動詞が現れないのは【疑念】である.【疑念】は，例文(55)をみると，従属節標識 *li* があり，内容全体を従属節化しており，内容にかかるモーダル的な意味は副詞 *bilfors* “compulsory” が示している.【確信】は，例文(53-1)を見ると，モダリティ助動詞 *kell=u* ‘have’ とモダリティ助動詞 *ikun* が組み合わされている．本節冒頭で，モダリティ助動詞 *ikun*（未来の）時制標識としての関連を問題とした．ここで現れる *ikun* は文意から未来時制を取ることはできないものと考える．このような *ikun* が時制標識から区別されるモダリティ助動詞 *ikun* であると考える．残る【推量】・【可能性】では，前者がモダリティ助動詞 *kell=u* ‘have’，後者がモダリティ助動詞 *j-af* ‘know’ が使用されている.【推量】・【可能性】における *ikun (jkun)*は，助動詞的には用いられていない.

3-19　（額に触ってみて）どうもあなたは熱があるようだ.【視覚／聴覚以外の感覚による判断】
It seems you have fever.

(57-1)　*qis=ek*　*għand=ek*　*id-deni*
seem=2SG　have:PRS=2SG　DEF-fever.M.SG

(57-2)　*donn=ok*　*għand=ek*　*id-deni*
look_like=2SG　have:PRS=2SG　DEF-fever.M.SG

(57-3)　*t-idher*　*li*　*għand=ek*　*id-deni*
2SG-appear:IPFV　SUB　have:PRS=2SG　DEF-fever.M.SG

例文(57-1)，(57-2)は擬似動詞，(57-3)は動詞による表現である．例文(57-1)，(57-2)の擬似動詞 *qis=u*, *donn=u* は助動詞の位置で使われている．擬似動詞 *qis=u*, *donn=u* のグロスを ‘seem’，‘look like’ などとし視覚表現と結びつけているが，これは便宜的なものである．Aquilina (1987-1990)によれば，これらの擬似動詞は，それぞれ，動詞 *qies* ‘measure’，動詞 *dann* ‘suppose’ の命令形に由来している．語の由来は通時的なものであり，そこから共時的な価値をただちに見出すのは避けるべきではあるが，語源的には「見る」というような視覚的な要素は読み取れない.

3-20　（天気予報によれば）明日は雨が降るそうだ．【伝聞】
It's going to rain tomorrow.

(58-1) *(skont ir-rapport ta=t-temp)*
(according_to DEF-report.M.SG of=DEF-weather.M.SG
qis=ha se t-inżel ix-xita għada
seem=3SG.F PROS 3SG.F=fall:IPFV DEF-rain.F.SG tomorrow

(58-2) *(skont ir-rrapport ta=t-temp)*
(according_to DEF-report.M.SG of=DEF-weather.M.SG)
j-af *t-inżel ix-xita għada*
3SG.M-know.IPFV 3SG.F=fall:IPFV DEF-rain.F.SG tomorrow

例文(58-1)は例文(57-1)と同じく擬似動詞 *qis=u* 'seem' が助動詞的に使用されている．マルタ語は【視覚／聴覚以外の感覚による判断】と【伝聞】とを，積極的に区別しないようである．例文(58-2)では，モダリティ助動詞 *j-af* 'know' が現れているようである．こちらは，【可能性】との関連を指摘できる．

3-21　もしお金があったら，あの車を買うんだけれどなあ．【反実仮想】
If I had money, I would buy that car.

(59-1) *li kieku kell=i l-flus, kon-t n-ixtri dik il-karozza*
if have:PFV=1SG DEF-money.PL be:PFV-1SG 1SG-buy:IPFV dem.DIST.F.SG DEF-car.F.SG

(59-2) *li kieku għand=i l-flus, n-ixtri dik il-karozza*
if have:PRS=1SG DEF-money.PL 1SG-buy:IPFV DEM.DIST.F.SG DEF-car.F.SG

3-22　もしあなたが教えてくれていなかったら，私はそこにたどり着けなかったでしょう．【反実仮想の過去】
If you hadn't told me, I wouldn't have gotten there.

(60) *li kieku m'=għid-t=l=i=x, ma kon-t=x nasal hemm(hekk)*
if NEG=say:PFV-2SG=DAT=1SG=NEG NEG be:PFV-1SG=NEG arrive:PFV.3SG.M there

調査 3-21 および調査 3-22 では，従属節と主節の時制・相の形式に注目したい．時制と相については，4.2 節「アスペクト」を参照せよ．

表 11: 調査 3-21 と調査 3-22 の整理

		従属節（前件）「もしお金があったら，		主節（後件）あの車を買うんだけれどなあ．	
		時制	相	時制	相
調査 3-21【反実仮想】	(59-1)	-	完結	過去	未完結
	(59-2)	現在	-	-	未完結
調査 3-22【反実仮想の過去】	(60)	-	完結	過去	**完結**

こうして整理すると，時制と相の現れ方について，調査 3-21 の例文(59-2)が異質である．相についてみると，例文(59-2)のみ完結形が前件にも後件にも現れていない．調査 3-21 の日本語例文は，「もし（今）お金があったら，あの車を買うんだけれどなあ」という反実仮想的ではない読みが可能であり，例文(59-

2)はこの読みを反映しているのではないだろうか．対して，例文(59-1)，(60)では，前件に完結形が現れており，これは Vanhove (2010: 5) の「反実仮想の表現において完結形の使用が義務的である」という記述と一致している．例文(59-1)と例文(60)の違いは，後件においてみられ，例文(59-1)では過去の未完結形が，例文(60)では過去の完結形が現れている．反実仮想と完結形の使用の関連から，例文(60)は例文(59-2)よりも実現可能性の度合いが低いと考える．実現可能性の低い順に整理すると，前件→後件で，完結形→過去完結形，完結形→過去未完結形，現在→未完結形となる．もちろん，ここでの整理は限られたデータからある傾向を述べたのみであって，より具体的な記述のためにはより多くの例文を参照しなければならない．

3-23　（あの人は）街へ行きたがっている．【3 人称の主体による希望】
He’s wanting to go to the city.

(61-1)	*ħand=u*	*aptit*	*i-mur*	*il-belt*
	have:PRS=3SG.M	appetite.M.SG	3SG.M-go:IPFV	DEF-city.M.SG
(61-2)	*ħand=u*	*aptit*	*i-mur*	*sa=l-belt*
	have:PRS=3SG.M	appetite.M.SG	3SG.M-go:IPFV	till=DEF-city.M.SG

例文(61)は，3-6【1 人称による希望】の例文(44)と異なり，迂言的な構文となっている．例文(44)ではモダリティ助動詞 *ried* ‘want’ によって【希望】を表していた．例文(61)では，「〜する気を持つ」というような言い回しとなっている．

3-24　僕にもそれを少し飲ませろ．【1 人称命令】
Let me drink that a bit.

(62)	*ħalli=ni*	*ni-xrob*	*ftit*	*minn=u*
	leave.IMP=1SG	1SG-drink:IPFV	little	from=3SG.M

3-25　これはあの人に持って行かせろ／持って行かせよう．【3 人称命令】
Have him bring that. / Let’s have him bring that.

(63)	*ġiegħl-u*	*j-ġib*	*dak*	*miegħ=u*	/
	compel:IMP-PL	3SG.M-bring:IPFV	DEM.DIST.M.SG	with=3SG.M	/
	ejja	*n-ġegħl-u=h*	*i-ġib=hu=l=na*		*(dak)*
	INTERJ	1-compel:IPFV-PL=3SG.M	3SG.M-bring:IPFV=3SG.M=DAT=1SG		(DEM.DIST.M.SG)

例文(62)，(63)を見ると，【1 人称命令】と【3 人称命令】で使役の形式が異なることが分かる．【1 人称命令】では，動詞 *ħalla* ‘leave’ の 1 人称単数を目的語とした命令形が用いられ，目的の動作は後続する 1 人称単数の動詞が担う．【3 人称命令】では，動詞 *ġiegħel* ‘compel’ の命令形が用いられる．この使用する語彙の違いは，【1 人称命令】がふつう 1 人称自身の願望を表し，【3 人称命令】は必ずしも 3 人称の願望ではないという語用論的な違いによるものだと考える．

3-26　そのテーブルの上のお菓子は後で食べなさい．【遠未来命令形】
Eat the snack on the table afterwards.

(64)	*kul*	*l-ikla*	*ħafifa*	*ta’*	*fuq*	*il-mejda*	*iktar*	*tard*
	eat.IMP	DEF-meal.F.SG	light.F.SG	of	on	DEF-table.F.SG	more	late

例文(64)では，動詞 *kiel* ‘eat’ の命令形が用いられている．マルタ語の命令形に近未来／遠未来の区別は見出せない．

3-27　もっと早く来ればよかった．【反実仮想 2】
If only I had come earlier...

(65)　*li kieku*　*biss*　*ġej-t*　*aktar*　*kmieni*
if　only　come:PFV-1SG　more　early

例文(65)では，従属節のみで主節はなく，動詞 *ġie* ‘go’ の完結形が用いられている．従属節に完結形が用いられるタイプの反実仮想の文という点で，例文(59-1)，(60)と共通する．

3-28　あなたも一緒に行ったら（どうですか）？【脱従属化】

(66)　*xi*　*t-għid-u*　*jekk*　*t-morr-u*　*flimkien*?
what　2-say:IPFV-PL　if　2-go:IPFV-PL　together

調査 3-28 において，調査例文は 2 人称単数への呼びかけを想定したものであるが，例文(66)のマルタ語訳では 2 人称複数となっている．

3-29　オレがそんなこと知るか！【（疑問詞を含まない）反語】
How would I know (about that)!

(67)　*kif*　*t-rid=ni*　*n-kun*　*n-af*　*(dwar=ha)?*
how　2SG-want:IPFV=1SG　1SG-be:IPFV　1SG-know:IPFV　(about=3SG.F)

例文(66)，(67)では【脱従属化】あるいは【（疑問詞を含まない）反語】といったストラテジーは採られていない．例文(66)，(67)どちらも疑問詞疑問文であり，例文(66)では疑問詞 *xi* ‘what’，例文(67)では疑問詞 *kif* ‘how’ が用いられている．疑問の対象は 2 人称の行為であり，例文(66)では「言う」，例文(67)では「欲する」である．

3-30　これを作った（料理した）のは，お母さんだよね？／いいえ，私が作ったのよ．【付加疑問】
Your mother made this, didn’t she? / No, I made it.

(68-1)　*dan*　*omm=ok*　*għaml-it=u,*　*hux*　*veru?*　/
DEM.PROX.M.SG　mother.F.SG=2SG　do:PFV-3SG.F=3SG.M　COP.NEG.M.SG　true.M.SG　/
le,　*jien(a)*　*għamil-t=u*
no　1SG　do:PFV-1SG=3SG.M

(68-2)　*din*　*omm=ok*　*għaml-it=ha,*　*hux*　*veru?*　/
DEM.PROX.F.SG　mother.F.SG=2SG　do:PFV-3SG.F=3SG.F　COP.NEG.M.SG　true.M.SG　/
le,　*jien(a)*　*għamil-t=ha*
no　1SG　do:PFV-1SG=3SG.F

4.4. 「ヴォイスとその周辺」（語研論集　第 17 号）

本節では，マルタ語のヴォイスを取り扱う．ヴォイスのうち受動表現は 4.1 節を参照されたい．次では，4.1 節では扱わなかったヴォイス表現についてを主に Borg and Azzopardi-Alexander (1997) を参考にして述べる．4.1 節で見たように，動詞の受動表現には動詞語幹に要素 *n*，*t* を添加してつくる総合的受動と，動詞 *ġie* ‘come’ などと受動分詞によってつくる分析的受動がある．Borg and Azzopardi-Alexander (1997:219) によると，使役表現にも総合的なものと分析的なものがある．Borg and Azzopardi-Alexander (1997:218-219) によれば，語幹構造が $C_1vC_2vC_3$ または $C_1C_2vvC_3$ である動詞のうち，語幹の C_2 の重子音化によって語幹構造を $C_1vC_2C_2vC_3$ とすることで使役形を作ることができるものがある（例：*sema’* ‘hear’ → *semma’* ‘cause to hear’，*ħxien* ‘become fat’ → *ħaxxan* ‘fatten’）．Alexander (1997:219) によれば，語幹構造が C_1vC_2 である動詞も $C_1vC_iC_ivC_2$ と語幹を拡張することで使役形を作ることができる（例：*daq* ‘taste’ → *dajjaq* ‘cause to taste’）．Borg and Azzopardi-Alexander (1997: 218) によれば，$C_1vvC_2vC_3$ という語幹構造も使役形として特徴づけられうる（例：*qagħad* ‘stay’ → *qiegħed* ‘place’，*fehem* ‘understand’ → *fiehem* ‘explain’）．Borg and Azzopardi-Alexander (1997:219) によれば，上記のような総合的な使役表現を作れない場合，動詞 *ġiegħel* ‘compel’ を付して使役表現を作ることができるという（例文[969]，[970]）．

[969] *il-Fra* ***ġiegħel*** *j-iekol* *sakemm* *xaba’*
DEF-friar.M.SG **compel:PFV.3SG.M** 3SG.M-eat:IPFV until satisfy:PFV.3SG.M
‘The Friar made him eat until he was full up.’

[970] *il-pirata* ***ġiegħel*** *lil=l-pajlit* *j-illendja*
DEF-pirate.M.SG **compel:PFV.3SG.M** OBJ=DEF-pilot.M.SG 3SG.M-land:IPFV
l-ajrplan *malajr*
DEF-airplane.M.SG immediately
‘The hijacker made the pilot to land the airplane [immediately].’

Borg and Azzopardi-Alexander (1997: 94) によれば，マルタ語には再帰代名詞 *nnifs*，*ruħ* があり，人称代名詞に後続させることで再帰を表現できる．

[484] *t-rid* *teżamina* *lil=ek* ***innifs=ek*** *sewwa...*（中略）
2SG-want:IPFV examine.F.SG OBJ=2SG **self=2SG** well
‘You have to examine yourself carefully...’

[485] *oħt=u* *ma* *ġab-it=x* ***ruħ=ha*** *sewwa* *lbieraħ*
sister.F.SG=3SG NEG bring:PFV-3SG.F=NEG **self=3SG** well yesterday
‘His sister did not behave properly yesterday’

（Borg and Azzopardi-Alexander 1997: 94; グロスは筆者による）

4-1a （風などで）ドアが開いた．【自動詞と他動詞の対立】
The door opened.

(69a) *il-bieb* *i**n**fetaħ*
DEF-door.M.SG be_opened:PFV.3SG.M

4-1b　（彼が）ドアを開けた．【自動詞と他動詞の対立】
He opened the door.
(69b)　*huwa*　*fetaħ*　*il-bieb*
3SG　open:PFV.3SG.M　DEF-door.M.SG

4-1c　（入り口の）ドアが開けられた．【自動詞と他動詞の対立】
The door was opened.
(69c-1)　*il-bieb*　*i**n**fetaħ*
DEF-door.M.SG　**be**_opened:PFV.M.SG
(69c-2)　*il-bieb*　***ġie***　*miftuħ*
DEF-door.M.SG　**come:PFV.3SG.M**　open.PPRT.M.SG

4-1d　ドアが壊れた．【自動詞と他動詞の対立】
The door broke.
(69d)　*il-bieb*　*i**n**kiser*
DEF-door.M.SG　**be**_broken:PFV.3SG.M

例文(69)では，4.1 節で見た受動表現が現れている．例文(69c-2)は分析的受動，それ以外は総合的受動が使用されている．例文(69a)では，ここで現れる総合的受動の形式は，受動表現というよりも，他動詞からの項の減少による自動詞と言ったほうが正しい．同じようなことが，例文(69d)にも言える．一方，例文(69c)は，総合的受動と分析的受動の 2 通りが示されている唯一の例であるわけだが，おそらく次のような事情がある．総合的受動では，受動表現のほか，前述のように項の減少による自動詞化の機能があるものと思われるが，分析的受動は，受動表現の機能のみに限られる．付け加えて言えば，総合的受動でも，前置詞 *minn* によって動作者が示されれば，受動であることを明示できそうだ．

4-2　私は（自分の）弟を立たせた．【自動詞からの使役】
I made my brother stand up.
(70)　***qajjim-t***　*lil*　*ħi=ja*
cause_to_stand:PFV-1SG　OBJ　brother.M.SG=1SG

4-3　私は（自分の）弟に歌を歌わせた．【他動詞からの使役】
I made my brother sing a song.
(71)　***ġegħil-t***　*lil*　*ħi=ja*　*j-kanta*
compel:PFV-1SG　OBJ　brother.M.SG=1SG　3SG.M-sing:PFV

例文(70)，(71)は，前者が総合的受動，後者が分析的受動と異なるが，これは動詞の他動性というよりも，文献にも示されているとおり語種（借用語か本来語か）の違いによるものと考える．

4-4a　（遊びたがっている子供に無理やり）母は子供をパンを買いに行かせた．【強制使役】
The mother made her child go buy some bread.
(72a-1)　*l-omm*　***ġiegħl-et***　*lil*　*bin=ha*　*j-ixtri*　*xi*　*ħobż*
DEF-mother.F.SG　**compel:PFV-3SG.F**　OBJ　son.M.SG=3SG.F　3SG.M-buy:IPFV　what　bread.M.COLL

(72a-2)	*l-omm*	***ġiegħl-et***	*lil*	*bint=ha*	*t-ixtri*	*xi*	*ħobż*
	DEF-mother.F.SG	**comple:PFV-3SG.F**	OBJ	daughter.F.SG=3SG.F	3SG.F-buy:IPFV	what	bread.M.COLL

例文(70)では，語幹構造 $C_1vC_2C_2vC_3$ による総合的使役，それ以外では動詞 *ġiegħel* ‘compel’ の付加による分析的使役となっている．使役の目的となる動詞は，例文(71)で動詞 *kanta* ‘sing’（借用後 ＜It. kantare）であり，例文(72a)では動詞 *xtara* ‘buy’ であり，両者は使役形をもたないものと考えられる．

4-4b　（遊びに行きたがっているのを見て）母は子供に遊びに行かせた．【許可使役】
The mother let her child go play.

(72b-1)	*l-omm*	*ħall-iet*	*lil*	*bin=ha*	*j-ilgħab*
	DEF-mother.F.SG	leave:PFV-3SG.F	OBJ	son.M.SG=3SG.F	3SG.M-play:IPFV
(72b-2)	*l-omm*	*ħall-iet*	*lil*	*bint=ha*	*t-ilgħab*
	DEF-mother.F.SG	leave:PFV-3SG.F	OBJ	daughter.F.SG=3SG.F	3SG.F-play:IPFV

例文(72)では，文献にない使役表現が現れている．動詞 *giegħel* ‘compel’ ではなく，動詞 *ħalla* ‘leave’ が使われている．この動詞 *ħalla* ‘leave’ は，4.3 節「モダリティ」の【1 人称使役】でも使われている．動詞 *giegħel* ‘compel’ と動詞 *ħalla* ‘leave’ を使役動詞と総称すると，使役動詞のうち前者は【強制使役】，後者は【許可使役】に使い分けられると見ることができる．

4-5a　私は弟に服を着せた．【他動詞による表現と使役の違い，直接行為か間接の行為か】
I dressed my brother.

(73a)	*(jiena)*	***libbis-t***	*lil*	*ħi=ja*
	(1SG)	**cause_to_dress:PFV-2SG**	OBJ	brother.M.SG=1SG

4-5b　私は弟にその服を着させた．【他動詞による表現と使役の違い，直接行為か間接の行為か】
I made my brother wear the clothes.

(73b-1)	***ġegħil-t***	*lil*	*ħi=ja*	*ji-lbes*	*il-ħwejjeġ*
	compel:PFV-1SG	OBJ	brother.M.SG=1SG	3SG.M-dress:IPFV	DEF-cloth.PL
(73b-2)	***libbis-t***	*il-ħwejjeġ*	*lil*	*ħi=ja*	
	cause_to_dress:PFV-1SG	DEF-cloth.PL	OBJ	brother.M.SG=1SG	

調査 4-5a と調査 4-5b とでは，はっきりとした区別は見受けられなかった．強いて言えば，例文(73b-1)では，動詞 *libes* ‘wear’ の主語は 3 人称であることが明示されており，間接行為の使役であることが明白であることを指摘できる．

4-6　私は弟にその本をあげた．【やりもらい，（話者から見ての）授恩恵の受恩恵の違い】
I gave my brother the book.

(74)	*ta-jt*	*il-ktieb*	*lil*	*ħi=ja*
	give:PFV-1SG	DEF-book.M.SG	OBJ	brother.M.SG=1SG

4-7a　私は弟に本を読んであげた．【やりもらい，（話者から見ての）授恩恵の受恩恵の違い】
I read my brother a book.

(75a)　*qra-jt*　*il-ktieb*　*lil*　*ħi=ja*
read:PFV-1SG　DEF-book.M.SG　to　brother.M.SG=1SG

4-7b　兄は私に本を読んでくれた．【やりもらい，（話者から見ての）授恩恵の受恩恵の違い】
My brother gave me a book.

(75b)　*ħi=ja*　*ta=ni*　*l-ktieb*
brother.M.SG=1SG　give:PFV-1SG　DEF-book.M.SG

4-7c　私は母に髪を切ってもらった．【テモラウ】
I had my mother cut my hair.

(75c)　***ġegħil-t***　*lil*　*omm=i*　*ta-qtagħ=l=i*　*xagħr=i*
compel:PFV-1SG　OBJ　mother.F.SG=1SG　3SG.F-cut:IPFV=DAT=1SG　hair.M.COLL=1SG

調査 4-6 から調査 4-7b にかけては，授恩恵の受恩恵の違いや（日本語のように）授受動詞が助動詞的に使えるかといったことを調べるねらいがあったが，調査 4-7b について問題があったように思う．調査 4-7b の日本語のほうでは「読む」という行為が含まれるものの，英語文のほうではそれがない．この日本語文と英語文の乖離はインフォーマントの回答を悩ませてしまったに違いないと考える．さて，ここで授受動詞として使われているのは動詞 *ta* ‘give’ である．この動詞が助動詞として授受関係を表すのに使えるかどうかは興味深いところである．すくなくとも，例文(75a)のような表現には現れていない．本稿全体でみても，動詞 *ta* ‘give’ の助動詞として使用している例はない，ということが指摘できる．

他方，「もらう」すなわち恩恵を受ける表現に関しては，例文(75c)をみると，マルタ語では使役表現で表すようだ．

4-8a　私は（自分の）体を洗った．【再帰】
I washed my body.

(76a-1)　*ħsil-t*　*ġism=i*
wash:PFV-1SG　body.M.SG=1SG

(76a-2)　*inħsil-t*
wash_oneself:PFV-1SG

4-8b　私は手を洗った．【再帰】
I washed my hands.

(76b)　*ħsil-t*　*idej=ja*
wash:PFV-1sg　hand.F.PL=1SG

4-8c　彼は手を洗った．【再帰】
He washed his (own) hands.

(76c)　*ħasel*　*idej=h*　*(stess)*
wash:PFV.3SG.M　hand.F.PL=3SG.M　(by_oneself)

マルタ語の再帰表現について見よう．調査 4-8 で共通で使用される動詞 *ħasel* ‘wash’ であるが，調査 4-8a 例文(76a-2)のみ，要素 *n* が添加されたものになっている．要素 *n* は，総合的受動を形成する機能とともに，このように再帰的な意味をもたせる機能もある（このことについてはすでに 4.1 節で見た）．例文(76a-2)の *inħsil-t* は，要素 *n* による再帰化とともに結合価が減少し自動詞となった結果，目的語を取らなくなっている．行為が全身の及ぶ場合ならば，総合的な再帰表現が可能であるが，例文(76b)，(76c)のように「手を」と限定されると，要素 *n* による再起表現は現れないようだ．例文(76b)で再帰を標示している要素は，接語代名詞 *=ja* であろう．例文(76c)では，副詞 *stess* が再帰を「強調」しているようだ．

4-9　（自分のために）私はその本を買った．【自利態】
I bought myself the book.

(77-1)	*xtra-jt*	*il-ktieb*	*li=ni*	***nnifs=i***
	buy:PFV-1SG	DEF-book.M.SG	to=1SG	**self=1SG**
(77-2)	*xtraj-t*	*il-ktieb*	*għali=ja*	***stess***
	buy:PFV-1SG	DEF-book.M.SG	for=1SG	**(by_oneself)**

調査 4-9 は，自分自身への利益のために行う行為を述べるのにどのような言語形式が現れるか調べたものである．例文(77)を見ると，マルタ語ではこういった表現に再起表現が使われることがわかる．例文(77-2)は，先の例文(76c)でも見た．例文(77-1)は，文献にも挙げられていた再帰代名詞 *nnifs* ‘self’である．

4-10　彼らは（／その人たちは）（互いに）殴り合っていた．【相互】
They were hitting each other.

(78-1)	*kien-u*	*qed*	*j-olqt-u*	*lil*	***xulxin***
	be:PFV-3PL	PROG	3-hit:IPFV-PL	OBJ	**each_other**
(78-2)	*kien-u*	*qed*	*i-sawt-u*	*lil*	***xulxin***
	be:PFV-3PL	PROG	3-beat:IPFV-PL	OBJ	**each_other**
(78-3)	*kien-u*	*qed*	*j-issawt-u*		
	be:PFV-3PL	PROG	3-be_beaten:IPFV-PL		

例文(78-1), (78-2)においては, 相互代名詞 *xulxin* ‘each other’ が用いられて相互行為が表現されている．他方，例文(78-2)と例文(78-3)を比較すると，例文(78-3)における総合的な構造が発見できる．例文(78-2)では，動詞 *sawwat* ‘beat’ と相互代名詞 *xulxin* ‘each other’ の組み合わせにより相互行為が表現されている．例文(78-3)では，動詞 *sawwat* ‘beat’ に要素 *t* が添加された動詞 *ssawwat* ‘be beaten’ のみにより相互行為が表されている（要素 t の相互表現のための用法および /s/ への同化については，すでに 4.1 節で触れた）．

4-11　その人たちは（みんな一緒に）街へ行った．【衆動】
They (all) went to the city together.

(79-1)	*(huma)*	*marr-u*	*ʻl*	*belt*	*(kollha)*	*flimkien*
	(3PL)	go:PFV-3PL	to	city.M.SG	(all)	together
(79-2)	*(huma)*	*marru*	*ʻl*	*belt*	*(kollha)*	*f’daqqa*
	(3PL)	go:PFV-3PL	to	city.M.SG	(all)	at_once

例文(79)では,【衆動】を表す特別な動詞形式はなく，副詞*(kollha) flimkien* ‘(all) together’，*(kollha) f’daqqa* ‘(all) at_once’ によって【衆動】の事態が表されている．

4-12　その映画は泣ける（その映画を見ると泣いてしまう）.【自発】
The movie makes you cry.

(80-1)	*dan*	*il-film*	***i-ġieġħl=ek***	*t-ibki*
	DEM.DIST.M.SG	DEF-movie.M.SG	**3SG.M-compel:IPFV=2SG**	2SG-cry:IPFV
(80-2)	*dan*	*il-film*	***i-bekki=k***	
	DEM.DIST.M.SG	DEF-movie.M.SG	**3SG.M-cause_to_cry:IPFV=2SG**	

例文(80)を見ると，マルタ語における【自発】は使役表現によって表すことができるようだ．例文(80-1)では使役動詞 *ġieġħel* ‘compel’ が，例文(80-2)では重子音化による総合的使役が使われている．

4-13-a　私は卵を割った.【意志】
I cracked the egg open.

(81a)	*qsam-t*	*bajda*
	crack:PFV-1SG	egg.F.SG

4-13b　（うっかり落として）私はコップを割った／割ってしまった.【無意志】
I broke the glass.

(81b-1)	*ksir-t*	*it-tazza*
	break:PFV-1SG	DEF-glass.F.SG
(81b-2)	***kissir-t***	*it-tazza*
	cause_to_break:PFV-1SG	DEF-glass.F.SG

4-13c　私はコップを（故意に）割った.
I (accidentally) broke the glass.

(81c)	*jiena*	*(bi żball)*	***kissir-t***	*it-tazza*
	1SG	(by mistake.M.SG)	**cause_to_break:PFV-1SG**	DEF-glass.F.SG

こちらも調査でも，調査票の問題があった．おそらく，調査 4-13b と 4-13c とで英語文が逆になってしまっている．ここでは，調査 4-13c の回答を，調査 4-13b への回答として扱うこととする.【無意志】で現れている形式の特徴を,【意志】と比較して示すと，副詞 *bi żball* ‘by mistake’ と動詞 *kiser* ‘break’ の使役形 *kisser* ‘cause to break’ の使用を挙げることができる．

4-14a　きのう私はコーヒーを飲みすぎて（飲みすぎたので）眠れなかった.【随意の不可能と不随意の不可能】
Yesterday, I drank too much coffee and couldn’t sleep.

(82a)	*ilbieraħ*	*xrob-t*	*wisq*	*kafè*
	yesterday	drink:PFV-1SG	too_much	coffee.M.SG
	u	*ma*	*sta-jt=x*	*n-orqod*
	and	NEG	be_able:PFV-1SG=NEG	1SG-sleep:IPFV

4-14-b　きのう私は仕事がたくさんあって（たくさんあったので）眠れなかった.【随意の不可能と不随意の不可能】
Yesterday, I had too much work and couldn’t sleep.

(82b)　*ilbieraħ*　*kell=i*　*wisq*　*xogħol*
yesterday　have:PFV=1SG　too_much　work.M.SG
u　*ma*　*sta-jt=x*　*n-orqod*
and　NEG　be_able:PFV-1SG=NEG　1SG-sleep:IPFV

【随意の不可能と不随意の不可能】について，例文(81a)，(81b)を見てみると，両者の間に形式的な違いはなく，どちらも 4.3 節で見た【状況可能】の否定であると考える.

4-15　私は頭が痛い.【全体と部分・主体・一時的】
I have a headache.

(83-1)　*għand=i*　*wġigħ*　*ta’*　*ras*
have:PRS=1SG　pain.M.SG　of　head.F.SG

(83-2)　*għand=i*　*ras=i*　*t-uġagħ=ni*
have:PRS=1SG　head.F.SG=1SG　3SG.F-give_pain:IPFV=1SG

例文(83-1)，(83-2)を見ると，どちらも擬似動詞 *kell=u* ‘have’ があり所有表現の 1 種である点で共通する．所有の対象は，例文(83-1)では「頭の痛み」であり，例文(83-2)では「私に痛みを与える頭」となる．例文(83-2)において，定動詞 *t-uġagħ=ni* 3SG.F-give_pain:IPFV=1SG が現れているが，この定動詞と直前の名詞 *ras=i* head.F.SG=1SG との統語的関係については 4.10 節を参考にされたい.

4-16　彼女は髪が長い.【全体と部分・主体・恒常的】
She has long hair.

(84)　*għand=ha*　*xagħar=ha*　*twil*
have:PRS=3SG.F　hair.M.COLL=3SG.F　long.M.SG

前の【全体と部分・主体・一時的】でみたものと同じく所有表現がここでも使用されている．次の節で詳しく述べるが, マルタ語では一定の条件下で名詞と形容詞どちらにも定性の標示が現れる. 名詞は, 定冠詞 *l-* または接語代名詞により定を標示する（例文 84 では三人称単数女性の接語代名詞 *=ha* により名詞 *xagħar* ‘hair’ は定となっている）.

4-17a　彼は（別の）彼の肩をたたいた.【全体と部分・対象・接触／結果状態が継続的】
He tapped his shoulder.

(85a)　*huwa*　*teptep*　*subgħaj=h*　*fuq*　*spallt=i*
3SG.M　tap:PFV.3SG.M　finger.PL=3SG.M　on　shoulder.F.SG.CONS=1SG

調査 4-17a について，調査例文は「彼の肩」となっているが，マルタ語訳では「私の肩」となってしまっていることを注意しておく.

4-17b　彼は（別の）彼の腕をつかんだ.【全体と部分・対象・接触／結果状態が継続的】
He grabbed his arm.

(85b-1)	*huwa*	*qabad=l=u*	*driegħ=u*
	3SG.M	catch:PFV.3SG.M=DAT=3SG.M	arm.M.SG=3SG
(85b-2)	*huwa*	*qabad=l=u*	*dirgħaj=h*
	3SG.M	catch:PFV.3SG.M=DAT=3SG.M	arm.PL=3SG
(85b-3)	*huwa*	*qabad=l=u*	*id=u*
	3SG.M	catch:PFV.3SG.M=DAT=3SG.M	hand.F.SG=3SG.M

例文(85a)では，マルタ語訳で「彼の肩」ではなく「私の肩」となってしまっている点が問題を一応指摘しておく．例文(85a)の表現はかなり迂言的につくられている：lit.「彼は彼の指を私の肩の上でタップする」. マルタ語でよく使われる言い回しなのであろうか. 調査 4-17b の例文(85b)は, 従属部である *driegħ* ‘arm’，*id* ‘hand’ のほうにも接語代名詞（所有を表す）がでており，主要部である動詞 *qabad* ‘catch’ の方に先と接語代名詞と同一指示と思われる与格目的語が現れている．例文(85b)は，マルタ語における二重標示の例と言える．

4-18a　私は彼がやって来るのを見た.【知覚構文】
I saw him come.

(86a)	*jiena*	*ra-jt=u*	*ġej*
	1SG	see:PFV-1SG=3SG.M	come.APRT.M.SG

4-18b　私は彼が今日来ることを知っている.【知覚構文】
I know he will come today.

(86b-1)	*jiena*	*n-af*	*li*	*ġej*	*illum*	
	1SG	1SG-know:IPFV	SUB	come.APRT.M.SG	today	
(86b-2)	*jiena*	*n-af*	*li*	*se*	*ji-ġi*	*llum*
	1SG	1SG-know:IPFV	SUB	PROS	3SG.M-come:IPFV	today

知覚構文について調べた調査 4-18a, b は以下のようにはっきり分かれた．調査 4-18a では，例文(86a)をみると，単文で表されている．一方，調査 4-18b のほうでは，補文標識 *li* による複文が形成されている．補文標識以下の内容は，例文(86b-1)では例文(86a)と同様に現在分詞が使われ，その現在分詞が述語となっている，一方例文(86b-2)では，述語は定動詞（将然相）となっている．

4-19　彼は自分（のほう）が勝つと思った.【引用文中の再帰】
He thought he (himself) would win.

(87-1)	*huwa*	*ħaseb*	*li*	*hu*	***(stess)***	*se*	*j-irbaħ*	
	3SG.M	think:PFV.3SG.M	SUB	3SG.M	**(by_oneself)**	PROS	3SG.M-WIN:IPFV	
(87-2)	*huwa*	*ħaseb*	*li*	*hu*	***(stess)***	*kien*	*se*	*j-irbaħ*
	3SG.M	think:PFV.3SG.M	SUB	3SG.M	**(by_oneself)**	be:PFV.3SG.M	PROS	3SG.M-win:IPFV

例文(87)では, 再帰を示す副詞 *stess* ‘by oneself’ の使用が示されているが, 選択的な要素となっている.

4-20-a　私は（コップの）水（の一部）を飲んだ．【部分的に及ぶ動作と全体に及ぶ動作】
I drank some of the water in the glass.

(88a-1)　*xrob-t*　*xi ftit*　*mil=l-ilma*　*ta’*　*ġo=t-tazza*
drink:PFV-1SG　a_little　from=DEF-water.M.SG　of　inside=DEF-glass.F.SG

(88a-2)　*jiena*　*xrob-t*　*xi ftit*　*mil=l-ilma*　*ta=t-tazza*
1SG　drink:PFV-1SG　a_little　from=DEF-water.M.SG　of=DEF-glass.F.SG

4-20-b　私は（コップの）水を全部飲んだ．【部分的に及ぶ動作と全体に及ぶ動作】
I drank all of the water in the glass.

(88b)　*jiena*　*xrob-t*　*l-ilma*　*kollu*　*(li*　*kien*　*hemm)*　*f=it-tazza*
1SG　drink:PFV-1SG　DEF-water.M.SG　all　(SUB　be:PFV.3SG.M　there)　in=DEF-glass.F.SG

上記 2 つの調査は，「水を飲む」に限定したものであるものの，部分影響・全体影響の別をみている．部分影響は，例文(88a)にみると，量数詞 *xi ftit* ‘a little’ と前置詞 *minn* ‘from’ によって，「コップの水から少し」という表現となっている．全体影響は，例文(88b)をみると，もっぱら副詞 *koll* ‘all’ によって示されている．

4-21　彼は肉を食べない．【恒常的な否定文】
He doesn’t eat meat.

(89)　*huwa*　*ma*　*j-ikol=x*　*laħam*
3SG　NEG　3SG.M-eat:IPFV=NEG　meat.M.SG

例文(89)では習慣相（4.2 節を参照）に否定表現が合わされて【恒常的な否定文】が作られているものと考える．

4-22-a　今日は寒い．【感覚述語述語・非人称文／感覚主体の存在が感じられない】
It’s cold today.

(90a)　*illum*　*(il-)bard*
today　(DEF-)cold.M.SG

例文(90a)では，主語がなく，名詞 *bard* ‘cold’ があるのみである．文頭の *illum* は名詞ではなく副詞である．

4-22-b　私は（何だか）寒い（私には寒く感じる）．【感覚述語述語・非人称文／斜格主語】
I feel cold.

(90b)　*jiena*　*qed*　*in-ħoss*　*(daqsxejn)*　*(il-)bard*
1SG　PROG　1SG-feel:IPFV　(rather)　(DEF-)cold.M.SG

感覚主体「私」は代名詞 *jiena*（主格）によって示されている．感情述語は自他両用の動詞 *ħass* ‘feel’ であり，目的語 *bard* ‘cold’ を取っている．

4-23　人がとても多かったことに私は驚いた．【（感情主体が受動的である）感情述語】
I was surprised that there were many people.

(91-1)	*kon-t*	*mistagħġeb*	*li*	*kien*	*hemm*	*ħafna*	*nies*
	be:IPFV-1SG	surprise.PPRT.M.SG	SUB	be:PFV.3SG.M	there	a_lot	person.PL

(91-2)	*stagħġib-t*	*li*	*kien*	*hemm*	*ħafna*	*nies*
	be_surprised:PFV-1SG	SUB	be:PFV.3SG.M	there	a_lot	person.PL

例文(91-1)と例文(91-2)は，感情述語としてともに動詞 *stagħġeb* ‘be surprised’ が用いられている．例文(91-1)ではその（受動）分詞形が，例文(91-2)では定動詞形が使われている．感情述語の原因たる内容は補文節となって表現されている．

4-24　雨が降り始めた．【現象文・現場での直接体験】
It started to rain.

(92-1)	*bdi-et*	*nieżla*	*x-xita*
	start:PFV-3SG.F	fall.APRT.F.SG	DEF-rain.F.SG
(92-2)	*bdi-et*	*ti-nżel*	*ix-xita*
	start:PFV-3SG.F	3SG.F-fall:IPFV	DEF-rain.F.SG

例文(92)において，始動は動詞 *beda* ‘start’ が表す．動詞 *beda* ‘start’ は，例文(92-1)では直後に現在分詞を取り，例文(92-2)では定動詞 *niżel* ‘fall’ を取る．述語（現在分詞も含む）は，すべて名詞 *x-xita* ‘the rain’ に一致している．定動詞 *niżel* ‘fall’ は「雨」に限らず，広く下方への移動を意味する動詞である．

4-25　この本はよく売れる．【中間構文】
This book sells well.

(93)	*dan*	*il-ktieb*	*qed*	*j-i**n**biegħ*	*sew*
	DEM.PROX.M.SG	DEF-book.M.SG	PROG	3SG.M-sell_oneself:IPFV	well

述語動詞 ***n**biegħ* ‘sell_oneself’ は，要素 *n*（4.1 節を参照）を持ち，ここでは再帰的な意味を表してるものと思われる．

4.5. 「所有・存在表現」（語研論集　第 18 号）

5-1　あの人は青い目をしている．／青い目の人・目が青い人【一体的（譲渡不可能的）な，恒常的な所有】

She has blue eyes.

(94-1)　*għand=ha*　*għajnej=ha*　*żoroq*

have:PRS=3SG.F　eye.PL=3SG.F　blue.PL

(94-2)　*għand=ha*　*għajnej=ha*　*blu*

have:PRS=3SG.F　eye.PL=3SG.F　blue

5-2　あの女｛は／の｝髪が長い・あの女は長い髪をしている／長い髪の女・髪の長い女【一体的な，恒常的所有】

She has long hair.

(95)　*għand=ha*　*xagħar=ha*　*twil*

have:PRS=3SG.F　hair.M.COLL=3SG.F　long.M.SG

例文(95)は，前節の例文(84)と同じである．例文(94)も，統語関係は例文(95)のそれと同じであると考える．擬似動詞 *kell=u* ‘have’（*kell* は完結形の語幹で，*għand* は未完結形の語幹である．本稿では動詞の代表形を完結形・3 人称・男性・単数により示している；4.2 節）によって所有を示す．

5-3　あの人には髭がある．／髭の男【非普通所有物】

He has a beard. / a man with a beard

(96)　*għand=u*　*(d-)daqna*　/　*raġel*　*b=id-daqna*

have:PRS=3SG.M　(DEF-)beard.F.SG　/　man.M.SG　with=DEF-beard.F.SG

例文(96)でも，例文(94)，(95)同様，擬似動詞 *kell=u* ‘have’ が使用されている．後半の名詞句による表現では，前置詞 *bi* ‘with’ によって所有関係が表されている．

5-4　あの人には（見る）目がある．／見る目のある人【慣用句的表現】

(97-1)　*dik*　*il-persuna*　*għand=ha*　*għajnejn*　*biex*　*t-ara*

DEM.PROX.F.SG　DEF-person.F.SG　have:PRS=3SG.F　eye.PL　in_order_to　3SG.F-see:IPFV

(97-2)　*dik*　*il-persuna*　*għand=ha*　*għajnejn*　*li*　*j-ara-w*

DEM.PROX.F.SG　DEF-person.F.SG　have:PRS=3SG.F　eye.PL　SUB　3-see:IPFV-PL

調査 5-4 は「（見る）目がある」のような慣用句あるいはそれに類する言い回しがあるか調べること目的としていた．例文(97)が，単なる日本語からの逐語訳か，あるいは日本語のように慣用句的な含みある言い回しになっているのかは不明である．今回の結果は参考程度のものであり，別途調査が必要である．

5-5　あの人は 22 歳だ．／22 歳の人【側面語のある表現 1】

He is 22 years old. / a 22-year-old person

(98-1)　*għand=u*　*tnejn*　*u*　*għoxrin*　*sena*　/

have:PRS=3SG.M　two　and　twenty　year.F.SG　/

(98-2) *persuna* *ta'* *tnejn* *u* *għoxrin* *sena*
person.F.SG of two and twenty year.F.SG

ここでも，例文(98-1)に見るように，擬似動詞 *kell=u* 'have' が用いられる．「年齢」という抽象的な性格の事物までにも所有関係を示すことができることから，所用表現における擬似動詞 *kell=u* 'have' の使用範囲の広さが窺える．一方，例文(98-2)をみると，前置詞 *ta'* 'of' もこのタイプの関係を表現できるようだ．

5-6 あの人は優しい性格だ．／優しい性格の人【側面語のある表現 2】
He is kind. / a kind person
(99) *huwa* *ħanin* / *persuna* *ħanin-a*
3SG.M kind.M.SG / person.F.SG kind-F.SG

5-7 あの人は背が高い．／背の高い人【側面語のある表現 3】
He is tall. / a tall person
(100) *huwa* *twil* / *persuna* *twil-a* ;
3SG.M long.M.SG / person.F.SG long-F.SG ;
bniedem *twil*
human_being.M.SG long.M.SG

5-8 あの人は背が 190 センチもある．【側面語のある表現 4】
He is 190cm tall.
(101) *huwa* *twil* *metru* *u* *disgħin* *ċentimetru*
3SG.M long.M.SG meter.M.SG and ninety centimeter.M.SG

5-9 その石は四角い形をしている．／四角い（形の）石【側面語のある表現 5】
The stone is square. / a square stone
(102) *il-ġebla* *hija* *kwadra* / *ġebla* *kwadra*
DEF-stone.F.SG COP.F.SG square.F.SG / stone.F.SG square.F.SG

調査 5-4 ~ 調査 5-9 のような表現では，マルタ語例文(99)~ (102)から明らかなように，マルタ語では「性格」・「背」・「形」といった具体的な名詞を使用はされず，形容詞のみによって表現されている．調査 5-7 において，具体的な数量「190 センチ」はマルタ語では形容詞 *twil* 'long' に続けてなんらかの標識を伴わずに置かれている．

5-10 あの人には才能がある．／才能のある人【属性】
He has talent. / a man with talent
(103) *għand=u* *t-talent* / *raġel* *b'=talent* ;
have:PRS=3SG.M DEF-talent.M.SG / man.M.SG with=talent.M.SG ;
raġel *kapaċi*
man.M.SG able

例文(103)において，名詞 *talent* ‘talent’ と前置詞 *bi* ‘with’ を使った表現があるが，Koptjevskaja-Tamm (1996: 251) では前置詞 *ta’* ‘of’を使った表現が例示されている．

[9f] *kittieb ta’ talent kbir*
writer.M.SG of talent.M.SG big.M.SG
‘a writer of big talent’
（Koptjevskaja-Tamm 1996: 251; グロスは筆者による）

前置詞 *ta’* ‘of’ と前置詞 *bi* ‘with’ の用法の違いは要検討である．例文 [9f] では，修飾語たる形容詞 *kbir* ‘big’ が用いられている点で，より具体的な評価を伴う．前置詞 *ta’* ‘of’ では，前置詞 *bi* ‘with’ と比べて，所有物がより個別的・具体的であるということもできそうである．前置詞 *ta’* ‘of’ で示される所有物がより個別的・具体的という主張を是としても，後の調査 5-22 における例文(115)では形容詞を伴った所有物「幸運」について前置詞 *bi* ‘with’ が使用されているので，個別的・具体的という性質の軸で完全に相補的に対立しているわけではなさそうである．

5-11 あの人は病気だ．／あの人は熱がある．／病気の人【一時的属性】
He is sick. / He has fever. / a sick person
(104) *huwa marid / għand=u d-deni / persuna marid-a*
3SG.M sick.M.SG / have:PRS=3SG.M DEF-fever.M.SG / person.F.SG sick-F.SG

5-12 あの人は青い服を着ている．／青い服の男【衣服等 1】
He is wearing blue clothes. / a man with blue clothes
(105) *liebes ħwejjeġ blu / raġel bi=ħwejjeġ blu*
wear.APRT.M.SG cloth.PL blue / man.m.sg with=cloth.PL blue

5-13 あの人はメガネをかけている．／メガネの男【衣服等 2】
He is wearing glasses. / a man with glasses
(106) *liebes in-nuċċali / raġel bi=n-nuċċali*
wear.APRT.M.SG DEF-glasses.M.SG / man.M.SG with=DEF-glasses.M.SG

例文(105)，(106)で見るように，衣服等の装着を表すには動詞 *libes* ‘wear’ が用いられ，装着するものは直接目的語におかれる．名詞句のみの表現では，前置詞 *bi* ‘with’ が用いられる．

5-14 あの人には妻がいる．／既婚の人・妻のいる人【親族の所有 1】
He has a wife. / a married man
(107) *għand=u mara / miżżewweġ ;*
have:PRS=3SG.M woman.F.SG / marry.PPRT.M.SG ;
raġel miżżewweġ
man.M.SG marry.PPRT.M.SG

5-15　あの人には 3 人子供がいる．／3 人の子持ちの人・あの人の 3 人の子供／妊娠している女性【親族の所有 2】
He has three children. / a man with three children / a pregnant woman

(108)　*ħand=u*　*tlitt*　*itfal*　/　*raġel*　*bi*　*tlitt*　*itfal*　/　mara　tqila
have:PRS=3SG.M　three　child.PL　/　man.M.SG　with　three　child.PL　/　woman.F.SG　heavy.F.SG

5-16　タコには足が 8 本ある．【普遍的な事実】
An octopus has eight legs.

(109)　*qarnita*　*ħand=ha*　*tmien*　*saqajn*
octopus.F.SG　have:PRS=3SG.F　eight　foot.PL

5-17　その飲み物にはアルコールが入っている．／アルコール入りの飲み物【ともに無生物, 含有物】
That drink has alcohol in it. / a drink with alcohol in it.

(110-1)　*dak*　*ix-xorb*　*fi=h*　*l-alkoħol*　/
DEM.PROX.M.SG　DEF-drink.M.SG　contain=3SG.M　DEF-alcohol.M.SG　/
xorb　*b=l-alkoħol*　*fi=h*
drink.M.SG　with=DEF-alcohol.M.SG　in=3SG.M

(110-2)　*dak*　*ix-xorb*　*ħand=u*　*l-alkoħol*　*(ġo)*　*fi=h*
DEM.PROX.M.SG　DEF-drink.M.SG　have:PRS=3SG.M　DEF-alcohol.M.SG　(inside)　in=3SG.M

例文(110)では，擬似動詞 *kell=u* ‘have’ のほか，擬似動詞 *fi=h* ‘contain’ も用いられる．この擬似動詞は前置詞 *fi* ‘in’ と同形であるが，統語上の目的語 *l-alkoħol* ‘the alcohol’ をとり，接語代名詞 =*h* =3SG.M が主語名詞 *xorb* ‘drink’ と一致している点で擬似動詞と言える．Peterson (2013) の擬似動詞のリストにも *fi* が挙げられている．

5-18　あの人はお金を持っている．／お金持ちの人【もっとも一般的な所有，やや恒常的】
That man has money. / a rich man

(111)　*dak*　*ir-raġel*　*ħand=u*　*l-flus*　/　*raġel*　*sinjur*　;
DEM.PROX.M.SG　DEF-man.M.SG　have:PRS=3SG.M　DEF-money.PL　/　man.M.SG　rich.M.SG　;
raġel　*ta=l-flus*
man.M.SG　of=DEF-money.PL

5-19　おまえのところには犬がいるか？／犬のいる人【所有，やや恒常的，所有物は有生・家畜】
Do you have a dog? / a man who has a dog

(112)　*ħand=ek*　*kelb?*　/　*raġel*　*li*　*ħand=u*　*kelb*
have:PRS=2SG　dog.M.SG　/　man.M.SG　SUB　have=3SG.M　dog.M.SG

5-20　おまえは（自分の）ペンを持っているか？／ペンを持っている人【一時的携帯物・自分のもの】
Do you have a pen? / a man who has a pen

(113)　*ħand=ek*　*pinna?*　/　*raġel*　*li*　*ħand=u*　*pinna*
have:PRS=2SG　pen.F.SG　/　man.M.SG　SUB　have:PRS=3SG.M　pen.F.SG

5-21　あの人は（誰か別の人の）ペンを持っている．【一時的携帯物・他人のもの】
He has somebody else’s pen.

(114)　*għand=u*　*l-pinna*　*ta’*　*xi ħadd*　*ieħor*
have:PRS=3SG.M　DEF-pen.F.SG　of　somebody　other.M.SG

5-22　あの人は運がいい．／幸運な人【抽象的・一時的所有物】
He has good luck. / a man with good luck

(115)　*għand=u*　*xorti*　*tajb-a*　/　*raġel*　*xorti=h*　*tajb-a*　;
have:PRS=3SG.M　luck.F.SG　good-F.SG　/　man.M.SG　luck.F.SG=3SG.M　good-F.SG　;
raġel　*b’=xorti*　*tajb-a*
man.M.SG　with=luck.F.SG　good-F.SG

5-23　ここは石が多い．／石の多い土地【恒常的存在＞状態／性質】
There are many rocks here. / a land with many rocks

(116)　*hawn*　*ħafna*　*ġebel*　*(hawn(hekk))*　/　*art*　*b’=ħafna*　*ġebel*
here　a_lot　stone.m.coll　(here)　/　land.F.SG　with=a_lot　stone.M.COLL

5-24　その部屋には椅子が 3 つある／3 つ椅子のある部屋【非恒常的存在と数量】
There are three chairs in the room. / a room with three chairs (in it)

(117)　*hemm*　*tliet*　*siġġijiet*　*fi=l-kamra*　/　*kamra*　*b=itliet*　*siġġijiet*　*(ġo*　*fi=ha)*　;
there　three　chair.PL　in=DEF-room.F.SG　/　room.F.SG　with=three　chair.PL　(inside　in=3SG.F)　;
kamra　*li*　*fi=ha*　*tliet*　*siġġijiet*
room.F.SG　SUB　contain=3SG.F　three　chair.PL

例文(116)，(117)では文頭の副詞 *hawn* ‘here’，*hemm* ‘there’ と名詞句によって存在文を導いている．

5-25　テーブルの上にスプーンがある．／スプーンのあるテーブル【存在・存在が新情報】
There is a spoon on the table. / the table with a spoon on it

(118)　*hemm*　*mgħarfa*　*fuq*　*il-mejda*　/　*mejda*　*b=imgħarfa*　*fuq=ha*
there　spoon.F.SG　on　DEF-table.F.SG　/　table.F.SG　with=spoon.F.SG　on=3SG.F

5-26　そのスプーンはテーブルの上にある．／テーブルにあるスプーン【所在・場所が新情報】
The spoon is on the table. / the spoon on the table

(119)　*l-imgħarfa*　*qiegħd-a*　*fuq*　*il-mejda*　/　*l-imgħarfa*　*(ta’)*　*fuq*　*il-mejda*
DEF-spoon.F.SG　stay.APRT-F.SG　on　DEF-table.F.SG　/　DEF-spoon.F.SG　(of)　on　DEF-table.F.SG

例文(118)と例文(119)では，存在文について，新情報が存在物か場所かで形式の違いが出るか確かめる．例文(118)，(119)を見ると，両者には違いがある．存在物が新情報である例文(118)では，例文(116)，(117)と同様，文頭の副詞と名詞句によって存在が表現される．例文(119)では，いままで見た存在文と異なり，動詞 *qagħad* ‘stay’ の現在分詞 *qiegħed* によって存在が表現されている．

5-27　そのペンは私のだ．・そのペンは太郎のだ．／私のペン・太郎のペン【所有物，属格のプロトタイプ】
That pen is mine (Taro's). / my (Taro's) pen

(120)　*dik* *il-pinna* *hija* {*tiegħ=i* / *(ta' Tarō)*} /
DEM.DIST.F.SG DEF-pen.F.SG COP.3SG.F {of=1SG / (of PN)} /
il-pinna {*tiegħ=i* / *(ta' Tarō)*}
DEF-pen.F.SG {of=1SG / (of PN)}

例文(120)では，前置詞 *ta'* 'of' が，その目的語とともに，いわゆる物主代名詞として機能している点が興味深い．これまでみた前置詞 *ta'* 'of' は「A の B」というように 2 つの名詞間の関係を表すのを主としていたが，ここでは「A の ø」というような形式で物主代名詞を作り出している．

5-28　昨日，学校で火事があった．／私は明日用事があります．【出来事の生起】
There was a fire at our school yesterday. / I have things to do tomorrow.

(121)　*kien* *hemm* *(in-)nar* *(f=)l-iskola* *tagħ=na* *lbieraħ* /
be:PFV.3SG.M there (DEF-)fire (in=)DEF-school.F.SG of=1PL yesterday /
għand=i *(xi)* *affarijiet* *x'=na-għmel* *għada*
have:PRS=1SG (what) affair.PL what=1SG-do:IPFV tomorrow

5-29　（この世には）お化けなんていない．【実在文】
Ghosts don't exist.

(122-1)　*(f='din* *id-dinja)* *ma* *j-eżist-u=x* *l-eħirsa*[9]
(in=DEM.DIST.F.SG DEF-world.F.SG) NEG 3-exist:IPFV-PL DEF-ghost.PL

(122-2)　*(f='din* *id-dinja)* *l-eħirsa* *ma* *j-eżist-u=x*
(in=DEM.DIST.F.SG DEF-world.F.SG) DEF-ghost.PL NEG 3-exist:IPFV-PL=NEG

5-30　（そこには）英語を話す人もいるが，話さない人もいる．【絶対存在文 1】
Some speak English, but others do not.

(123)　*xi wħud* *j-itkellm-u* *b=l-Ingliż,* *imma* *oħrajn* *le*
some 3-speak:IPFV-PL with=DEF-English but other.PL no

5-31　私より英語ができる人は（ほかに／もっと）います．【絶対存在文 2】
There are others who are better at speaking English than I am.

(124)　*hemm* *oħrajn* *li* *huma* *aħjar* *minn=i*
there other.PL SUB 3PL better from=1SG
biex *j-itkellm-u* *b=l-Ingliż*
in_order_to 3-speak:IPFV-PL with=DEF-English.M.SG

[9] 辞書では ***i**ħirsa* の語形が一般的である．冒頭の母音の表記違いが，単なる誤植か発音習慣上の揺れを反映しているのかは不明である．

5-32　ちょっとあなたにお願いがあります.
There is something I want you to do.

(125)　*hemm*　*ħaġa*　*li*　*r-rid=ek*　*ta-għmel*
there　thing.F.SG　SUB　1SG-want:IPFV=2SG　2SG-do:IPFV

5-33　冬の雨／東京の家
a winter rain / a house in Tokyo

(126)　*xita*　*ta=x-xitwa*　/　*dar*　*(ġo)*　*Tokjo*
rain.F.SG　of=DEF-winter.F.SG　/　house.F.SG　(inside)　Tokyo

「東京の家」は前置詞なしでも名詞の並置によって表現し得るようだ．場所表現について，国名・町名などの名詞は前置詞 *fi* ‘in’ を伴わないが，前置詞 *ġo* ‘inside’ は付けることができる．

5-34　彼の泳ぎ／犬の鳴き声／火山の爆発／車の運転／～の小説
his swimming / a dog’s bark / a volcanic eruption / driving a car / Andy’s novel

(127)　*l-għawm*　*tiegħ=u*　/　*in-nebħa*　*ta’*　*kelb*　/
DEF-swimming.M.SG　of=3SG.M　/　DEF-bark.F.SG　of　dog.M.SG　/
eruzzjoni　*vulkanik-a*　/　*is-sewqan*　*ta=l-karozza*　;
eruption.F.SG　volcanic-F.SG　/　DEF-driving.M.SG　of=DEF-car.F.SG　;
li　*s-suq*　*karozza*　/　*in-novella*　*ta’*　*Andy*
sub　2SG-drive:IPFV　car.F.SG　/　DEF-novel.F.SG　of　PN

例文(127)をみると，前置詞 *ta’* ‘of’ の使用範囲がかなり広いことがわかる．例文(129)，(131)も同じ事情である．以下では，前置詞 *ta’* ‘of’ が使用されていないものについて見ていく．「火山の爆発」は，おそらくは英語由来の形容詞 *vulanik* ‘volcanic’ によって表現されている．「車の運転」では，従属節マーカーの *li* が動詞を名詞化させていると捉えることができよう．

5-35　X さん（固有名詞）のお母さん／机の横に／机の前に／*机に（来て！）
Andy’s mother / Come to my desk!

(128)　*omm*　*Andy*　/　*ejja*　*sa=l-iskrivanija*　*tiegħ=i!*
mother　PN　/　come.IMP　till=DEF-desk.F.SG　of=1SG

5-36　バラの花びら／果物のナイフ／紙の飛行機／チューリップの絵／花の匂い／英文の手紙／日本語の先生／井戸の水／雨の日
a rose petal / a fruit knife / a paper airplane / a picture of a rose / the scent of a flower / a letter in English / a Japanese teacher / water from the well / a rainy day

(129)　*petala*　*ta=l-ward*　/　*sikkina*　*ta=l-frott*　/
petal.F.SG　of=DEF-rose.M.COLL　/　knife.F.SG　of=DEF-fruit.M.SG　/
ajruplan　*ta=l-karti*　/　*stampa*　*ta’*　*warda*　/
airplane.M.SG　of=DEF-paper.PL　/　picture.F.SG　of　rose.F.SG　/
riħa　*ta’*　*fjura*　/　*ittra*　*b=l-Ingliż*　/
scent.F.SG　of　flower.F.SG　/　letter.F.SG　with=DEF-English.M.SG　/

ġħalliem *ta=l-Ġappuniż* / *ilma* *mil=l-bir* /
teacher.M.SG of=DEF-Japanese.M.SG / water.F.SG from=DEF-well.M.SG /
jum *ta=x-xita*
day.M.SG of=DEF-rain.F.SG

5-37 妹の花子／社長の田中さん
my younger sister Hanako / Mr. Tanaka the president
(130) *oħt=i* *ż-żgħira* *Hanako* / *is-Sur* *Tanaka,* *il-president*
sister.F.SG=1SG DEF-small.F.SG PN / DEF-mister.M.SG PN DEF-president.M.SG

例文(130)を見ると，固有名詞を伴う親族関係や肩書は同格的な名詞の並置による表現が使用されるようである．

5-38 となりの家の友達のお父さんの車のタイヤ（が昨日突然パンクしたんだって．）
The tire of the car my next-door friend's dad has
(131-1) *it-tajer* *ta=l-karozza* *li* *għand=u* *missier*
DEF-tire.M.SG of=DEF-car.F.SG SUB have:PRS-3SG.M father.M.SG
sieħb=i *li* *j-oqgħod* *maġenb=i*
friend=1SG SUB 3SG.M-stay:IPFV beside=1SG
(131-2) *it-tajer* *ta=l-karozza* *li* *għand=u* *missier*
DEF-tire.M.SG of=DEF-car.F.SG SUB have:PRS-3SG.M father.M.SG
il-ħabib *tiegħ=i* *li* *j-oqgħod* *maġenb=i*
DEF-friend.M.SG of=1SG SUB 3SG.M-stay:IPFV beside=1SG
(131-3) *it-tajer* *ta=l-karozza* *li* *għand=u* *missier*
DEF-tire.M.SG of=DEF-car.F.SG SUB have:PRS-3SG.M father.M.SG
seħibt=i *li* *t-oqgħod* *maġenb=i*
friend.F.SG=1SG SUB 3SG.F-stay:IPFV beside=1SG
(131-4) *it-tajer* *ta=l-karozza* *li* *għand=u* *missier*
DEF-tire.M.SG of=DEF-car.F.SG SUB have:PRS-3SG.M father.M.SG
il-ħabiba *tiegħ=i* *li* *t-oqgħod* *maġenb=i*
DEF-friend.F.SG of=1SG SUB 3SG.F-stay:IPFV beside=1SG

例文(131)をみると，前置詞 *ta*'of' は繰り返し使用することはできないか，あるいは好まれないが，その代わり従属節マーカー*li* が複雑な関係構文を支えていることがわかる．

4.6. 「他動性」（語研論集　第 19 号）

6-1a　彼はそのハエを殺した．【直接影響・変化】
He killed the fly.

(132a)　*qatel*　*dubbiena*
kill:PFV.3SG.M　fly.F.SG

6-1b　彼はその箱を壊した．【直接影響・変化】
He destroyed the box.

(132b)　*i-rruvina*　*l-kaxxa*
3SG.M-ruin:IPFV　DEF-box.F.SG

6-1-c　彼はそのスープを温めた．【直接影響・変化】
He warmed the soup.

(132c)　*saħħan*　*is-soppa*
cause_to_be_warm:PFV.3SG.M　DEF-soup.F.SG

6-1-d　彼はそのハエを殺したが，死ななかった．【直接影響・変化】

(132d-1)　?*huwa*　*qatel*　*dik*　*id-dubbiena*　imma　ma　mit-it=x
3SG.M　kill:PFV.3SG.M　DEM.PROX.F.SG　DEF-fly.F.SG　but　NEG　die:PFV-3SG.F=NEG

(132d-2)　*huwa*　*mingħalih*　*li*　*qatel*　*dik*　*id-dubbiena*
3SG.M　under_the_impression　SUB　kill:PFV.3SG.M　DEM.PROX.F.SG　DEF-fly.F.SG
imma　*ma*　*mit-it=x*
but　NEG　die:PFV-3SG.F=NEG

例文(132)は，典型的な他動詞文である．マルタ語では，ふつう目的語を特別な標識なしで動詞の後に置く．例文(132d)は，いわゆるキャンセル可能性について検討したものである．日本語の例文を逐語訳したと思われる例文(132d-1)は文の適格性に疑問符 “?” が付いている（この判断はインフォーマントによる）．ここでは，例文(132d-2)のように *mingħalih li* ‘under the impression that’ という迂言的な表現よって結果の含意を打ち消すことによって，文を成り立たせる必要があるようだ．

6-2a　彼はそのボールを蹴った．【直接影響・無変化】
He kicked the ball.

(133a-1)　*huwa*　*ta*　*daqqa*　*ta’*　*sieq*　*lil=l-ballun*
3SG.M　give:PFV.3SG.M　strike.F.SG　of　foot.F.SG　to=DEF-ball.M.SG

(133a-2)　*i-xxuttja*　*l-ballun*
3SG.M-shoot:IPFV　DEF-ball.M.SG

6-2b　彼女は彼の足を蹴った．【直接影響・無変化】
She kicked his leg.

(133b)　*ta-t=u*　*daqqa*　*ta'*　*sieq*　/
give:PFV-3SG.F=3SG.M　strike.F.SG　of　foot.F.SG　/
ta-t　*daqqa*　*ta'*　*sieq*　*lil*　*sieq=u*
give:PFV-3SG.F　strike.F.SG　of　foot.F.SG　to　foot.F.SG=3SG.M

例文(133)には，2 種類の「蹴る」の表現がある．1 つは，熟語的な *ta daqqa ta'sieq lil* ~ (lit. 'give a strike of foot to ~') で，もう 1 つは動詞 *xxuttja* 'shoot' である．動作の対象となる名詞 *ballun* 'ball' について，前者は前置詞 *lil* 'to' が介在し，後者は直接目的語で現れる．

6-2c　彼はその人にぶつかった（故意に）．【直接影響・無変化】
He tackled him.

(133c-1)　*i-ttekiljat=u*
3SG.M-tackle:IPFV=3SG.M

(133c-2)　*ġab-it=u*　*dahr=u*　*ma=l-art*
bring:PFV-3SG.F=3SG.M　back=3SG.M　with=DEF-land.F.SG

6-2d　彼はその人とぶつかった（うっかり）．【直接影響・無変化】
He bumped into him.

(133d-1)　*ħabt-et*　*miegħ=u*
bump:PFV-3SG.F　with=3SG.M

(133d-2)　*daħl-et*　*ġo*　*fi=h*
enter:PFV-3SG.F　inside　in=3SG.M

例文(133c)と例文(133d)では，意志的な動作の前者が他動詞，無意志的な動作の後者が自動詞とはっきり別れた．

6-3a　あそこに人が数人見える．【知覚】
I see some people over there.

(134a)　*qed*　*n-ara*　*lil*　*xi*　*nies*　*hemmhekk*
PROG　1SG-see:IPFV　OBJ　what　person.PL　there

6-3b　私はその家を見た．【知覚】
I looked at the house.

(134b)　*ħaris-t*　*lejn*　*id-dar*
look:PFV-1SG　towards　DEF-house.F.SG

6-3c　誰かが叫んだのが聞こえた．【知覚】
I heard somebody yell.

(134c-1)　*sma-jt*　*lil*　*xi ħadd*　*i-werżaq*
hear:PFV-1SG　OBJ　somebody　3SG.M-scream:IPFV

(134c-2) *sma-jt* *lil* *xi ħadd* *j-għajjat*
hear:PFV-1SG OBJ somebody 3SG.M-shout:IPFV

6-3d 彼はその音を聞いた．【知覚】
He heard that sound.
(134d) *sma-jt* *dak* *il-ħoss*
hear:PFV-1SG DEM.PROX.M.SG DEF-sound.M.SG

例文(134a)における *lil* は対格標識として機能する前置詞である．対格標識 *lil* は，有生の直接目的語につく（Borg and Azzopardi-Alexander 136-137）．例文(134c)と例文(134d)を比較するとわかりやすい．同じ動詞 *sema’* ‘hear’ であるが，直接目的語が有生である例文(134c)では目的語の前に対格標識 *lil* が現れ，直接目的語が無生である例文(134d)では対格標識 *lil* が現れていない．ここでは動詞 *ħares* ‘look’ 以外はすべて他動詞であると言える．

6-4a 彼は（なくした）カギを見つけた．【発見・獲得・生産など】
He found the key(he (had) lost).
(135a) *sab* *iċ-ċavetta* *(li* *huwa* *(kien)* *tilef)*
find:PFV.3SG.M DEF-key.F.SG (SUB 3SG.M (be:PFV.3SG.M) lose:PFV.3SG.M)

6-4b 彼は椅子を作った．【発見・獲得・生産など】
He made a chair.
(135b) *huwa* *għamel* *siġġu*
3SG.M do:PFV.3SG.M chair.M.SG

6-5a 彼はバスを待っている．【追及】
He is waiting for the bus.
(136a) *huwa* *qiegħed* *j-istenna* *l-karozza* *ta=l-linja*
3SG.M PROG 3SG.M-wait:IPFV DEF-car.F.SG of=DEF-line.F.SG

6-5b 私は彼が来るのを待っていた．【追及】
I was waiting for him to come.
(136b) *jiena* *kon-t* *qed* *n-istennie=ħ* *j-iġi*
1SG be:PFV-1SG PROG 1SG-wait:IPFV=3SG.M 3SG.M-come:IPFV

6-5c 彼は財布を探している．【追及】
He is looking for his wallet.
(136c) *huwa* *qed* *i-fittex* *il-kartiera* *tiegħ=u*
3SG.M PROG 3SG.M-search:IPFV DEF-wallet.F.SG of=3SG.M

6-6a　彼はいろんなことをよく知っている．【知識１】
He knows many things.
(137a)　*huwa*　*j-af*　*ħafna*　*affarijiet*
3SG.M　3SG.M-know:IPFV　a_lot　affair.PL

6-6b　私はあの人を知っている．【知識１】
I know that person.
(137b)　*jiena*　*n-af*　*lil*　*dik*　*il-persuna*
1SG　1SG-know:IPFV　OBJ　DEM.PROX.F.SG　DEF-person.F.SG

6-6c　彼はロシア語ができる．【知識１】
He can speak Russian.
(137c)　*huwa*　*j-af*　*j-itkellem*　*bi=r-Russu*
3SG.M　3SG.M-know:IPFV　3SG.M-speak:IPFV　with=DEF-Russian.M.SG

6-7a　あなたはきのう私が言ったことを覚えていますか？【知識 2】
Do you remember what I said yesterday?
(138a)　*inti*　*t-iftakar*　*x'=ġħid-t*　*(jiena)*　*ilbieraħ*?
2SG　2SG-remeber:IPFV　what=say:PFV-1SG　(1SG)　yesterday

6-7b　私は彼の電話番号を忘れてしまった．【知識 2】
I forgot his phone number.
(138b)　*jiena*　*nse-jt*　*in-numru*　*ta=t-telefon*　*tiegħ=u*
1SG　forget:PFV-1SG　DEF-number.F.SG　of=DEF-telephone.M.SG　of=3SG.M

6-8a　母は子供たちを深く愛していた．【感情１】
The mother loved her children very much.
(139a)　*l-omm*　*kien-et*　*t-ħobb*　*ħafna*　*lil*　*ulied=ha*
DEF-mother.F.SG　be:PFV-3SG.F　3SG.F-love:IPFV　a_lot　OBJ　child.PL=3SG.F

6-8b　私はバナナが好きだ．【感情１】
I like bananas.
(139b-1)　*in-ħobb*　*il-banana*
1SG-love:IPFV　DEF-banana.F.SG
(139b-2)　*t-ogħġob=ni*　*l-banana*
3SG.F-please:IPFV=1SG　DEF-banana.F.SG

これは語彙的な問題となるが，調査 6-8a における「愛する」love と，調査 6-8b における「好き」like は，マルタ語では同じ動詞 *ħabb* 'like' で表現されており，程度の違いは副詞 *ħafna* 'a lot' によって示されている．文法的には，マルタ語例文(139b-2)が興味深く，文の主語は「バナナ」で，動詞 *għoġob* 'please' が使用され，感情主体の「私」はその動詞の直接目的語として接語代名詞 *=ni* に置かれている．

6-8c　私はあの人が嫌いだ．【感情１】
I hate that person.

(139c)　*jiena*　*n-obgħod*　*dik*　*il-persuna*
1SG　1SG-hate:IPFV　DEM.DIST.F.SG　DEF-person.F.SG

6-9a　私は靴が欲しい．【感情２】
I want a pair of shoes.

(140a)　*ir-rid*　*żarbun*
1SG-want:IPFV　shoes.M.SG

6-9b　今，彼にはお金が要る．【感情２】
He needs some money now.

(140b)　*huwa*　*għand=u*　*bżonn*　*xi*　*flus*　*issa*
3SG.M　have:PRS=3SG.M　need.M.SG　what　money.PL　now

6-10a　（私の）母は（私の）弟がうそをついたのに怒っている．【感情３】
My mother is angry that my brother told a lie.

(141a)　*omm=i*　*hija*　*rrabjat-a*　*li*　*ħi=ja*　*qal*　*gibda*[10]
mother.F.SG=1SG　COP.3SG.F　irritate.PPRT-F.SG　SUB　brother.M.SG=1SG　say:PFV.3SG.M　lie.F.SG

例文(141a)では，述語は受動分詞 *rrabjat* ‘irritated’ で，感情の原因たる内容は後続する従属節標識 *li* 以下によって示されている．

6-10b　彼は犬が怖い．【感情３】
He is scared (afraid) of dogs.

(141b)　*huwa*　*j-ibża’*　*mil=l-klieb*
3SG.M　3SG.M-fear:IPFV　from=DEF-dog.PL

例文(141b)では，感情の対象は動詞 *beża’* ‘fear’ の直接目的語ではなく，前置詞 *minn* ‘from’ を介して表されている．

6-11a　彼は父親に似ている．【関係１】
He resembles his father.

(142a)　*huwa*　*j-ixbah*　*lil*　*missier=u*
3SG.M　3SG.M-resemble:IPFV　OBJ　father.M.SG=3SG.M

[10] 辞書では ***gidba*** の語形が一般的である．単なる誤植か発音習慣上の揺れ（音位転換）を反映しているのかは不明である．

6-11b　海水は塩分を含んでいる．【関係１】
Sea water has salt in it.

(142b-1) *l-ilma* *baħar* *fi=h* *il-melħ*
DEF-water.F.SG sea.M.SG contain=3SG.M DEF-salt.M.SG

(142b-2) *l-ilma* *baħar* *għand=u* *l-melħ* *(ġo)* *fi=h*
DEF-water.F.SG sea.M.SG have:PRS=3SG.M DEF-salt.M.SG (inside) in=3SG.M

6-12a　私の弟は医者だ．【関係２】
My brother is a doctor.

(143a-1) *ħi=ja* *huwa* *tabib*
brother=1SG COP.3SG.M doctor.M.SG

(143a-2) *ħi=ja* *tabib*
brother=1SG doctor.M.SG

6-12b　私の弟は医者になった．【関係２】
My brother became a doctor.

(143b) *ħi=ja* *sar* *tabib*
brother.M.SG=1SG become:PFV.3SG.M doctor.M.SG

6-13a　彼は車の運転ができる．【能力１】
He can drive (a car).

(144a) *huwa* *j-af* *i-suq* *(karozza)*
3SG.M 3SG.M-know:IPFV 3SG.M-drive:IPFV (car.F.SG)

6-13b　彼は泳げる．【能力１】
He can swim.

(144b) *huwa* *j-af* *j-għum*
3SG.M 3SG.M-know:IPFV 3SG.M-swim:IPFV

6-14a　彼は話をするのが上手だ．【能力２】
He is good at giving a speech.

(145a-1) *huwa* *tajjeb* *biex* *j-agħmel* *diskors*
3SG.M good.M.SG in_order_to 3SG.M-do:IPFV discourse.M.SG

(145a-2) *huwa* *j-inqala'* *biex* *j-agħmel* *diskors*
3SG.M 3SG.M-be_available:IPFV in_order_to 3SG.M-do:IPFV discourse.M.SG

6-14b　彼は走るのが苦手だ．【能力２】
He can not run fast.

(145b-1) *huwa* *ma* *j-af=x* *j-iġri* *j-għaġġel*
3SG.M NEG 3SG.M-know:IPFV=NEG 3SG.M-run:IPFV 3SG.M-hurry:IPFV

(145b-2) *huwa* *mhuwiex* *kapaċi* *j-iġri* *j-għaġġel*
3SG.M COP.NEG.3SG.M capable 3SG.M-run:IPFV 3SG.M-hurry:IPFV

6-15a　彼は学校に着いた．【移動】
He arrived at school.
(146a)　*huwa*　*wasal*　*l-iskola*
3SG.M　arrive:PFV.3SG.M　DEF-school.F.SG

6-15b　彼は道を渡った／横切った．【移動】
He crossed the road.
(146b)　*huwa*　*qasam*　*it-triq*
3SG.M　break:PFV.3SG.M　DEF-way.F.SG

6-15c　彼はこの道を通った．【移動】
He took this road.
(146c-1)　*huwa*　*qabad*　*din*　*it-triq*
3SG.M　grasp:PFV.3SG.M　DEM.PROX.F.SG　DEF-way.F.SG
(146c-2)　*huwa*　*għadda*　*minn*　*din*　*it-triq*
3SG.M　be_transmitted:PFV.3SG.M　from　DEM.PROX.F.SG　DEF-way.F.SG

移動の到着点や経路は基本的には直接目的語の位置に置かれるようだ．例文(146c-1)は「このルートを取った／選択した」のようなニュアンスであると考えられる．例文(146c-2)のみ，前置詞 *minn* ‘from’ を介した自動詞の文となっている．

6-16a　彼はお腹を空かしている．【感覚１】
He is hungry.
(147a)　*huwa*　*għand=u*　*l-ġuħ*
3SG.M　have:PRS=3SG.M　DEF-hunger.M.SG

6-16b　彼は喉が渇いている．【感覚１】
He is thirsty.
(147b)　*huwa*　*għand=u*　*l-għatx*
3SG.M　have:PRS=3SG.M　DEF-thirsty.M.SG

6-17a　私は寒い．【感覚２】
I’m cold.
(148a)　*qed*　*in-ħoss*　*il-bard*
PROG　1SG-feel:IPFV　DEF-cold.M.SG

6-17b　今日は寒い．【感覚２】
It’s cold today.
(148b)　*il-bard*　*illum*
DEF-cold.M.SG　today

例文(147a, b)でみるように，「飢え」や「渇き」といった表現は，名詞と所有表現によって表現される．

一方，例文(148a)にみる「寒さ」は動詞 *ħass* ‘feel’ を用いて表される．例文(148b)は，文構造が不明瞭であるが，非人称的な文である．

6-18a　私は彼を手伝った／助けた．【（社会的）相互行為 1】
I helped him.
(149a)　*għen-t=u*
help:PFV-1SG=3SG.M

6-18b　私は彼がそれを運ぶのを手伝った．【（社会的）相互行為 1】
I helped him carry it.
(149b-1)　*jiena*　*għen-t=u*　*j-ġorr=u*
1SG　help:PFV-1SG=3SG.M　3SG.M-carry:IPFV=3SG.M
(149b-2)　*jiena*　*għen-t=u*　*j-ġorr=ha*
1SG　help:IPFV-1SG=3SG.M　3SG.M-carry:IPFV=3SG.F

6-19a　私はその理由を彼に聞いた．【（社会的）相互行為 2（言語行動）】
I asked him the reason.
(150a)　*jiena*　*tlab-t=u*　*raġuni*
1SG　ask:PFV-1SG=3SG.M　reason.F.SG

例文（150a）では，二重目的語文というべき文構造が見て取れる．

6-19b　私はそのことを彼に話した．【（社会的）相互行為 2（言語行動）】
I spoke (talked) to him about it.
(150b-1)　*jiena*　*kellim-t=u*　*dwar=u*
1SG　speak:PFV-1SG=3SG.M　about=3SG.M
(150b-2)　*jiena*　*kellim-t=u*　*dwar=ha*
1SG　speak:PFV-1SG=3SG.M　about=3SG.M

6-20a　私は彼と会った．【再帰・相互】
I met him.
(151a)　*iltqa-jt*　*miegħ=u*
meet:PFV-1SG　with=3SG.M

4.7. 「連用修飾的複文」（語研論集　第 20 号）

7-1　彼はいつも新聞を読みながらご飯を食べる．【同時動作】

He always eats dinner while reading the newspaper.

(152)　*huwa*　*dejjem*　*j-iekol*　*l-ikla*　*ta’*　*filgħaxija*

3SG.M　always　3SG.M-eat:IPFV　DEF-meal.F.SG　of　in_the_evening

waqt　***li***　*j-aqra*　*l-gazzetta*

while　**SUB**　3SG.M-read:IPFV　DEF-newspaper.F.SG

例文(152)は 2 つの節からなり，「読みながら～」の部分が接続詞 *waqt li* ‘while’ によって従属節におかれている．従属節マーカー*li* はそれのみで従属節を形成する機能があるが，ここの *waqt* のような語をとる直前に置ける．同形式の名詞 *waqt* ‘moment’ があることを指摘しておく．

7-2　（私は）昨日は九時に家に帰って，少しテレビを見て（から），寝ました．【継起的動作・物語的連鎖】

Yesterday I came home at nine, watched some TV, and went to bed.

(153-1)　*ilbieraħ*　*ġe-jt*　*lura*　*d-dar*　*f=id-disgħa*,

yesterday　come:PFV-1SG　back　DEF-house.F.SG　in=DEF-nine

ra-jt　*ftit*　*televixin*,　***u***　*mor-t*　*n-orqod*

see:PFV-1SG　a_little　television.M.SG　**and**　go:PFV-1SG　1SG-sleep:IPFV

(153-2)　*ilbieraħ*　*ġejt*　*lura*　*d-dar*　*f=id-disgħa*,

yesterday　come:PFV-1SG　back　DEF-house.F.SG　in=DEF-nine

rajt　*ftit*　*televiżjoni*,　***u***　*mort*　*fuq*　*is-sodda*

see:PFV-1SG　a_little　television.M.SG　**and**　go:PFV-1SG　on　DEF-bed.F.SG

7-3　（私は）昨日階段で転んで，ケガをしてしまった．【継起：理由】

Yesterday, I fell on the stairs and got injured.

(154)　*ilbieraħ,*　*waqa-jt*　*it-taraġ*　***u***　*weġġa-jt*

yesterday　fall:PFV-1SG　DEF-step.M.COLL　**and**　be_hurt:PFV-1SG

例文(153)，(154)はどちらも【継起】の表現であり，どちらにも接続詞 *u* ‘and’ が用いられる．余談になるが，動詞 *weġġa’* について Aquilina (1987-1990: 1514)は「傷つける」という他動詞の用法のみを挙げている．例文(154)では自動詞である．

7-4　今日も父は会社に行って，兄は大学に行った．【異主語】

Today my father went to work, and my brother went to college as always.

(155)　*illum*　*missier=i*　*mar*　*ix-xogħol*,

today　father.M.SG=1SG　go:PFV.3SG.M　DEF-work.M.SG

u　*ħi=ja*　*mar*　*l-università*　*bħas=soltu*

and　brother.M.SG=1SG　go:PFV.3SG.M　DEF-university.F.SG　like=usual

7-5　（あの人は）今日は帽子をかぶって歩いていた．【付帯状況】
He was walking wearing a hat today.

(156-1) *huwa* *kien* *miexi* ***liebes*** *(il-)beritta* *llum*
3SG.M be:PFV.3SG.M walk.APRT.M.SG **wear.APRT.M.SG** (DEF-)cap.F.SG today

(156-2) *huwa* *kien* *għaddej* ***liebes*** *(il-)beritta* *llum*
3SG.M be:PFV.3SG.M pass:PFV.3SG.M **wear.APRT.M.SG** (DEF-)cap.F.SG today

7-6　（私は）休みの日にはいつも本を読んだり，テレビを見たりしています．【並行動作】
I read books and watch TV on holidays.

(157) *jiena* *n-aqra* *l-kotba*
1SG 1SG-read:IPFV DEF-book.PL
u *n-ara* *t-televixin* *waqt* *il-vaganzi*
and 1SG-see:IPFV DEF-television.M.SG time.m.sg DEF-holiday.PL

7-7　時間がないから，急いで行こう．【理由・カラ】
Since (Because) we don't have time, we must hurry.

(158) ***peress li*** *m'=għand=nie=x* *ħin,* *irrid-u* *n-għaġġl-u*
because NEG=have:PRS=1PL=NEG time.M.SG 1-want:IPFV-PL 1-hurry:IPFV-PL

7-8　昨日は頭が痛かったので，いつもより早く寝ました．【理由・ノデ】
Since (Because) I had a headache, I went to bed earlier than usual yesterday.

(159-1) ***peress li*** *għand=i* *wġigħ* *ta'* *ras,*
because have:PRS=1SG pain.M.SG of head.F.SG
mor-t *n-orqod* *iktar* *kmieni* *mis=soltu* *lbieraħ*
go:PFV-1SG 1SG-sleep.IPFV more early from=usual yesterday

7-9　あの人は本を買いに行った．【趨向／移動の目的】
He went to buy a book.

(160) *huwa* *mar* *j-ixtri* *ktieb*
3SG.M go:PFV.3SG.M 3SG.M-buy:IPFV book.M.SG

7-10　（彼は）外がよく見えるように窓を開けた．【目的・意図】
He opened the window so (that) he could see the scenery well.

(161) *huwa* *fetaħ* *it-tieqa*
3SG.M open:PFV.3SG.M DEF-window.F.SG
sabiex *i-kun* *j-ista'* *jara* *l-veduta* *sew*
so_that 3SG.M-be:IPFV 3SG.M-be_able:IPFV 3SG.M-see:IPFV DEF-view.F.SG well

7-11　ここでは夏になると，よく雨が降ります．【恒常的条件】
When it becomes summer, it often rains here.

(162) ***meta*** *j-asal* *is-sajf,* *spiss* *t-inżel* *ix-xita* *hawnhekk*
when 3SG.M-arrive:IPFV DEF-summer.M.SG often 3SG.F-fall:IPFV DEF-rain.F.SG here

7-12　窓を開けると，冷たい風が入って来た．【確定条件・生起】
When I opened the window, a cold wind blew in.

(163)　***meta***　*ftaħ-t*　*it-tieqa,*　*daħal*　*riħ*　*kiesaħ*
when　open:PFV-1SG　DEF-window.F.SG　enter:PFV.3SG.M　wind.M.SG　cold.M.SG

7-13　坂を上ると，海が見えた．【確定条件・発見】
When I got to the top of the hill, I saw the sea.

(164)　***xħin***　*wasal-t*　*fuq*　*l-għolja,*　*ra-jt*　*il-baħar*
while　arrive:PFV-1SG　on　DEF-hill.F.SG　see:PFV-1SG　DEF-sea.M.SG

例文(162)【恒常的条件】，例文(163)【確定条件・生起】では，条件節に接続詞 *meta* ‘when’ が用いられていたが，【確定条件・発見】では例文(164)をみると，接続詞は *meta* ‘when’ ではなく *xħin* ‘while’ が用いられている. 主語に注目すると次のように整理できる. 例文(162)では非人称的なものであり, 例文(163)では条件節で 1 人称，後件で 3 人称となっている．他方，例文(164)では，前件・後件ともに 1 人称である．この差異が，接続詞 *meta* ‘when’ と *xħin* ‘while’ の使い分けに関わっているかどうかは不明である．

7-14　明日雨が降ったら，私はそこに行かない．【仮定条件】
If it rains tomorrow, I won’t go there.

(165)　***jekk***　*t-inżel*　*ix-xita*　*għada,*　*ma*　*m-mur=x*　*hemmhekk*
if　3SG.F-fall:IPFV　DEF-rain.F.SG　tomorrow　NEG　1SG-go:IPFV=NEG　there

7-15　もっと早く起きればよかったなあ．【反実仮想】
If only I had woken up a little earlier…

(166)　***li kieku***　*biss*　*qom-t*　*ftit*　*iktar*　*kmieni...*
if　only　wake:PFV-1SG　a_little　more　early

7-16　あんなところへ行かなければよかった．【反実仮想・前件否定】
I shouldn’t have gone to such a place.

(167-1)　*ma*　*miss=ni=x*　*mor-t*　*xi*　*mkien*　*bħal*　*dak*
NEG　must=1SG=NEG　go:PFV-1SG　what　place.M.SG　like　DEM.DIST.M.SG

(156-2)　*ma*　*kell=i=x*　*im-mur*　*xi*　*mkien*　*bħal*　*dak*
NEG　have:PRET=1SG=NEG　1SG-go:IPFV　what　place.M.SG　like　DEM.DIST.M.SG

7-17　１に１を足せば，２になる．【一般的真理】
If you add one and one, you get two.

(168)　***jekk***　*t-għodd*　*wieħed*　*u*　*wieħed,*　*ikoll=ok*　*tnejn*
if　2SG-count:IPFV　one　and　one　have:PRS=2SG　two

7-18　駅に着いたら電話をしてください．【仮定条件＋働きかけのモダリティ】
Please make a call when you arrive at the station.

(169)　*jekk jogħġbok*　*agħmel*　*telefonata*　***xħin***　*t-asal*　*l-istazzjoni*
if it pleases you　do.IMP　call.F.SG　**while**　2SG-arrive:IPFV　DEF-station.F.SG

例文(169)の *jekk jogħġbok* は please にあたる慣用表現である．動詞の命令形とともに，ここでいう「働きかけのモダリティ」を表す機能があると考える．接続詞 *xħin* ‘while’ の使用は，【確定条件・発見】と共通する．【確定条件・発見】では節の主語に注目したが，ここでは前件・後件ともに 2 人称である．

7-19　日曜日になったら，みんなで公園に行きたいなあ．【仮定条件＋願望】
I want to go to the park on Sunday.

(170)	*ir-rid*	*im-mur*	*il-park*	*nhar*	*il-Ħadd*
	1SG-want:IPFV	1SG-go:IPFV	DEF-park.M.SG	day.M.SG	DEF-sunday.M.SG

例文(159)は，調査例文の英文に影響されたためか，条件文となっていない．

7-20　明日雨が降ったら困るなあ．【心配】
It would be a bother if it would rain tomorrow.

(171)	*t-kun*	*problema*	***jekk***	*t-inżel*	*ix-xita*	*għada*
	3SG.F-be:IPFV	problem.F.SG	**if**	3SG.F-fall:IPFV	DEF-rain.F.SG	tomorrow

7-21　家に来るなら，電話をしてから来てください．【時間的前後関係に則していないナラ条件文】
Call me first if you want to come.

(172)	*ċempil=l=i*	*l-ewwel*	***jekk***	*t-rid*	*t-iġi*
	phone.IMP=DAT-1SG	DEF-first.M.SG	**if**	2SG-want:IPFV	2SG-come:IPFV

7-22　（もうすぐベルが鳴るので）鳴ったら，教えてください．【予想を伴った条件文】
Tell me when the bell rings.

(173-1)	*għid=l=i*	***meta***	*d-doqq*	*il-qanpiena*
	say.IMP=DAT=1SG	**when**	3SG.F-play:IPFV	DEF-bell.F.SG
(173-2)	*għid=l=i*	***xħin***	*d-doqq*	*il-qanpiena*
	say.IMP=DAT=1SG	**while**	3SG.F-play:IPFV	DEF-bell.F.SG

接続詞としては，*meta* ‘when’ と *xħin* ‘while’ のどちらも使用可能のようだ．【確定条件・発見】では，節の主語に注目して接続詞 *meta* ‘when’ と *xħin* ‘while’ の使い分けを記述しようとした．ここでは，同じ条件で両方の接続詞が使用されているので，両接続詞の使い分けは他の異なる要因，あるいはまったく別の要素によるものかもしれない．

7-23　（もしかしたらベルが鳴るかもしれないので）もし鳴ったら，教えてください．【予想を伴わない条件文】
Tell me if the bell rings.

(174)	*għid=l=i*	***jekk***	*id-doqq*	*il-qanpiena*
	say.IMP=DAT=1SG	**if**	3SG.F-play:IPFV	DEF-bell.F.SG

7-24 働かざるもの食うべからず．／働かない者は，食べるべきではない．【相関構文】
(One) Who does not work should not eat.

(175) *wieħed li ma j-aħdim=x ma miss=u=x j-iekol*
one SUB NEG 3SG.M-work:IPFV=NEG NEG must=3SG.M=NEG 3SG.M-eat:IPFV

7-25 もう少しお金があったらなあ．【言いさし・願望】
If only I had more money...

(176) ***li kieku*** *biss kell=i iktar flus...*
if only have:PRET=1SG more money.PL

7-26 これも食べたら？ 【言いさし・提案】
How about eating this?

(177) *xi t-għid* ***jekk*** *n-iekl-u dan ukoll?*
what 2SG-say:IPFV **if** 1SG-eat:IPFV-PL DEM.PROX.M.SG also

例文(177)では，逐語的に解釈すると「もし〜だったら君はなんと言うか」といった表現になる．インフォーマントは条件節に 1 人称複数を用いている．これはインフォーマントが調査 7-26 を勧誘表現として解釈したためであると考える．

7-27 （やりたいなら自分の）好きなようにやれば？【言いさし・つき放し】
Do as you like.

(178-1) *agħmel li t-rid*
do.IMP SUB 2SG-want:IPFV

(178-2) *agħmel kif t-ixtieq*
do.IMP how 2SG-wish:IPFV

7-28 このコップは落としても割れない．【仮定的な逆接】
This glass does not break when dropped.

(179) *din it-tazza ma t-in-kisir=x* ***meta*** *t-aqa’*
DEM.PROX.F.SG DEF-glass.F.SG NEG 3SG.F-be_broken:IPFV=NEG **when** 3SG.F-fall:IPFV

7-29 このリンゴは高かったのに，ちっとも甘くない．【アクチュアルな逆接】
Though it was expensive, this apple was not sweet at all.

(180) ***minkejja li*** *kien-et għolj-a,*
despite SUB be:PFV-3SG.F high-F.SG
din it-tuffieħa ma kien-et tajb-a xejn
DEM.PROX.F.SG DEF-apple.F.SG NEG PRS-3SG.F good-F.SG none

7-30　彼の家に行ってみたけれども，彼はいなかった．【逆接３】
I went to his house, but he was not there.

(181)　*mor-t*　*id-dar*　*tiegħ=u,*
go:PFV-1SG　DEF-house.F.SG　of=3SG.M
imma　*ma*　*kien=x*　*qiegħed*　*hemm*
but　NEG　be:PFV.3SG.M=NEG　stay.APRT.M.SG　there

7-31　あの人が来るまで，私はここで待っています．【時間的期限[1]】
I will wait here until he comes.

(182)　*jiena*　*se*　*n-ibqa'*　*hawn(hekk)*　***sakemm***　*j-asal*
1SG　PROS　1SG-remain:IPFV　here　**until**　3SG.M=arrive:IPFV

7-32　あの人が来るまでに，食事を作っておきますよ．【時間的期限[2]】
I will prepare a meal before he comes.

(183-1)　*jiena*　*se*　*n-ipprepara*　*ikla*　***qabel***　*ma*　*j-iġi*
1SG　PROS　1SG-prepare:IPFV　meal.F.SG　**before**　NEG　3SG.M-come:IPFV

(183-2)　*jiena*　*se*　*n-ipprepara*　*ftit*　*ikel*　***qabel***　*ma*　*j-iġi*
1SG　PROS　1SG-prepare:IPFV　a_little　cuisine.M.SG　**before**　NEG　3SG.M-come:IPFV

例文(182)，(183)ではそれぞれ接続詞 *sakemm* 'until'，*qabel* 'before' が用いられている．特に例文(183)の接続詞 *qabel* 'before' の使用が特徴的で，その節中の文は否定文となっている．

4.8. 「情報構造と名詞述語文」（語研論集　第 21 号）

以下の調査 8-1 から 8-11 は，焦点形式について調べたものである．結果から言えば，際立った焦点の形式は見出せなかった．疑問文では，有標な語順 VS や OV が共通してみられた．それについての応答は，述語が省略されているものを除けば，通常の SVO 型の平叙文であった．

マルタ語では，特別な焦点標識のための形式は少なくともここでは見当たらず，情報構造はもっぱら語順の転換で示されているものと思われる．疑問文では，疑問詞を文頭に置いたり，述語を主語名詞に先行させたりといったことが観察できる．平叙文における語順の転換は，焦点というよりも，どの項が主題であるかで左右されるものと考える（調査 8-10 を参照）．

8-1　えっ，A（固有名詞）が来たの？／いや，A じゃなくて B が来たんだ．（例えば，昨日の集まりに珍しくやって来た人についての会話で）【対比焦点（主語）】
Wait, Andy came? / No, not Andy, but Bob.

(184) *stenna (ftit), wasal Andy? /*
wait.IMP (a_little) arrive:PFV.3SG.M PN /
le, mhux Andy (wasal), imma Bob
no NEG PN (arrive:PFV.3SG.M) but PN

8-2　誰が来たの？／A が来たよ．【WH 焦点（主語）・WH 応答焦点】
Who came? / Andy (did).

(185) *min ġie? / Andy (ġie)*
who come:PFV.3SG.M / PN (come:PFV.3SG.M)

8-3　A のほうが大きいんじゃないの？／いや，A じゃなくて，B のほうが大きいんだよ．【YesNo 疑問・形容詞述語応答焦点】
Isn’t Andy taller? / No, not Andy, but Bob.

(186) *mhux Andy itwal? / le, mhux Andy, imma Bob*
NEG PN tall.CMP / no NEG PN but PN

8-4　（電話で）どうしたの）？／うん，今，お客さんが来たんだ．【文焦点（自動詞文）】
What happened? / Uh, somebody’s here.

(187) *x’=ġara? / emm, hawn xi ħadd*
what=happen:PFV.3SG.M / INTERJ here somebody

8-5　あの子供が A を叩いたんだって!?／いや，A じゃなくて，B を叩いたんだよ．【対比焦点（目的語）】
That child hit Andy!? / No, not Andy, but Bob.

(188) *dak it-tifel laqat lil Andy!? /*
DEM.DIST.M.SG DEF-child.M.SG hit:PFV.3SG.M OBJ PN /
le, mhux lil Andy, imma lil Bob
no NEG OBJ PN but OBJ PN

8-6　赤い袋と青い袋があるけど，どっちを買うの？／（私は）青い袋を買うよ．【対比焦点（目的語，特に「どっち」という対比的な疑問語の場合）】
There is a red bag and a blue bag, which will you buy? / I'll buy the blue one.

(189)　*hemm basket aħmar u basket blu, liema se t-ixtri? /*
there bag.M.SG red.M.SG and bag.M.SG blue which PROS 2SG-buy:IPFV /
se nixtri (dak) il-blu
PROS 1SG-buy:IPFV (DEM.DIST.M.SG) DEF-blue

8-7　A はどこですか？／A は朝からどっかへでかけたよ．（例えば，朝少し遅く起きて来た A の父親が，姿の見えない A について母親に尋ねている場面で）【述語焦点】
Where is Andy? / Andy went somewhere in the morning.

(190)　*fejn hu Andy? / Andy mar xi mkien filgħodu*
where COP.3SG.M PN / PN go:PFV.3SG.M somewhere this_morning

8-8　（あの子供は）誰を叩いたの？／（あの子供は）自分の弟を叩いたんだ．【WH 焦点（目的語）・WH 応答焦点（目的語）】
Who did he hit? / He hit his brother.

(191)　*lil min laqat? / huwa laqat lil ħu=h*
OBJ who hit:PFV.3SG.M / 3SG.M hit:PFV.3SG.M OBJ brother.M.SG=3SG.M

8-9　（電話で）どうしたの）？／うん，A が（自分の）弟を叩いたんだ．（例えば，電話の向こうで子供の泣き声が起きたのを聞いての発話）【文焦点（他動詞）】
What happened? / Uh, Andy hit his brother.

(192)　*x='ġara? / emm, Andy laqat lil ħu=h*
what=happen:PFV.3SG.M / INTERJ PN hit:PFV.3SG.M OBJ brother.M.SG=3SG.M

8-10　あのケーキ，どうした？／（ああ，あれは）A が食べちゃったよ．【目的語主題化，主題（目的語）の継続性　いわゆる pro-drop 言語の可能性】
What happened to the cake? / Andy ate it.

(193)　*x'=sar minn=u l-kejk? / kiel=u Andy*
what=become:PFV.3SG.M really=3SG.M DEF-cake.M.SG / eat:PFV.3SG.M=3SG.M PN

これまで見てきた疑問文に対する応答文はすべて SVO 型の無標な平叙文であったが，例文(193)は例外で，その応答文は VS 語順となっている．ここでは「ケーキ」が主題として継続しているものと考えられる．Andy は主題ではないので，文頭に立たない（あるいは立ちにくい）ものと考える．一方ケーキは直接名詞句としては現れず，動詞 *kiel* 'eat' に接語代名詞として現れている．主題の「ケーキ」を示す接語代名詞 *=u* が含まれる *kiel=u* そのものを主題として捉えることもできよう．

8-11　私が昨日お店から買ってきたのはこの本だ.【分裂文】

It’s this book that I bought from the store yesterday.

(194-1)　*li*　*mor-t*　*n-ixtri*　*jiena*　*mil=l-ħanut*　*ilbieraħ*

SUB　mar:PFV-1SG　1SG-buy:IPFV　1SG　from=DEF-shop.M.SG　yesterday

huwa　*dan*　*il-ktieb*

COP.3SG.M　DEM.PROX.M.SG　DEF-book.M.SG

(194-2)　*dan*　*il-ktieb*　*huwa*

DEM.PROX.M.SG　DEF-book.M.SG　COP.3SG.M

li　*mor-t*　*n-ixtri*　*jiena*　*mil=l-ħanut*　*ilbieraħ*

SUB　mar:PFV-1SG　1SG-buy:IPFV　1SG　from=DEF-shop.M.SG　yesterday

例文(194)では，従属節標識 *li* がそれがなす節全体で名詞句のように機能している．例文(194-1)，(194-2)は，ただ主語と補語を入れ替えただけのものと見受けられる．どちらの語順も情報構造的に等価であるとは考え難いが，ここではこの 2 通りの例文が挙げられている．

8-12　あの人は先生だ．この学校でもう 20 年働いている.【措定文　主題（名詞述語文の主語）の継続性　いわゆる pro-drop 言語の可能性】

That man is a teacher. He has been working in this school for 20 years now.

(195)　*dak*　*ir-raġel*　*huwa*　*għalliem*

DEM.DIST.M.SG　DEF-man.M.SG　COP.3SG.M　teacher.M.SG

il=u　*għoxrin*　*sena*　*j-aħdem*

for_the_long_time=3SG.M　twenty　year.F.SG　3SG.M-work:IPFV

f’=din　*l-iskola*　*issa*

in=DEM.PROX.F.SG　DEF-school.F.SG　now

例文(195)では，調査 8-10 の例文(193)と同様の説明が可能である．ここでは，最初に「あの人」が主題として導入され，続く文でもそれが継続しているものと考えられる．続く文では，主題「あの人」はやはり接語代名詞 *=u* で表現され，それが含まれる部分が文頭に置かれている（ここでは擬似動詞 *il=u* ‘for the long time’ に付随している）.

8-13　彼のお父さんは，あの人だ.【倒置指定文】

His father is that man.

(196)　*missier=u*　*huwa*　*dak*　*ir-raġel*

father.M.SG=3SG.M　COP.3SG.M　DEM.DIST.M.SG　DEF-man.M.SG

8-14　あの人が彼のお父さんだ.【指定文】

That man is his father.

(197)　*dak*　*ir-raġel*　*huwa*　*missier=u*

DEM.DIST.M.SG　DEF-man.M.SG　COP.3SG.M　father.M.SG=3SG.M

8-15　あさってっていうのはね，明日の次の日のことだよ.【定義文】
“Asatte” is the day after tomorrow.

(198)　*“pitgħada”*　*huwa*　*l-jum*　*wara*　*għada*
“the day after tomorrow”　COP.3SG.M　DEF-day.M.SG　after　tomorrow

8-16　（何人かで入った喫茶店で注文を聞かれて）私はコーヒーだ.【ウナギ文】
I’ll have coffee.

(199)　*se*　*n-ieħu*　*kafè*
PROS　1SG-take:IPFV　coffee.M.SG

8-17　［（注文した数人分のお茶が運ばれてきて）どなたがコーヒーですか？との問いに］コーヒーは私だ.【逆行ウナギ文】
I ordered coffee.

(200)　*ordna-jt*　*kafè*
order:PFV-1SG　coffee.M.SG

例文(199)，(200)では，ウナギ文の形式は表れていない．しかしながら，ウナギ文が非文かどうかまでには調査が及ばなかったので，その点には注意されたい.

8-18　その新しくて厚い本は（値段が）高い.【形容詞述語文 修飾・並列・述語】
That new and thick book is expensive.

(201-1)　*dak*　*il-ktieb*　*ġdid*　*u*　*oħxon*　*huwa*　*għoli*
DEM.DIST.M.SG　DEF-book.M.SG　new.M.SG　and　thick.M.SG　COP.3SG.M　high.M.SG

(201-2)　*dak*　*il-ktieb*　*ġdid*　*u*　*oħxon*
DEM.DIST.M.SG　DEF-book.M.SG　new.M.SG　and　thick.M.SG
għand=u　*prezz*　*għoli*
have:PRS=3SG.M　price.M.SG　high.M.SG

8-19　（砂糖入れを開けて）あっ，砂糖が無くなっているよ！【意外性（mirativity）】
Hey, we’re out of sugar!

(202-1)　*oj,*　*bqa-jna*　*bla*　*zokkor!*
INTERJ　remain:PFV-1SG　without　sugar.M.SG

(202-2)　*isma’,*　*spiċċa(=l=na)*　*z-zokkor!*
listen.IMP　expire:PFV=DAT=1PL　DEF-sugar.M.SG

8-20　午後，誰かに会うはずだったなあ．誰だったっけ？ あっ，そうだ，～君だったな.【思い出し】
I was supposed to meet someone in the evening, who was it? Oh, I remember. It was Andy.

(203)　*kelli*　*n-iltaqa’*　*ma’*　*xi ħadd*　*filgħaxija...*
HOR　1SG-meet:IPFV　with　somebody　this evening
min　*kien*?　*e...*　*iva,*　*ftakar-t.*　*Andy*　*kien*
who　be:PFV.3SG.M　INTERJ　yes　remember:PFV-1SG　PN　be:PFV.3SG.M

例文(202)，(203)では，【意外性】や【思い出し】にかかる動詞のアスペクト形式が完了形である点に注目したい．マルタ語の完了形が証拠性と関連することは Vanhove (2010: 5)が指摘している（本稿 4.3 節を参照）が，これに通ずるところがある．

4.9. 「情報標示の諸要素」（語研論集　第 22 号）

9-1　この土地は野菜がよく育つ．だから高い値段で売れるだろう．【統語的に動詞の必須項ではない名詞の統語的軸項としての機能】

Vegetables grow well on this land. So, it will sell at a high price.

(204)　*il-ħaxix*　*j-ikber*　*sew*　*fuq*　*din*　*l-art*
DEF-vegetable.M.COLL　3SG.M-become_large:IPFV　well　on　DEM.PROX.F.SG　DEF-land.F.SG
għalhekk,　*se*　*j-inbiegħ*　*prezz*　*għoli*
therefore　PROS　3SG.M-be_sold:IPFV　price.M.SG　high.M.SG

調査 9-1 は，「この土地は…売れるだろう」という文意であったが，例文(204)では，文法性の一致から推測するに，「野菜は…売れるだろう」という文意となっている．マルタ語は主題指向型（topic-oriented）な言語であり，前置詞句も文頭に立つことができる（Fabri 2010: 793-794; 本稿 3.2 節を参照）ので，次の文が可能か調査する必要がある．

(204')　?*fuq*　*din*　*l-art*　*il-ħaxix*　*j-ikber*　*sew*
on　DEM.PROX.F.SG　DEF-land.F.SG　DEF-vegetable.M.COLL　3SG.M-become_large:IPFV　well
għalhekk,　*se*　*t-inbiegħ*　*prezz*　*għoli*
therefore　PROS　3SG.F-be_sold:IPFV　price.M.SG　high.M.SG
（例文 193 を参考にした筆者の作例; 非文の可能性がある）

9-2　私は頭が痛い．だから今日は休む．【話し手のなわ張り内・聞き手のなわ張り外，統語的軸項としての機能】

My head hurts. So, I will be absent today.

(205)　*ras=i*　*t-uġagħ=ni*　*għalhekk,*　*se*　*n-kun*　*assenti*　*llum*
head.F.SG=1SG　3SG.F-give_pain:IPFV=1SG　therefore　PROS　1SG-be:IPFV　absent　today

例文(205)では，1 文目の主語は *ras=i*「私の頭」である（おそらく主題も兼ねる）が，2 文目の主語は 1 人称「私」である（代名詞なしで動詞での人称標示のみ）．一見，2 つの文で主題が一致していない．4.8 節の例文(193)，(194)のところで考察したように，一人称の接語代名詞 *=i* が文頭の *ras=i*「私の頭」にあれば一人称を主題として成立させるのに足るのかもしれない．

9-3　あの人**だけ**，時間通りに来た．【限定】

Only he came on time.

(206)　*huwa*　***biss***　*wasal*　*fi=l-ħin*
3SG.M　**only**　arrive:IPFV.3SG.M　in=DEF-time.M.SG

9-4　これはここで**しか**買えない．【限定・否定との共起】

This can only be bought here.

(207)　*dan*　*j-ista'*　*j-inxtara*　***biss***　*minn*　*hawn(hekk)*
DEM.PROX.M.SG　3SG.M-be_able.IPFV　3SG.M-be_bought.IPFV　**only**　from　here

9-5　その家にいたのは子供**ばかり**だった．【限定・多数】
There were only children in the house.

(208)　*kien*　*hemm*　*tfal*　***biss***　*ġo=d=dar*
be:PFV.3SG.M　there　child.PL　**only**　in=DEF=house.F.SG

上の 3 つの調査では，日本語でいう「だけ・しか・ばかり」の【限定】表現を見たが，マルタ語ではいずれも副詞 *biss* ‘only’ だけで表現される．副詞 *biss* ‘only’ の位置に注目すると，例文(206)，(208)では限定をする語の直後に現れているが，例文(207)では助動詞 *seta’* ‘can’ の直後ではなく，助動詞に続く本動詞の直後に置かれている．

9-6　次回**こそ**，失敗しないようにしよう．【限定・強調】
Let’s try not to fail next time.

(209-1)　*ejja*　*n-ippruva-w*　*ma*　*m-morr-u=x*　*ħażin*　*id-darba*　*li*　*j-miss*
INTERJ　1-try:IPFV-PL　NEG　1-go:IFPV-PL=NEG　badly　DEF-once.F.SG　SUB　3SG.M-touch:IPFV

(209-2)　*ejja*　*n-ippruva-w*　*ma*　*n-fall-u=x*　*id-darba*　*li*　*j-miss*
INTERJ　1-try:IPFV-PL　NEG　1-fall:IPFV-PL=NEG　DEF-once.F.SG　SUB　3M-touch:IPFV-SG

(209-3)　*ejja*　*n-ippruva-w*　*ma*　*n-iżbalja-w=x*　*id-darba*　*li*　*j-miss*
INTERJ　1-try:IPFV-PL　NEG　1-err:IPFV-PL=NEG　DEF-once.F.SG　SUB　3M-touch:IPFV

例文(209)では，これまで見た【限定】表現と異なり副詞 *biss* ‘only’ が使われていない．媒介言語の英語の影響を受けた可能性もあり，「～こそ」を表現する語彙的な要素は他にあるかもしれない．

9-7　疲れたね，お茶**でも**飲もう．【反限定・例示】
That was tiring, let’s drink tea or something.

(210)　*għajje-jt,*　*ejja*　*n-ixorb-u*　*te*　***jew***　***xi ħaġa***
be_tired:PFV-1SG　INTERJ　1-drink:IPFV-PL　tea.M.SG　**or**　**something**

9-8　水**さえ**あれば，数日間は大丈夫だ．【極端・意外】
If we have water, we’ll be OK for several days.

(211)　*jekk*　*ikoll=na*　*(l-)ilma,*
if　have:PRS=1PL　(DEF-)water.M.SG
in-kun-u　*qegħd-in*　*tajjeb*　*għal*　*ħafna*　*jiem*
1-be:IPFV-PL　stay.APRT-PL　good　for　a_lot　day.M.PL

例文(211)では，「～さえ」を表す要素は見当たらないが，やはり他に語彙的に表現する手段が存在する可能性は十分にある．調査例文の「数日間」は具体的には「2～3 日」といった比較的少ない日数を示すのがふつうであるが，マルタ語訳のほうでは多量を示す *ħafna* ‘a_lot’ が使用されていることを一応指摘しておく[11]．

[11] この調査 9-8 における調査例文とマルタ語文の数量のギャップは，査読者の指摘により筆者に明らかになったものである．ここに感謝申し上げる．

9-9　小さい子供**まで**，その仕事の手伝いをさせられた．【反極端・低評価】
Even small children were forced to work on the job.

(212-1) ***anki*** *tfal* *żgħar* *kien-u* *mġegħl-in* *j-aħdm-u* *fuq* *ix-xogħol*
even child.PL small.PL be:PFV-3PL force.PPRT-PL 3-work:IPFV-PL on DEF-job.M.SG

(212-2) ***anki*** *tfal* *żgħar* *ġe-w* *imġegħl-in* *j-aħdm-u* *fuq* *ix-xogħol*
even child.PL small.PL come:IPFV-3PL force.PPRT-PL 3-work:IPFV-PL on DEF-job.M.SG

例文(212)では，副詞 *anki* ‘even’ が使用されていて，これが【反極端】の表現を担っている．副詞 *anki* ‘even’ の位置は文頭，あるいは対象となる名詞句の直前にある．

9-10　私はお金**なんか**欲しくない【反極端・低評価】
I don’t want money.

(213) *ma* *r-rid=x* *flus* ***(jew*** ***x’=n-af*** ***jiena)***
NEG 1SG-want:IPFV=NEG money.PL **(or** **what=1SG-know:IPFV** **1SG)**

例文(213)では，おそらくは慣用表現だと思われるが *jew x’=n-af jiena*「私が何を知っているのか?」という言い回しがあり，これが日本語の「〜なんか」にあたるニュアンスを持つものと考えられる．

9-11　自分の部屋**ぐらい**，自分できれいにしなさい．【反極端・最低限】
Clean your own room at least by yourself.

(214-1) *naddaf* *il-kamra* *tiegħ=ek* *waħd=ek* ***għal=l=inqas***
clean.IMP DEF-room.F.SG of=2SG self=2SG **for=DEF=lacking.CMP**

(214-2) *naddaf* *kamart=ek* *waħd=ek* ***għal=l=inqas***
clean.IMP room.CONS.F.SG=2SG self=2SG **for=DEF=lacking.CMP**

9-12　私に**も**ちょうだい．【類似・累加】
Give it to me too.

(215-1) *agħti=hu=l=i*
give.IMP=3SG.M=DAT=1SG

(215-2) *ti=hu=l=i*
give.IMP=3SG.M=DAT=1SG

(215-3) *agħti=hie=l=i*
give.IMP=3SG.F=DAT=1SG

(215-4) *ti=hie=l=i*
give.IMP=3SG.F=DAT=1SG

例文(215)を見ると，【類似・累加】の表現についての明示的な形式がない．表面的には，副詞 *ukoll* ‘too’ が使用できるものと考えるが，この単語の使用はまた別のニュアンスを帯びるのだろうか?

9-13　お父さんもう帰って来たね．お母さん**は**？【反類似・対比（疑問）】
Dad has come home already. How about mom?

(216-1)　*missier=i*　*diġà*　*wasal*　*id-dar*
father.M.SG=1SG　already　arrive:PFV.3SG.M　DEF-house.F.SG
u　*l-mamà?*
and　DEF-mother

(216-2)　*il-papà*　*diġà*　*wasal*　*id-dar*
DEF-father.M.SG　already　arrive:PFV.3SG.M　DEF-house.F.SG
u　*l-mamà?*
and　DEF-mother.F.SG

例文(216)では，日本語の「～は」にあたるような【反類似・対比（疑問）】を示しうる特別な形式は観られない．

9-14　**誰か**（が）電話してきたよ．【特定未知（specific unknown）】
Someone called.

(217)　*ċempel*　***xi ħadd***
call:PFV.3SG.M　**somebody**

9-15　**誰か**に聞いてみよう．【非現実不特定（iirealis non-specific）】
Let’s ask someone.

(218)　*ejja*　*n-saqs-u*　*lil*　***xi ħadd***
INTERJ　1-ask.PRS-PL　OBJ　**somebody**

9-16　私のいない間に**誰か**来た？【疑問（question）】
Did anyone come while I was away?

(219-1)　***min***　*ġie*　*(fi=l-)waqt*　*li*　*kon-t*　*barra?*
who　come:PFV.3SG.M　(in=DEF-)time.M.SG　SUB　be:PFV-1SG　outside

(219-2)　*min*　*ġie*　*xħin*　*kon-t*　*barra?*
who　come:PFV.3SG.M　while　be:PFV-1SG　outside

調査 9-16 は，調査例文から分かるとおり，「誰かが来たか」という事態についての極性疑問を意図したものである．しかしながらマルタ語訳のほうでは，*min ġie* ‘who came?’ という疑問詞疑問によって訳されている．疑問詞疑問が極性疑問的に捉えられ得るということも考えられるが，ここでは語用論的な議論には深入りせず, ただ調査例文とマルタ語訳とで疑問文の種類が異なっていることを指摘しておく．[12]

[12] 調査 9-16 における調査例文とマルタ語訳の疑問文のタイプの違いについては，査読者の指摘により加筆した．ここに感謝申し上げる．

9-17　**誰か**来たら，私に教えてください．【条件節内（conditional）】
If anyone comes, please tell me.

(220)　*jekk*　*ji-ġi*　***xi ħadd,***　*għid=l=i*
if　3SG.M-come:IPFV　somebody　say.IMP=DAT=1SG

9-18　今日は**誰も**来るとは思わない．／今日は**誰も**来ないと思う．【間接（全部）否定（indirect negation）】
I don't think anybody will come today. / I think nobody will come today.

(221-1)　*ma*　*n-aħsib=x*　*li*　*ġej*　***xi ħadd***　*illum*
NEG　1SG-think:IPFV=NEG　SUB　come.APRT.M.SG　**somebody**　today

(221-2)　*n-aħseb*　*li*　***ħadd***　*mhuwa*　*ġej*　*illum*
1SG-think:IPFV　SUB　**nobody**　COP.NEG.3SG.M　come.APRT.M.SG　today

9-19　そこには今**誰も**いないよ．【直接（全部）否定（direct negation）】
Nobody is there now.

(222)　***ħadd***　*mhu*　*qiegħed*　*hawn*　*bħalissa*
nobody　NEG　stay.APRT.M.SG　here　for_now

例文(222)で *mhux* ではなく *mhu* という形式が選択されていることについては，次の 4.10 節を参照せよ．

9-20　（それは）**誰でも**できる．【自由選択（free-choice）】
Anyone can do that.

(223)　***kulħadd***　*j-ista'*　*j-agħmil=ha*　*(dik)*
everybody　3SG.M-be_able:IPFV　3SG.M-do:IPFV=3SG.F　(DEM.DIST.F.SG)

9-21　そんなこと（は），**みんな**知っているんじゃないか!?【自由選択を示す「みんな」】
Everyone knows that!

(224)　***kulħadd***　*j-af*
everybody　3SG.M-know:IPFV

9-22　そんなもの，**誰が**買うんだよ!?　誰も買うわけないじゃないか！【反語】
Who would buy such a thing!? Nobody will.

(225)　*min*　*ji-xtri*　*xi ħaġa*　*hekk*
who　3SG.M-buy:IPFV　something　in_this_way
ħadd.
nobody

「誰か」という表現は，平叙文・疑問文・否定文で形式が異なる．平叙文では，*xi ħadd* 'everybody' が，疑問文では疑問詞 *min* 'who' が，そして否定文では *ħadd* 'nobody' が用いられる．*ħadd* 'nobody' が使われる文は，述語にも否定表現が置かれるが，*ħadd* 'nobody' 単体でも否定を表す（例文 225 を参照）．「みんな」や「誰でも」といった表現には *kulħadd* 'everybody' という語が用いられる．ここで見た全ての形式に *ħadd* という形態素が含まれる（参考：*xi* 'what'，*kul* 'every'）が，この形態素は数詞「1」に由来す

る（Aquilina 1987-1990 より）.

9-23　君は英語がうまいね.【話し手のなわ張り内，聞き手のなわ張り内】
You are good at English.

(226)　*inti*　*tajjeb*　*f=l-ingliż*
2SG　good.M.SG　in=DEF-English.M.SG

9-24　君は退屈そうだね.【話し手のなわ張り外，聞き手のなわ張り内】
You seem bored.

(227-1)　*t-idher*　*imdejjaq*
2SG-seem:IPFV　bore.PPRT.M.SG

(227-2)　*t-idher*　*imdejqa*
2SG-seem:IPFV　bore.PPRT.F.SG

9-25　明日も寒いらしいよ.【話し手のなわ張り外，聞き手のなわ張り外】
It seems like it will get cold again tomorrow.

(228)　*j-idher*　*li*　*se*　*j-erġa’*　*j-agħmel*　*il-ksieħ*　*għada*
3SG.M-seem:IPFV　SUB　PROS　3SG.M-repeat:IPFV　3SG.M-do:IPFV　DEF-cold.M.SG　tomorrow

情報のなわ張りについて，特に目立った形式はない．強いて言えば，動詞 *deher* ‘seem’ の使用が挙げられ，これは話者にとって間接的な知識すなわちなわ張りの外であることを示している．聞き手のなわ張りについて形式は，ここではまったく見出すことができない.

4.10. 「否定，形容詞と連体修飾複文」（語研論集　第 23 号）

マルタ語の否定表現について，Borg and Azzopardi-Alexander (1997: 88-93) が記述しているので，その記述を次にまとめよう．はじめに，定動詞の否定については，*ma...=x* という形式が使用される．擬似動詞や存在文を作る副詞 *hemm* 'there'，*hawn* 'here' にも同じ形式が使用される．*ma* を省いた...=*x* のみの形式は，否定命令の表現に使用される．

[445] ***ma*** *sma-jt***=*x*** *l-istorja* *kollha*
NEG hear:PFV-1SG**=NEG** DEF-story.F.SG all
I heard the whole story.
（Borg and Azzopardi-Alexander 1997: 88；グロスは筆者による）

助動詞がある場合は，最初の助動詞に *ma...=x* がつく．

[447] ***ma*** *reġa***=*x*** *telaq* *j-imxi*
NEG repeat:PFV.3SG.M**=NEG** leave:PFV.3SG.M 3SG.M-walk:IPFV
He did not start walking again.
（Borg and Azzopardi-Alexander 1997: 88；グロスは筆者による）

主語あるいは目的語に否定語を含む場合は，=*x* が省略される[13].

[463] *ħadd* *ma* *mar*
nobody NEG go:PFV.3SG.M
nobody went.

ma...= x のうち，*ma* を省くと，否定命令形となる[14].

動詞に小詞 [アスペクト小詞など；アスペクト小詞については本稿 4.2 節を参照] がつく場合は，その直前に *mhux* が置かれる．

[448] ***mhux*** *se* *j-mur* *id-dar*
NEG PROG 3SG.M-go:IPFV DEF-house.F.SG
he is not going to home.
（Borg and Azzopardi-Alexander 1997: 88；グロスは筆者による）

10-1　これは私の本ではない．【名詞述語文／コピュラ文の否定】
This is not my book.
(229) *dan* ***mhuwiex*** *il-ktieb* *tiegħ=i*
DEM.DIST.M.SG **COP.NEG.3SG.M** DEF-book.M.SG of=1SG

[13] 繋辞の否定形として使用される否定人称代名詞の語末の x も，この場合省略されるようである（本稿例文 211 を参照）．
[14] 本稿の例文(232)を参照．前述にある主語または目的語に否定語を含む場合の =x の省略と共起するかは不明．

10-2　この部屋には椅子がない．【存在文の否定】
This room does not have any chairs.

(230-1)	*din*	*il-kamra*	***m’=****ghand=ha*	***(l-)ebda***	*siġġu*
	DEM.PROX.F.SG	DEF-room.F.SG	**NEG=**have:PRS-3SG.F	**(DEF-)none**	chair.M.SG
(230-2)	*din*	*il-kamra*	***ma*** *fi=ha*	***(l-)ebda***	*siġġu*
	DEM.PROX.F.SG	DEF-room.F.SG	**NEG** contain=3SG.F	**(DEF-)none**	chair.M.SG

例文(230)では，存在表現ではなく，所有表現が用いられている．擬似動詞 *kell=u*，*fi=h* に否定表現がかかっている．通常，この場合の否定表現は接周的な形式 *ma...=x* によるが，例文(230)では =*x* が欠けている．これは目的語に(*l-*)*ebda* ‘none’ が含まれているからである．存在文の否定は，次の例文(231)に見る．

10-3　この部屋には一つも椅子がない．【全部否定】
There aren’t any chairs in this room.

(231)	***m’=****hemm*	***(l-)ebda***	*siġġu*	*f’=din*	*il-kamra*
	NEG=there	**(DEF-)none**	chair.M.SG	in=DEM.PROX.F.SG	DEF-room.F.SG

例文(231)は，副詞 *hemm* ‘there’ による存在文の否定によって表現されている．(*l-*)*ebda* ‘none’ によって =*x* が省略されるのは前述の通りである．(*l-*)*ebda* ‘none’ は，前の例文(230)でも用いられていたが，その語彙的な意味内容から言って，【全部否定】の表現形式とみてよさそうである．

10-4　その部屋には誰もいない．【ヒトの全部否定】
There aren’t any people in that room.

(232)	***m’=****hemm****=x***	*nies*	*f’=dik*	*il-kamra*
	NEG=there**=NEG**	person.PL	in=DEM.DIST.F.SG	DEF-room.F.SG

例文(232)でも，先の例文(230)，(231)で見た(*l-*)*ebda* ‘none’ が使用されてもよさそうであるが，ここではその使用が観られない．例文(230)，(231)での「椅子」は単数形であり，例文(232)での「人」は複数形であるという違いがある．「椅子」は無生物で，「人」は有生物である．こうしたことが，(*l-*)*ebda* ‘none’ の使用における差異の原因となっているものと考える．

10-5　その本はこの部屋にない．【所在文の否定】
The book is not in this room.

(233)	*il-ktieb*	***mhuwiex***	*qiegħed*	*f’=din*	*il-kamra*
	DEF-book.M.SG	**COP.NEG.3SG.M**	stay.APRT.M.SG	in=DEM.PROX.F.SG	DEF-room.F.SG

マルタ語の所在文は，動詞 *qagħad* ‘stay’ の現在分詞 *qiegħed* によって示され，場所項は前置詞句に置かれる（Borg and Azzopardi-Alexander 1997: 49 など；本稿 4.5 節の例文 119 にも）．例文(233)に見るように，現在分詞 *qiegħed* による所在文の否定は，繋辞 *huwa* の男性・3 人称・単数の否定形が現在分詞 *qiegħed* に先行する形式によって示されるようだ．

10-6　この犬は大きくない．【形容詞文の否定】
This dog is not big.

(234)	*dan*	*il-kelb*	*mhuwiex*	*kbir*
	DEM.PROX.M.SG	DEF-dog.M.SG	COP.NEG.3SG.M	big.M.SG

10-7　この犬はあまり大きくない．【部分否定】
This dog is not so big.

(235-1)	*dan*	*il-kelb*	*mhuwiex*	*daqshekk*	*kbir*
	DEM.PROX.M.SG	DEF-dog.M.SG	COP.NEG.3SG.M	enough	big.M.SG
(235-2)	*dan*	*il-kelb*	*mhuwiex*	*kbir*	*wisq*
	DEM.PROX.M.SG	DEF-dog.M.SG	COP.NEG.3SG.M	big.M.SG	too_much

10-8　この犬はあの犬より大きい．【比較級】
This dog is bigger than that one.

(236-1)	*dan*	*il-kelb*	*huwa*	*akbar*	*minn*	*dak*
	DEM.PROX.M.SG	DEF-dog.M.SG	COP.3SG.M	big.CMP	from	DEM.DIST.M.SG
(236-2)	*dan*	*il-kelb*	*huwa*	*ikbar*	*minn*	*dak*
	DEM.PROX.M.SG	DEF-dog.M.SG	COP.3SG.M	big.CMP	from	DEM.DIST.M.SG

3.1 節で触れたように，形容詞の比較級は不変化で性・数などで曲用しない．例文(236)でみるように，比較級の初頭母音には揺れがあるようである．

10-9　この犬がその犬たちの中で一番大きい．【最上級】
This dog is the biggest of the dogs

(237)	*dan*	*il-kelb*	*huwa*	*l-ikbar*	*fost*	*il-klieb*
	DEM.PROX.M.SG	DEF-dog.M.SG	COP.3SG.M	DEF-big.CMP	among	DEF-dog.PL

例文(234)でみるように，形容詞文の否定は【名詞述語文／コピュラ文の否定】と同様，繋辞 *huwa* の否定形によって示す. 形容詞文の部分否定は, 例文(235)で見るように, 否定表現と副詞 *daqshekk* ‘enough’, *wisq* ‘too much’ を組み合わせてつくる. 形容詞に対して, 副詞 *daqshekk* ‘enough’ はその直前に, 副詞 *wisq* ‘too much’ はその直後に置かれる．例文(236)，(237)でみるように，マルタ語の比較級・最上級は形態上の区別がない. 比較の対象は前置詞 *minn* ‘from’ によって, 範囲は前置詞 *fost* ‘among’ によって示される．

10-10　今日はあの人は来ない．【自動詞文の否定】
He will not come today.

(238)	*huwa*	***mhux***	*ġej*	*illum*
	3SG.M	**NEG**	come.APRT.M.SG	today

例文(238)では，定動詞ではなく，現在分詞が使用されている．

10-11　あの人はその本を持って行かなかった．【他動詞文の否定】
He did not take the book.

(239)　*huwa*　***ma***　*ħa***=*x***　*il-ktieb*　*(miegħ=u)*
3SG.M　**NEG**　take:PFV.3SG.M=**NEG**　def-book.m.sg　(of=3SG.M)

10-12　全ての学生が参加しなかった．／学生は全員参加しなかった．【数量の全部否定】
No student participated. / None of the students participated.

(240-1)　***l-ebda***　*student*　***ma***　*ħa*　*sehem*　/
DEF-none　student.M.SG　**NEG**　take:PFV.3SG.M　part.M.SG　/
ħadd　*mil=l-istudenti*　***ma***　*ħad-u*　*sehem*
nobody　from=DEF-studnet.PL　**NEG**　take:PFV-3PL　part.M.SG

(240-2)　***l-ebda***　*student*　***ma***　*pparteċipa*　/
DEF-none　student.M.SG　**NEG**　participate:PFV.3SG.M　/
ħadd　*mill-istudenti*　***ma***　*pparteċipa*
nobody　from=DEF-studnet.PL　**NEG**　participate:PFV-3PL

ここでは，先の例文(230)などで見た否定語 *l-ebda* ‘none’ のほかに，名詞 *ħadd* ‘nobody’ に前置詞 *minn* ‘from’ を組み合わせた表現が使用されている．前者と後者の違いは，後者では名詞が複数形となっていることである．

10-13　全ての学生が参加したわけではない．【数量の部分否定】
Not all of the students participated.

(241-1)　***mhux***　*l-istudenti*　*kollha*　*ħad-u*　*sehem*
NEG　DEF-student.PL　all　take:PFV-3PL　part.M.SG

(241-2)　***mhux***　*l-istudenti*　*kollha*　*pparteċipa-w*
NEG　DEF-student.PL　all　participate:PFV-3PL

例文(241)では，文頭に否定の *mhux* があり，これが文全体を否定しているものと思われる．（not [全ての学生が参加した] という構造である）．副詞 *kollha* ‘all’ は，これまでも幾度か例文で現れたが，類似の形式に副詞 *kollu* ‘all’ もある．前者 *kollha* が無標な表現で，後者 *kollu* は集合名詞にかかる場合に現れる（例文 88b など）．

10-14　（私は買わなかった．しかし，決して）値段が高いというわけではない．【文の否定】
It’s not that the price is too high.

(242)　*(**ma***　*xtra-jt=hie***=*x***　*imma*　*żgur)*
(**NEG**　buy:PFV-1SG=3SG.F=**NEG**　but　assuredly)
mhux　*għax*　*il-prezz*　*kien*　*għoli*
NEG　because　DEF-price.M.SG　be:PFV.3SG.M　high.M.SG

例文(242)は，「値段が高かったからというわけではない」というように，理由の節を導く *għax* ‘because’ の直前に否定の *mhux* が置かれ，これが理由節全体を否定する働きをしているものと考えられる．

10-15　走るな！【禁止】
Don’t run!
(243)　*t-iġri=**x**!*
2SG-run:IPFV=**NEG**

10-16　大きな声を出すな！【他動詞文の禁止】
Don’t make a loud noise!
(244)　*t-agħmil=**x***　*storbju!*
2SG-do:IPFV=**NEG**　noise.M.SG

例文(243)，(244)は，否定表現 *ma...=x* のうち，*ma* を省略すると否定命令の形式になる例である．

10-17　明日は雨は降らないだろう．【推量の否定】
It would not rain tomorrow.
(245)　*qis=ha*　***mhijiex***　*se*　*t-agħmel*　*ix-xita*　*għada*
seem=3SG.F　**3SG.F.NEG**　PROS　3SG.F-do:IPFV　DEF-rain.F.SG　tomorrow

先で見たように，アスペクト小詞を含む場合の否定は，小詞の直前に *mhux* を置くということであった（Borg and Azzopardi-Alexander 1997: 88）が，例文(245)のように主語と人称・性・数と一致した否定人称代名詞も使用できるようである（少なくともこの 3 人称・女性・単数では）．

10-18　あの人に聞こえないように，小さな声で話してくれ．【目的節の否定】
Speak quietly so that he doesn’t hear.
(246)　*t-kellem*　*b’=leħen*　*baxx*　*biex*　***ma***　*j-isma=**x***
2SG-speak:IPFV　with=voice.M.SG　low.M.SG　in_order　**NEG**　3SG.M-hear:IPFV=**NEG**

例文(246)は目的節内部の否定で，先の例文(231)は目的節自体の否定であると言える．否定表現は主節で起こるものと形式的な違いはないものと考える．

10-19　私はあなたを怒らせようと思ってそう言ったんじゃない．【否定のスコープの調節】
I didn’t say it to make you angry.
(247)　***m’**=għid-t=hie=**x***　*biex*　*n-irrabja=k*
NEG=say:PFV-1SG=3SG.F=**NEG**　in_order　1SG-irritate:IPFV=2SG

例文(247)では，単に動詞述語に否定表現が置かれている．

4.7 節「複文」でもみた従属節マーカー*li* が連体修飾的な形容詞節（adjectival clause）を形成する際に用いられる．Borg and Azzopardi-Alexander (1997: 35) によれば，形容詞節内の動詞が定なれば *li* の使用が必須である一方，形容詞節がかかる名詞が不定でかつ節内の動詞が未完結形の形式である場合 *li* の使用は任意となる．

[188] *ra-jt* *il-qattus* *li* *t-tfal* *xtra-w* *il-bieraħ*
see:PFV-1SG DEF-cat.M.SG SUB DEF-child.PL buy:PFV-3PL yesterday
I saw the cat which the children bought yesterday.

[189] *tifel* *(li)* *j-oqtol* *il-qtates,* *mhux* *se* *j-ibża’* *minn* *ġurdien*
child.M.SG (SUB) 3SG.M-kill:IPFV DEF-cat.PL NEG PROG 3SG.M-fear:IPFV from mouse.M.SG
A boy who kills cats is not going to be afraid of a mouse.

（Borg and Azzopardi-Alexander 1997: 35；グロスは筆者による）

Borg and Azzopardi-Alexander (1997: 35) によれば，形容詞節内において，主節の先行詞を受ける代名詞を置くことができる．Borg and Azzopardi-Alexander (1997: 36) は，特に，主節において主語で形容詞節で目的語といった統語関係が変わる場合に先行詞を代名詞で受ける場合が多いと述べている．

10-20 私が昨日買ってきた本はどこ（にある）？【内の関係の連体修飾節・目的語】
Where is the book (that) I bought yesterday?

(248) *fejn* *huwa* *qiegħed* *il-ktieb* *li* *xtra-jt* *jiena* *lbieraħ?*
where COP.3SG.M stay.APRT.M.SG DEF-book.M.SG SUB buy:PFV-1SG 1SG yesterday

従属節マーカー*li* が名詞 *ktieb* ‘book’ について形容詞節を形成している．形容詞節内で先行詞 *ktieb* を受ける代名詞などは見当たらない．

10-21 その本を持って来た人は誰（か）？【内の関係の連体修飾節・主語】
Who (was it that) brought this book?

(249) *min* *(kien* *dak* *li)* *ġab* *dan* *il-ktieb?*
who (be:PFV.3SG.M DEM.DIST.M.SG SUB) bring:PFV.3SG.M DEM.PROX.M.SG DEF-book.M.SG

10-22 この部屋が私たちの仕事をしている部屋です．【内の関係の連体修飾節・場所】
This is the room (that) we work in.

(250-1) *din* *hija* *l-kamra* *fejn* *n-aħdm-u*
DEM.PROX.F.SG COP.3SG.F DEF-room.F.SG where 1-work:IPFV-PL

(250-2) *din* *hija* *l-kamra* *li* *n-aħdm-u* *fi=ha*
DEM.PROX.F.SG COP.3SG.F DEF-room.F.SG SUB 1-work:IPFV-PL in=3SG.F

Borg and Azzopardi-Alexander (1997: 39-46) の副詞節の説明では挙げられていないが，例文(250)をみると，*fejn* ‘where’ が場所の副詞節を形成できるようだ．

10-23 足が一本折れたあの椅子はもう捨ててしまった．【内の関係の連体修飾節・所有者】
I already threw away the chair with a broken leg.

(251) *diġà* *rme-jt* *is-siġġu* *b=‘sieq* *miksur-a*
already throw:PFV-1SG DEF-chair.M.SG with=foot.F.SG break.PPRT-F.SG

10-24　ドアを叩いている音が聞こえる．【外の関係の連体修飾節】
I hear a knock on the door.

(252)　*qed*　*n-isma'*　*t-taħbit*　*ma=l-bieb*
PROG　1SG-hear:IPFV　DEF-knocking.M.SG　with=DEF-door.M.SG

例文(251)，(252)では関係節は使用されず，前者では前置詞句，後者では名詞句によった表現になっている．

10-25　あの人が結婚したという噂は本当（か）？【外の関係の連体修飾節】
Is it true that he has married?

(253-1)　*veru*　*li*　*żżewweġ?*
true.M.SG　SUB　marry:PFV.3SG.M

(253-2)　*il-qlajja'*　*li*　*huwa*　*żżewweġ*　*huma*　*minn=hom?*
DEF-rumour.PL　SUB　3SG.M　marry:PFV.3SG.M　COP.3PL　really=3PL

例文(253)を見ると，従属節マーカー*li* は内容を指示する機能があると言える．

10-26　私はその人が来た時にご飯を食べていた．【時間節】
I was eating lunch when he came.

(254)　*kon-t*　*qed*　*n-iekol*　*l-ikel*　*xħin*　*wasal*
be:PFV-1SG　PROG　1SG-eat:IPFV　DEF-cuisine.M.SG　while　arrive:PFV.3SG.M

10-27　私はその人が待っている所に行った．【場所】
I went (to) where he was waiting.

(255)　*mor-t*　*fejn*　*kien*　*qed*　*j-istenna*
go:PFV-1SG　where　3SG.M　PROG　3SG.M-wait:IPFV

10-28　私はその人が走っていったのを見た．【補文節・視覚】
I saw him run away.

(256)　*raj-t=u*　*j-iġri*
see:PFV-1SG=3SG.M　3SG.M-run:IPFV

10-29　昨日の夜，私は彼らがしゃべっているのを聞いた．【補文節・聴覚】
Last night, I heard them talking.

(257)　*il-lejl*　*li*　*għadda,*　*sma-jt=hom*　*j-itkellm-u*
DEF-night.M.SG　SUB　pass:PFV.3SG.M　hear:PFV-1SG=3PL　3-speak:IPFV-PL

動詞 *ra* 'see'，*sema'* 'hear' などの知覚動詞は，このように定動詞を伴なうことができる．

10-30　私はその人が昨日ここに来たことを知っている．【補文節・知識】
I know (that) he came here yesterday.

(258)　*n-af*　*li*　*ġie*　*hawn(hekk)*　*ilbieraħ*
1SG-know:IPFV　SUB　come:PFV.3SG.M　here　yesterday

10-31　（昨日）彼は彼が今日ここに来たと言った．／（昨日）彼は，「私は今日ここに来た」と言った．【補文節・直接発話／間接発話】
He said (that) he came here yesterday. / He said, “I came here yesterday.”

(259-1)　*huwa*　*qal*　*li*　*ġie*　*hawn(hekk)*　*ilbieraħ*　/
3SG.M　say:PFV.3SG.M　SUB　come:PFV.3SG.M　here　yesterday　/

(259-2)　*huwa*　*qal,*　*“kon-t*　*hawn(hekk)*　*ilbieraħ.”*
3SG.M　say:PFV.3SG.M　be:PFV-1SG　here　yesterday

10-32　私はリンゴが（あの）皿の上にあったのを食べた．【内在節・従主・主主】
I ate the apple (lying) on the plate.

(260)　*jiena*　*kil-t*　*it-tuffieħa*　*(mitluq-a)*　*fuq*　*il-platt*
1SG　eat:PFV-1SG　DEF-apple.F.SG　(leave.PPRT-F.SG)　on　DEF-plate.M.SG

例文(260)は，節化を伴わず受動分詞を用いた表現となっている．

10-33　私はネコが家に入ってきたのを捕まえた．【内在節・従主・主目】
I caught the cat coming into the house.

(261-1)　*qbad-t*　*lil-l-qattus*　*dieħel*　*f=id-dar*
catch:PFV-1SG　OBJ=DEF-cat.M.SG　enter.APRT.M.SG　in=DEF-house.F.SG

(261-2)　*qbad-t*　*lil-l-qattus*　*jidħol*　*f=id-dar*
catch:PFV-1SG　OBJ=DEF-cat.M.SG　3SG.M-enter:IPFV　in=DEF-house.F.SG

例文(261)では「ネコ」の様態を表すのに現在分詞のほか，例文(256)，(257)のように定動詞を補語として用いた表現が可能である．

記号/略号一覧

-: 接辞境界，=: 接語境界，1, 2, 3: 人称，M: 男性，F: 女性，SG: 単数，PL: 複数，COLL: 集合，CMP: 比較・最大級，DEF: 定冠詞，PN: 人名/地名，PFV: 完結形，IPFV: 未完結形，IMP: 命令形，PROS: 将然相，PROG: 進行相，DAT: 与格，APRT: 能動分詞，PPRT: 受動分詞，OBJ: 対格標識，NEG: 否定，COP: 繋辞，SUB: 従属節

参考文献

風間伸次郎. 2010.「[テーマ企画：特集アスペクト] まえがき」『語学研究所論集』15. 25-58. 府中: 東京外国語大学.

風間伸次郎. 2020.「英語：特集補遺データ「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」「他動性」「連用修飾複文」「情報構造と名詞述語文」「情報構造の諸要素」「否定、形容詞と連体修飾複文」」『語学研究所論集』25. 139-172. 府中: 東京外国語大学.

長渡陽一. 2002.「マルタ語の動詞語幹母音再建」『アジア・アフリカ言語文化研究』64. 153-172.

山本真司. 2010.「イタリア語において動詞 essere が「移動」を表す場合ー「出来事」と「結果」の関係についてー」『語学研究所論集』15. 151-160. 府中: 東京外国語大学.

依田純和. 2021.「マルタ語動詞体系の再編」『アラブ・イスラム研究』19. 181-214.

依田純和. 2024. 大阪大学外国語学部　世界の言語シリーズ 19『マルタ語』大阪: 大阪大学出版会.

Aquilina, Joseph. 1974. *The structure of Maltese : a study in mixed grammar and vocabulary*. Msida: University of Malta.

Brog, Albert & Marie Azzopardi-Alexander. 1997. *Maltese: Descriptive Grammars*. London: Routledge.

Cohen, David. 1970. *Études de linguistique sémitique et arabe*. The Hague: Mouton.

Fabri, Ray. 1995. The tense and aspect system of Maltese. In R. Thieroff (ed.), *Tempussysteme in europaeischen Sprachen*, Vol. II, 327-343. Berlin: Walter de Gruyter.

Fabri, Ray. 2010. Maltese. *Revue Belge de Philologie et d'Histoire*, 88(3), 791-816.

Koptjevskaja-Tamm, Maria (1996) Possessive noun phrases in Maltese: Alienability, iconicity, and grammaticalization. *Rivista di Linguistica*, 8.1, 245-274.

Peterson, John. 2009. "Pseudo-verbs": An analysis of non-verbal (co-)predication in Maltese. In B. Comrie, R. Fabri, E. Hume, M. Mifsud, T. Stolz & M. Vanhove (eds.), *Introducing Maltese Linguistics*, 181-204. Amsterdam, Philadelphia: John Benjamins.

Rossi, Ettore. 1936. Malta. In M. Th. Houtsma, A. J. Wensinck & E. Levi-Provençal (eds.), *Encyclopaedia of Islam: A Dictionary of the Geography, Ethnography and Biography of the Muhammadan Peoples*, First Edition, Vol. 3, 213-214. Leiden: E.J. Brill.

Vanhove, Martin, Catherine Miller & Dominique Caubet. 2009. The grammaticalisation of modal auxiliaries in Maltese and Arabic vernaculars of the Mediterranean area. In Björn Hansen, Ferdinand de Haan & Johan van der Auwera (eds.), *Modals in the Languages of Europe*. Berlin, New York: Mouton De Gruyter.

Vanhove, Martin. 2010. Mood in Maltese. In B. Rothstein. et R. Thieroff (éds.), *Mood systems in the languages of Europe.* 571-583. Amsterdam, Philadelphia: John Benjamins.

辞書

Aquilina, Joseph. 1987-1990. *Maltese-English dictionary*, Vol. 1-2. Valleta: Midsea Books.

資料

Ġabra: an open lexicon for Maltese. https://mlrs.research.um.edu.mt/resources/gabra/. [John J. Camilleri. 2013. *A Computational Grammar and Lexicon for Maltese*, M. Sc. Thesis. Chalmers University of Technology. Gothenburg, Sweden.]

執筆者連絡先：mykw.hrt@gmail.com
原稿受理：2025 年 12 月 15 日
刊行年月日：2026 年 3 月 31 日